

自治研かながわ 機関

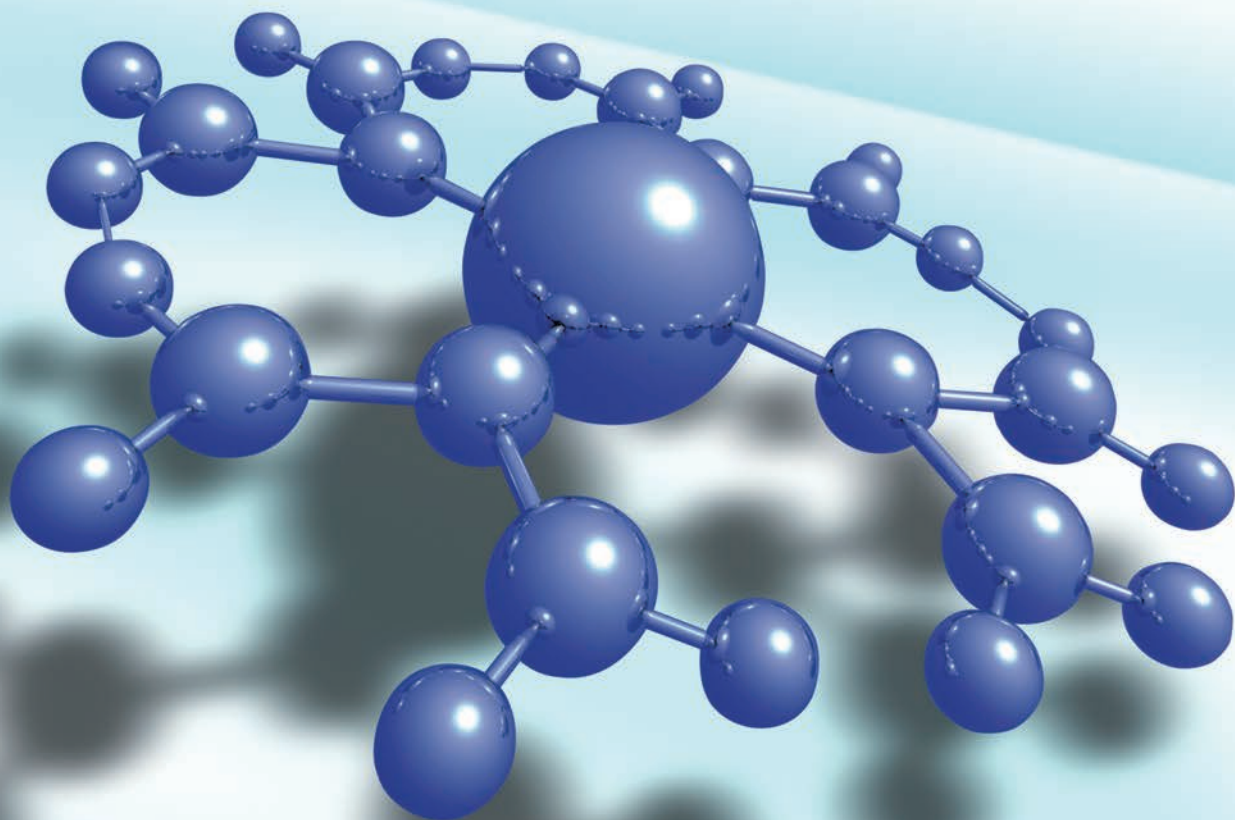
2013
特別号 No.139
(通算 203号)

CONTENTS

特集 2012年政権再交代の総選挙結果を分析する

公益社団法人神奈川県地方自治研究センター 理事長 上林 得郎 著

はじめに	1
第1部 全国の選挙結果の特徴と有権者の動向	2
第2部 神奈川県内の選挙結果とその特徴	21
資料編	43



公益社団法人 **神奈川県地方自治研究センター**

2012年政権再交代の総選挙を分析する

神奈川県地方自治研究センター理事長 上林 得郎

はじめに

第46回衆議院総選挙は、2012年12月16日に投開票が行われた。開票結果は、自民党が294議席、公明党が31議席を獲得し自公両党で325議席となり、衆院での3分の2以上の議席を獲得する大勝となった。

3年前の総選挙で大勝し政権運営を担っていた民主党は、選挙前のマスコミ予測をさらに下回る57議席しか獲得できず、公示前の230議席の4分の1となって歴史的敗北を喫することとなった。

一方、二大政党に対抗する第三極として初の国政選挙に臨んだ日本維新の会は54議席を獲得し第3党となった。2回目の国政選挙となったみんなの党は18議席と大幅に議席を伸ばした。嘉田由紀子滋賀県知事が代表となって結成された日本未来の党は9議席にとどまり、第三極内の党派による明暗が分かれた結果となった。

さらに共産党は選挙前の9議席が8議席に、社民党は5議席が2議席に、与党の一翼を担っていた国民新党は2議席から1議席に減少した。北海道の地域政党から国政政党となった新党大地は1議席に終わり、国政政党としての資格を失った。政党に所属しない無所属は、小選挙区で5議席を獲得した。

2009年8月の総選挙では、民主党が308

議席を獲得し、社民党と国民新党の3党による連立内閣ができ、自民党から総選挙による初の政権交代が行われたが、鳩山由紀夫、菅直人、野田毅と1年ごとに首相が交代するという政権運営の未熟さを露呈し、国民からの信頼を失って、ふたたび政権交代が行われることになった。

「二大政党制を軸とする政権交代のある政治」をめざして1994年に政治改革が行われ、1996年の総選挙から小選挙区比例代表並立制が採用された。そして前回の選挙による政権交代で政治改革の目的が達成されたように思われた。しかし、わずか3年で二大政党の一角が大きく崩れ、二大政党制の行方さえ危ぶまれる状況となった。選挙のたびに獲得議席が大きく揺れ動き「振り子現象」といわれる状況になり、今後の選挙制度が改めて問われた選挙であった。

この結果、自民・公明の両党による連立内閣が組まれることとなり、12月27日に国会で安倍晋三自民党総裁が首相に指名され、第2次安倍内閣が発足した。

この選挙の投票率（小選挙区）は全国で59.32%で、前回より約10ポイント下がって、過去最低だった96年の59.65%より低い戦後最低となり、投票者数は前回の7,202

万票から 6,167 万票に、1,095 万票も減少した。

前回の政権交代の熱気溢れた選挙風景から、一転して醒めた選挙状況となり、「『ブーム』もなければ『風』も吹かなかった」と朝日新聞に報道されたように、盛り上がりに欠けた選挙であった。選挙直前に新党が乱立し、国民がどの政党を選んで良いかわからなくなるとともに、6年間続けて毎年首相が交替す

るといふ不安定な政権運営が繰り返され、国民の政治不信が募ったためともいえる投票率の低さだった。

自民党の圧勝、民主党の大敗、第三極の浮沈の状況などについて、選挙結果と報道各紙の出口調査などを参考にしながら、この選挙結果を全国的状況と、神奈川県内の状況について分析することにする。

第 1 部 全国の選挙結果の特徴と有権者の動向

1. 党派別議席の消長と

選挙結果の特徴

(1) 選挙結果の党派別議席の変動

①自民党・公明党

各政党の議席獲得数は、図表 1 の通りである。自民党が公明党との選挙協力を行う選挙区を除いて 288 名の立候補者を擁立した小

選挙区で 237 議席を当選させ、そして重複立候補を含めて 326 人を擁立した比例区では 57 議席を獲得し、公示前の 118 から 294 議席へ大幅な議席増加を果たした。自民党と選挙協力を行った公明党は、小選挙区で立候補させた 9 名の全員当選を果たし、比例区でも小選挙区と重複立候補をさせずに 45 名の候補者を擁立し 22 議席を獲得し、あわせて 254 議席となった。

図表 1 第46回衆議院総選挙 当選者数

2012. 12. 4公示 12. 16執行

党派名 定数480	立候補 者数	当選者 数	女性	小選挙区(定数300)						比例代表(定数180)					公示前 議席 欠1	女性
							計	女性				計	女性	復活 当選		
				前	元	新			前	元	新					
自 民	337	294	23	100	60	77	237	16	5	10	42	57	7	39	118	8
民 主	267	57	3	26	0	1	27	0	30	0	0	30	3	30	230	26
維 新	172	54	5	4	0	10	14	0	5	6	29	40	5	32	11	0
公 明	54	31	3	2	4	3	9	0	13	2	7	22	3	0	21	3
み ん な	69	18	0	4		0	4	0	2	0	12	14	0	13	8	0
未 来	121	9	3	2	0	0	2	0	7	0	0	7	3	7	62	13
共 産	322	8	1	0	0	0	0	0	8	0	0	8	1	2	9	1
社 民	33	2	0	1		0	1	0	0	0	1	1	0	1	5	0
大 地	7	1	0	0		0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0
国 民 新	3	1		0		1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
新 日 本	1	0		0			0	0							1	0
改 革	2	0							0	0	0	0	0	0	0	0
諸 派	67	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無 所 属	49	5	0	3	1	1	5	0							9	0
計	1,504	480	38	142	65	93	300	16	71	18	91	180	22	124	479	43

自民・公明の両党で衆院議席の3分の2(320)を上回る325議席となったことにより、現在、参議院では自民・公明以外の党派が過半数を占めているが、仮に法案が参議院で否決されても、衆議院で3分の2の特別多数の議決で法案の成立が可能になる議席を得たことになる。今年7月に予定される参議院選挙にむけて、自・公両党は参院での安定多数を得るべく連携を深めていくものと予想される。

②民主党

解散前まで政権を握っていた民主党は、264名の候補者を擁立した小選挙区では、結党当時の1996年の17議席をわずかに10議席を上回る27議席を獲得できたに過ぎず、前回の221議席の1割強しか得られなかった。重複を含めて267名を擁立した比例区でも大幅に得票を減らし、96年の35議席を下回る30議席という結党以来の最低の議席しか得られなかった。小選挙区と比例区あわせて57議席となり前回議席の2割にも満たず、かろうじて第2党の地位は保ったものの、3位の日本維新の会との議席差は3というきわどい状態であり、壊滅的敗北と言えよう。

③第三極、日本維新の会・みんなの党・日本未来の党

結党して3ヶ月足らずの日本維新の会は、初の国政選挙に小選挙区で151名を擁立したが、橋下市長の地元大阪で12議席と圧倒的な強さを示したものの、他県では伸びず、太陽の党からの合流組の2名が当選しただけであった。しかし、比例区では、全国的に大きく得票を得て、民主党を10議席超える40議席を獲得し、あわせて54議席となり、第3党となった。

前回の総選挙直前に自民党から分かれて結党したみんなの党は、2回目の総選挙となり、

小選挙区で65名を擁立したが4議席にとどまったものの、比例区では大幅な得票増加となり14議席を獲得した。2010年の参院選で躍進したのに続いて、公示前の8議席を18議席にのばし、第三極の本家を任じる議席を確保した。

衆議院の解散から10日後に急遽結党した嘉田由紀子滋賀県知事を代表とする日本未来の党は、民主党を離党した小沢一郎氏が率いる「国民の生活が第一」と合流してあわただしく選挙に臨んだ。小選挙区では前職53名を含む111名を擁立したものの、小沢氏と亀井静香氏の2名の当選にとどまり、比例区でも重複立候補を含めて104名を擁立したが、復活当選の7名にとどまった。公示前の62名がわずかに9名となる大敗北である。

④共産党・社民党

共産党は、立候補を重点化した前回と違って小選挙区で299名とほとんどの選挙区で候補者を擁立したが、前回同様小選挙区での議席獲得にはいたらなかった。比例区では単独候補を中心に35名を擁立したが、得票は伸びず前回より1議席減らして8議席であった。

社民党は、小選挙区では23名を擁立したが、沖縄で前職が当選しただけで、他の地域では議席獲得にはいたらなかった。比例区でも得票は伸びず、九州ブロックで1議席獲得しただけで合計2議席となり、前回の7議席から大幅な減少である。参議院の4議席と合わせて辛うじて国政政党の地位にとどまっている。

⑤その他の党派

民主党と連立内閣を組んでいた国民新党は、鹿児島で1名だけ擁立し当選を果たしたものの、参院の3議席を含めても国政政党の資格を失ってしまった。

北海道の地域政党であった新党大地は、2011 年末に民主党離党者と独自の参議院議員を含め「新党大地・真民主」として国政政党の要件を満たしていたが、今回の選挙にあたって「新党大地」に改名して選挙に臨んだ。小選挙区で7名、比例区でも重複の7名を擁立したが、北海道ブロックでの比例復活当選1議席にとどまり、国政政党としての要件を喪失した。

田中康夫氏が代表である新党日本は、代表1名だけが小選挙区で立候補したが、当選にいたらなかった。

新党改革は、2010年に自民党を離党した議員で「改革クラブ」が結成され、舛添要一参議院議員と合流し新党改革となったものであるが、今回の選挙で東北と東京ブロックで比例区2名を擁立したが当選にはいたらなかった。

宗教法人・幸福の科学を母体とする幸福実現党は、前は小選挙区と比例区に候補者を擁立していたが、今回は比例区のみで42名が立候補し、当選者はいなかった。その他の諸派から小選挙区で25名が立候補したが、議席は得られなかった。

⑥無所属

政党に属さない無所属の候補者は小選挙区だけに立候補できるが、49名が立候補し、前職3、元職1、新人1の5名が当選した。当選者はいずれも自民党からの離党者であり、山形3区では公認争いから無所属で立ち、自民公認の加藤紘一元幹事を破っての当選である。

以上、この選挙における各党派の議席の動向だけを見てきた。選挙時の政党数は政権交代を果たした自民党から数えて13の党派となっていたものの、国会議員5名以上という政党助成法の定める政党助成金の交付を受け

られる党派は、選挙の結果により8党に絞られたことになる。

(2) 選挙結果の特徴

①小選挙区における「振り子現象」

1つの選挙区で1名だけが当選できる小選挙区制の特徴として、選挙ごとに当選者が変わることがしばしば起きる。特に大都市を抱える府県でオセロゲームのように毎回当選者が入れ替わることを、マスコミは「振り子現象」と呼んでいる。

図表2は、首都圏、中部圏、近畿圏でこの3回の選挙の結果の変化を選挙区別に党派を識別してみたものである。

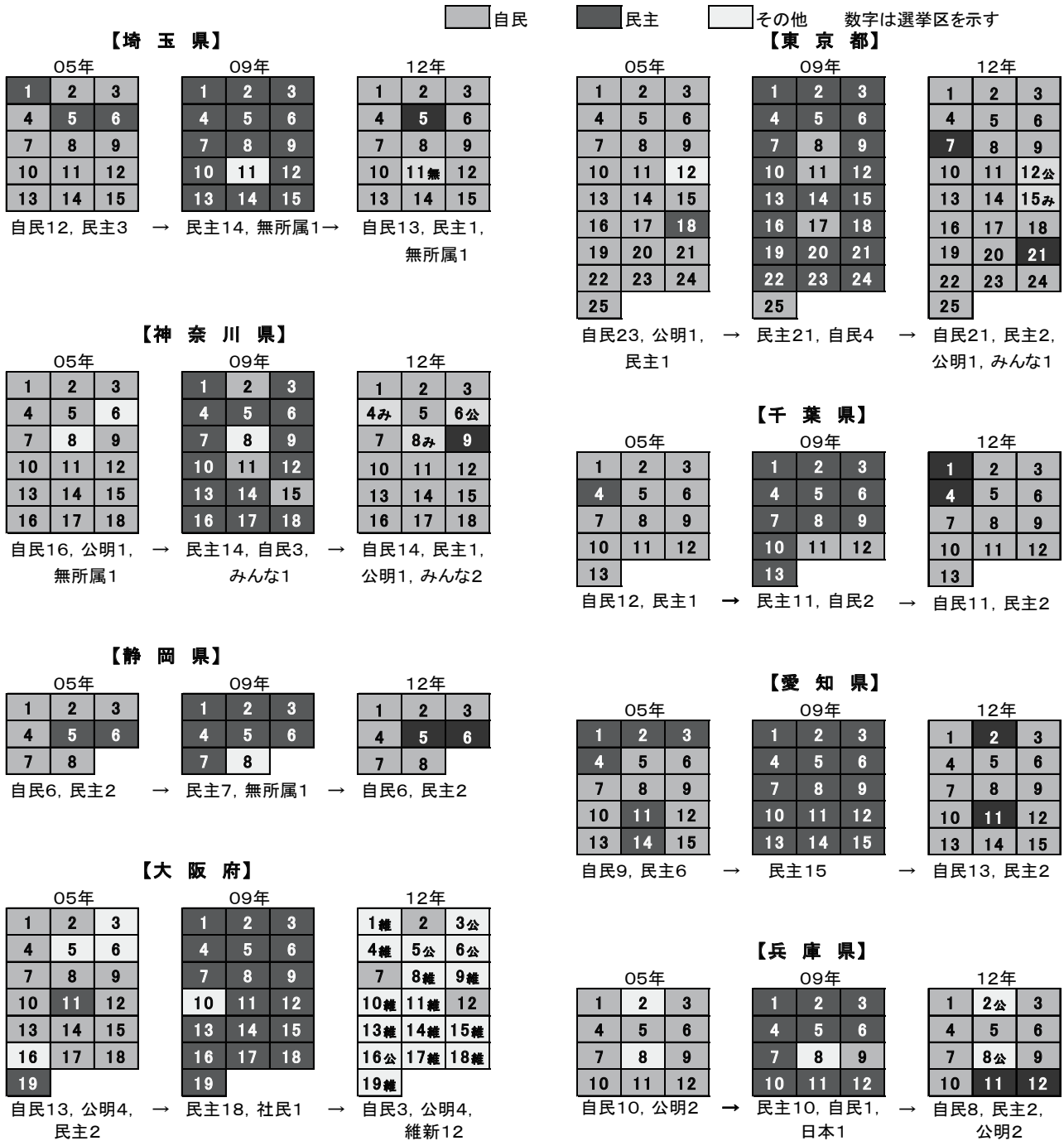
まず首都圏（埼玉・千葉・東京・神奈川）では、71選挙区のうち49選挙区（69%）で当選者が交替している。2005年は自民・公明が大勝したが、2009年は民主党が大勝し、今回また自民・公明が大勝したことが良く表れている。

中部圏（名古屋・静岡）でも23選挙区のうち18選挙区（78%）で自公→民主→自公の変化が生じている。

近畿圏（大阪・兵庫）では31選挙区のうち15選挙区（48%）で自公→民主→自公が交替している。しかし、今回は大阪で前回の民主から維新の会への交替が12選挙区であり、維新の会の躍進を表している。

こうした振り子現象は、北海道・新潟・福岡でも起こっており、全国に波及している。この結果、府県ごとに見ると小選挙区における自民党の独占状況が多数生じていた。青森、秋田、群馬、新潟、富山、石川、福井、岐阜、滋賀、鳥取、島根、山口、徳島、愛媛、高知、佐賀、長崎、大分、宮崎の19県が自民の独占となった。このうち、滋賀・長崎では前は民主が独占していたものが逆転したのである。

図表2 小選挙区 首都圏・中部圏・近畿圏の勝敗の変化



さらに、公明、維新、みんなの党の躍進に伴い、小選挙区で民主党が議席をまったく持たない道府県が前記の19県に北海道、山形、栃木、大阪、岡山、広島、福岡、沖縄の8道府県が加わり、合わせて27道府県に及んで

いる。民主党の惨敗ぶりが良く表れている。

我が国の政党に対する国民からの支持率は決して高くない。通常の世論調査では、4～5割が「政党支持なし」と答えており、いわゆる無党派層が多いのが特徴である。経験則

から見て、無党派層の3分の1は政治にまったく無関心で選挙にはいつも棄権する層であり、3分の1は状況に応じて選挙ごとに選ぶ候補者を替える、政治用語で言う「ヨコ移動」の層であるとされ、残りの3分の1が選挙状況によって投票と棄権を選ぶことがある「タテ移動」の層といわれている。この無党派層の動向が選挙結果を大きく左右することになる。

今回は、意識して選挙に行かないタテ移動と、選ぶ政党を変えるヨコ移動が同時に起きたものと見られる。投票率の大幅な低下、民主党への不支持の激増、それに対する地域組織が根づいている自民・公明の組織票がその効果を現したものと見えそうである。

②小選挙区の獲得議席と得票率との乖離

2005年から今回の選挙までの党派別議席

図表3 3回の選挙の党派別議席数・得票数の推移

※投票率はいずれも小選挙区のもの

政党名	選挙区分	2005年9月11日(投票率67.51%)				2009年8月30日(投票率69.28%)				2012年12月14日(投票率59.32%)			
		議席数	議席占有率	得票数	得票率	議席数	議席占有率	得票数	得票率	議席数	議席占有率	得票数	得票率
自民党	小選挙区	219	73.0%	32,518,389	47.8%	64	21.3%	27,301,982	38.7%	237	79.0%	25,643,309	43.0%
	比例区	77	42.8%	25,887,798	38.2%	55	30.6%	18,810,217	26.7%	57	31.7%	16,624,457	27.6%
	合計	296	61.7%			119	24.8%			294	61.3%		
民主党	小選挙区	52	17.3%	24,804,786	36.4%	221	73.7%	33,475,334	47.4%	27	9.0%	13,598,773	22.8%
	比例区	61	33.9%	21,036,425	31.0%	87	48.3%	29,844,799	42.4%	30	16.7%	9,628,653	16.0%
	合計	113	23.5%			308	64.2%			57	11.9%		
維新の会	小選挙区									14	4.7%	6,942,353	11.6%
	比例区									40	22.2%	12,262,228	20.4%
	合計									54	11.3%		
公明党	小選挙区	8	2.7%	981,105	1.4%	0	0.0%	782,984	1.1%	9	3.0%	885,881	1.5%
	比例区	23	12.8%	8,987,620	13.3%	21	11.7%	8,054,007	11.4%	22	12.2%	7,116,474	11.8%
	合計	31	6.5%			21	4.4%			31	6.5%		
みんなの党	小選挙区					2	0.7%	615,244	0.9%	4	1.3%	2,807,244	4.7%
	比例区					3	1.7%	3,005,199	4.3%	14	7.8%	5,245,586	8.7%
	合計					5	2.8%			18	10.0%		
未来の党	小選挙区									2	0.7%	2,992,365	5.0%
	比例区									7	3.9%	3,423,915	5.7%
	合計									9	1.9%		
共産党	小選挙区	0	0.0%	4,937,375	7.3%	0	0.0%	2,978,354	4.2%	0	0.0%	4,700,289	7.9%
	比例区	9	5.0%	4,919,187	7.3%	9	5.0%	4,943,886	7.0%	8	4.4%	3,689,159	6.1%
	合計	9	1.9%			9	1.9%			8	1.7%		
社民党	小選挙区	1	0.3%	996,007	1.5%	3	1.0%	1,376,739	2.0%	1	0.3%	451,762	0.8%
	比例区	6	3.3%	3,719,522	5.5%	4	2.2%	3,006,160	4.3%	1	0.6%	1,420,790	2.4%
	合計	7	1.5%			7	1.5%			2	0.4%		
国民新党	小選挙区	2	0.7%	432,679	0.6%	3	1.0%	730,570	1.0%	1	0.3%	117,185	0.2%
	比例区	2	1.1%	1,183,073	1.7%	0	0.0%	1,219,767	1.7%	0	0.0%	70,847	0.1%
	合計	4	0.8%			3	0.6%			1	0.2%		
新党大地	小選挙区								0.0%	0	0.0%	315,604	0.5%
	比例区	1	0.6%	433,938	0.6%	1	0.6%	433,122	0.6%	1	0.6%	346,848	0.6%
	合計	1	0.2%			1	0.2%			1	0.2%		
新党日本	小選挙区	0	0.0%	137,172	0.2%	1	0.3%	200,223	0.3%	0	0.0%	62,697	0.1%
	比例区	1	0.6%	1,643,506	2.4%	0	0.0%	528,171	0.8%	0	0.0%		0.0%
	合計	1	0.2%			1	0.2%			0			
無所属他	小選挙区	18	6.0%	3,258,764	4.8%	2	0.7%	3,100,248	4.4%	5	1.7%	1,109,102	1.9%
	比例区	0	0.0%			1	0.6%	524,927	0.7%	0	0.0%	350,931	0.6%
	合計	18	3.8%			3	0.6%			5	1.0%		
合計	小選挙区	300	100.0%	68,066,291	100.0%	300	100.0%	70,581,678	100.0%	300	100.0%	59,626,567	100.0%
	比例区	180	100.0%	67,811,069	100.0%	180	100.0%	70,370,255	100.0%	180	100.0%	60,179,888	100.0%
	合計	480	100.0%			480	100.0%			480	100.0%		

数・議席占有率と得票数・得票率の推移を見たのが、図表3である。2005年の郵政選挙では自民党が296議席を獲得し圧勝であったが、2009年の選挙は民主党が308議席を獲得し政権交代が行われた。そして今回は、既述の通り自民党が294議席を獲得し再び政権交代となったわけである。

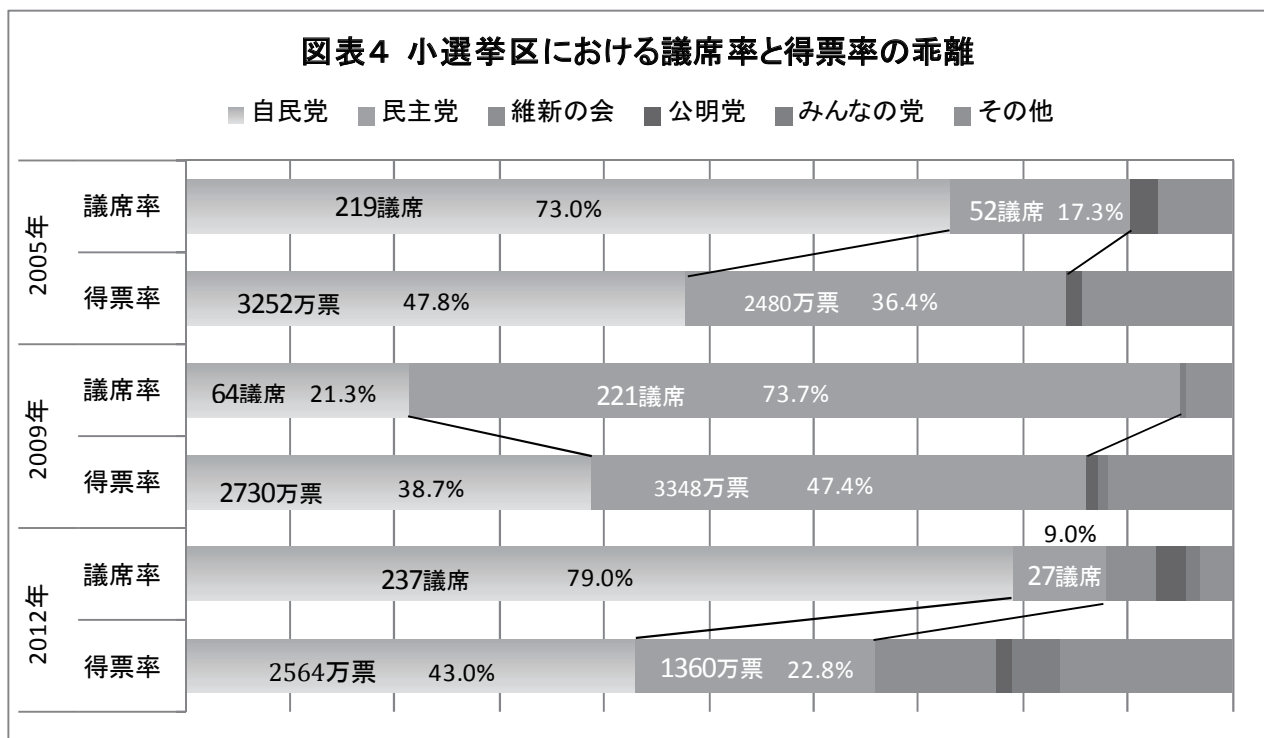
それぞれの選挙における小選挙区における得票数を見ると、自民党は2005年が3,252万票（得票数は千の単位を四捨五入している）、09年が2,730万票で522万票の減少、そして今回が2,564万票で166万票の減少と選挙ごとに得票数を減らしている。にもかかわらず、小選挙区の議席は、05年の219議席が、09年には64議席に減少し、今回は237議席と大きく増加しており、議席の変動が大きくなっている。

同じく民主党の小選挙区得票数は、05年が2,480万票、09年が3,348万票で860万票の増加、今回が1,360万票で1,988万票（約2,000万票）と大幅に減少しているのが

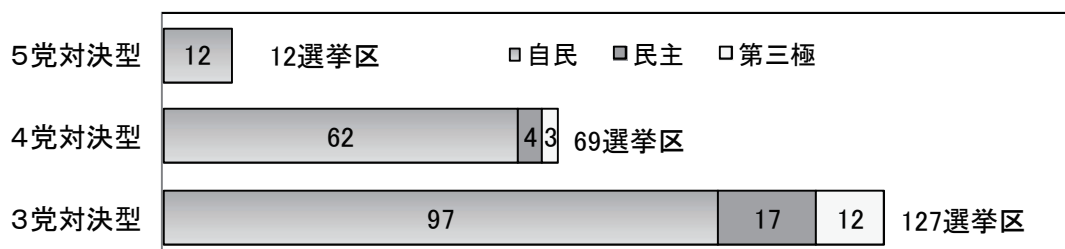
特徴である。議席数は05年に52議席、09年に221議席と大幅に増加したが、今回は194議席減の27議席で、大幅な議席減少となっている。

それぞれの選挙における議席数と議席占有率、得票数と得票率の変化を党派別に比較したのが、図表4である。2005年は、自民党が47.8%の得票率で73%の議席を獲得し、民主党は36.4%の得票率で議席は17.3%しか得られなかった。2009年の選挙では、逆に民主党が47.4%の得票率で73.7%の議席を獲得し、自民党は38.7%の得票率を得たものの議席は21.3%しか得られないという、05年と党派を逆転して全く同じ現象が生じていた。そして今回は、自民党が得票数を減らしながら、得票率も43%と4ポイントほどの増加でしかないにもかかわらず、議席は79%を獲得している。

今回自民党が小選挙区で獲得した237議席（定員の79%）は、1996年にはじめて小選挙区制を導入して以来、最大の議席獲得数



図表5 第三極との競合選挙区での勝利状況



となったのである。小選挙区制は、もともとひとつの選挙区で他の候補者よりも1票でも多く獲得した候補者が当選する仕組みである。したがって、勝利した候補者以外の候補者に入れた得票は「死票」になる仕組みであるから、全体の得票数と獲得した議席率は大きく乖離するのが当然である。

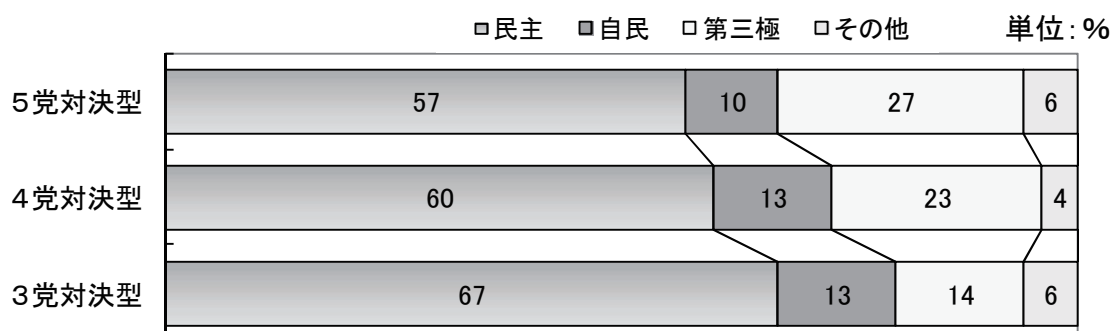
「小選挙区制は、二大政党制をもたらす」という政治学のセオリーどおり、2003年以降は自民党と民主党が二大政党として政権の座を争ってきたのは事実である。しかし今回の選挙では、二大政党の一翼を担う民主党が大きく後退したのには、後に述べる民主党の政権運営の未熟さにより「民主党に投票したくない」という有権者の意識とともに、二大政党の間に入るべき第三極の影響が大きかったといえる。

③第三極の進出が自民党に「漁夫の利」

自民（公明）と民主の両党の候補者以外に、維新の会、みんなの党、日本未来の党のいわゆる第三極を目指す党とが、小選挙区で競合した選挙区での選挙結果をみたのが図表5である。第三極の3党が全て候補者を出した5党対立型の12選挙区では、自民党が全勝している。三極のうち2党が候補者を出した4党対立型の69選挙区では、自民党が9割の62選挙区で勝利しており、民主が4、第三極が3名（うち維新2）当選となっている。三極のうち1党が候補者を立てた3党対立型の127選挙区では、自民党が97選挙区（76%）で勝利し、民主党は17名、第三極が12名（うち維新9）、無所属1名の当選となっている。

このように、第三極の立候補によって、自

図表6 民主党支持層は第三極との競合区でどこに投票したか



※出所：朝日新聞出口調査

民に対抗する勢力が分散し、結果的に自民党が「漁夫の利」を得たともいえる。それは、朝日新聞の出口調査によれば、図表6のように、民主党支持者が民主党に投票したのは、5党対立型の選挙区では57%、4党対立型では60%、3党対立型では67%で、第三極の候補が多くなればなるほど民主党支持層が第三極の党に流れた傾向を読み取ることができる。

④比例代表は得票と議席がほぼ比例

比例代表は、獲得した得票数に応じて一定の計算式（我が国ではドンド式）によって議席を配分するので、得票数と議席の獲得比率とはあまり大きな差は生じない。

図表7のように、2005年では自民党が得票率38.2%で議席を42.8%獲得し、民主党が31%の得票で33.9%の議席を得た。09年は民主党が42.4%の得票で48.3%の議席を得たのに対して、自民党は26.7%の得票で30.6%の議席を得た。今回は自民党が

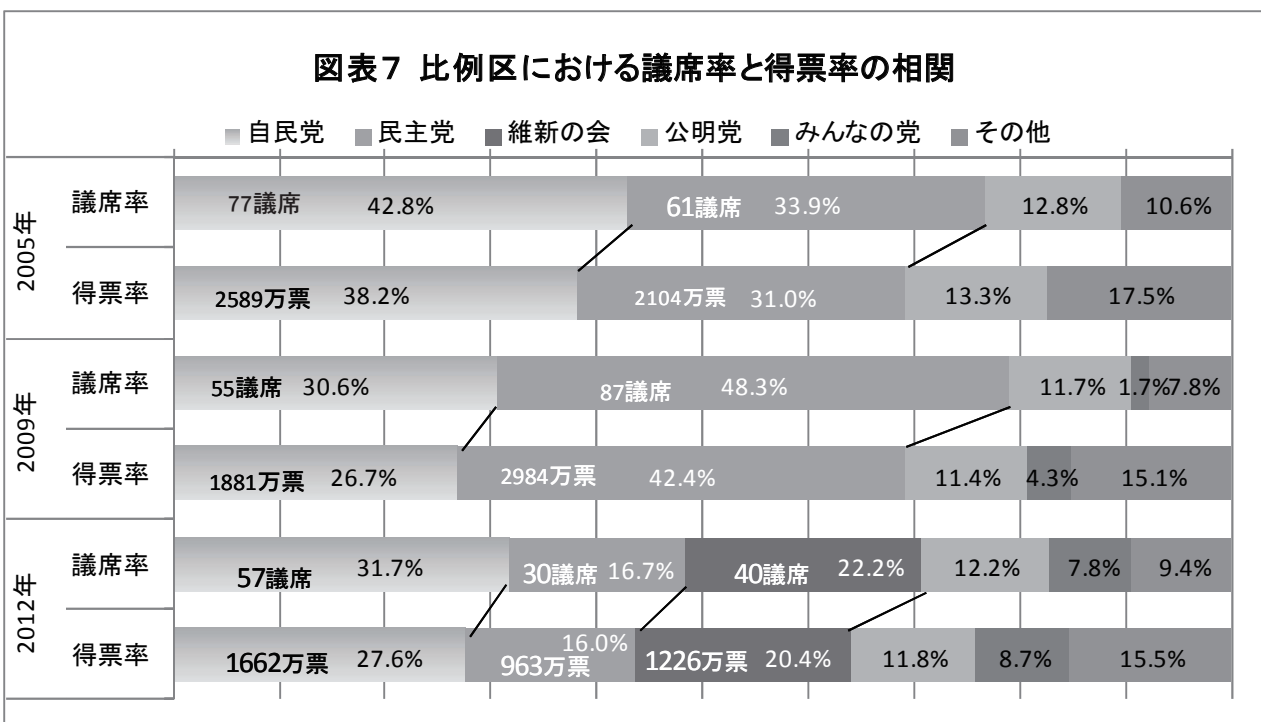
27.6%の得票で31.7%の議席を得て、維新の会も20.4%の得票で22.2%の議席を得たが、民主党は16.0%の得票で16.7%の議席を得ている。

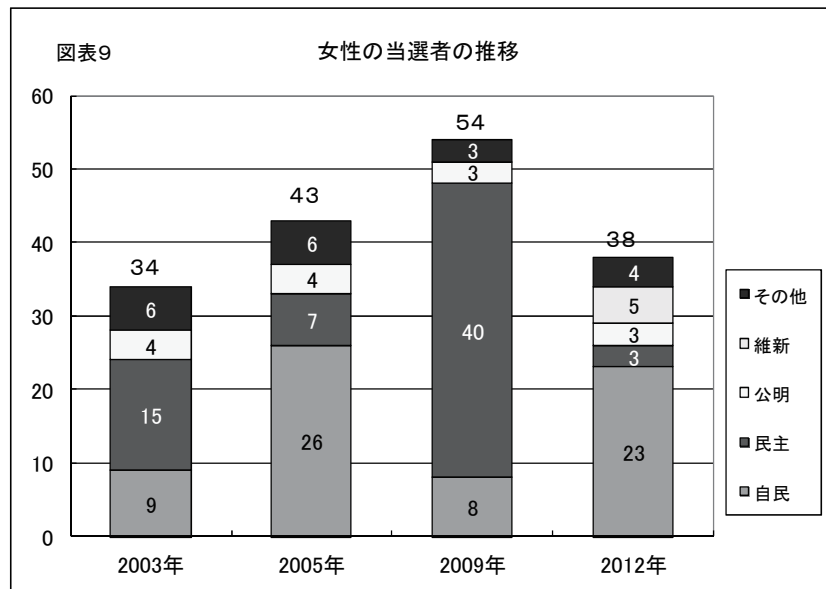
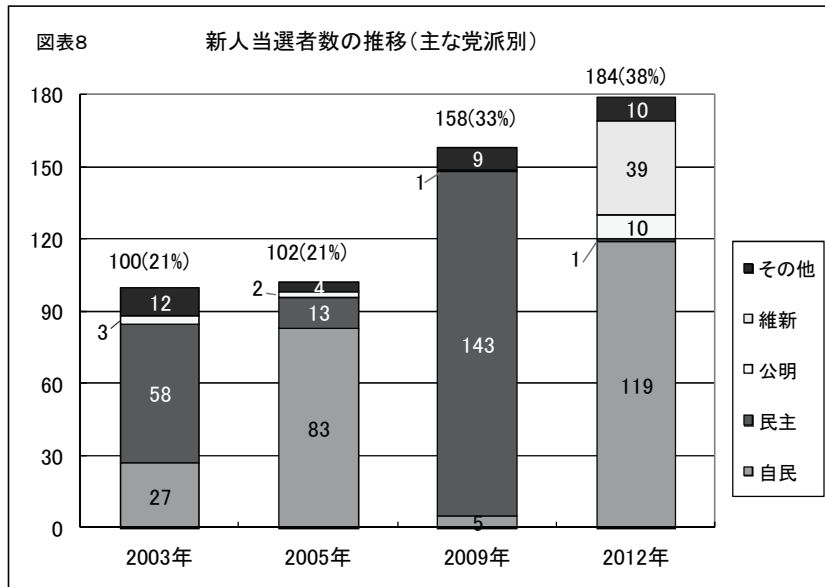
ドント式による議席の配分は、大量に得票を得た党派が得票率よりもやや多い議席を獲得している傾向は見られるものの、小選挙区のような大きな乖離は生じていない。

選挙制度によって、極端な乖離を生じる可能性のある小選挙区制と、比較的乖離の少ない比例代表制の組み合わせにより、政権交代の可能性を見いだしたのが1994年の政治改革（選挙制度改革）であった。制度施行から6回の選挙を経て、一票の格差問題とあわせて、改めて選挙制度のあり方が問われることになったものと言える。

⑤新人当選者の増加と女性議員の減少

今回の選挙の特徴として第三極の新党の進出があるが、これと合わせて当選者のうち新人が多かったことが挙げられる。図表8のよ



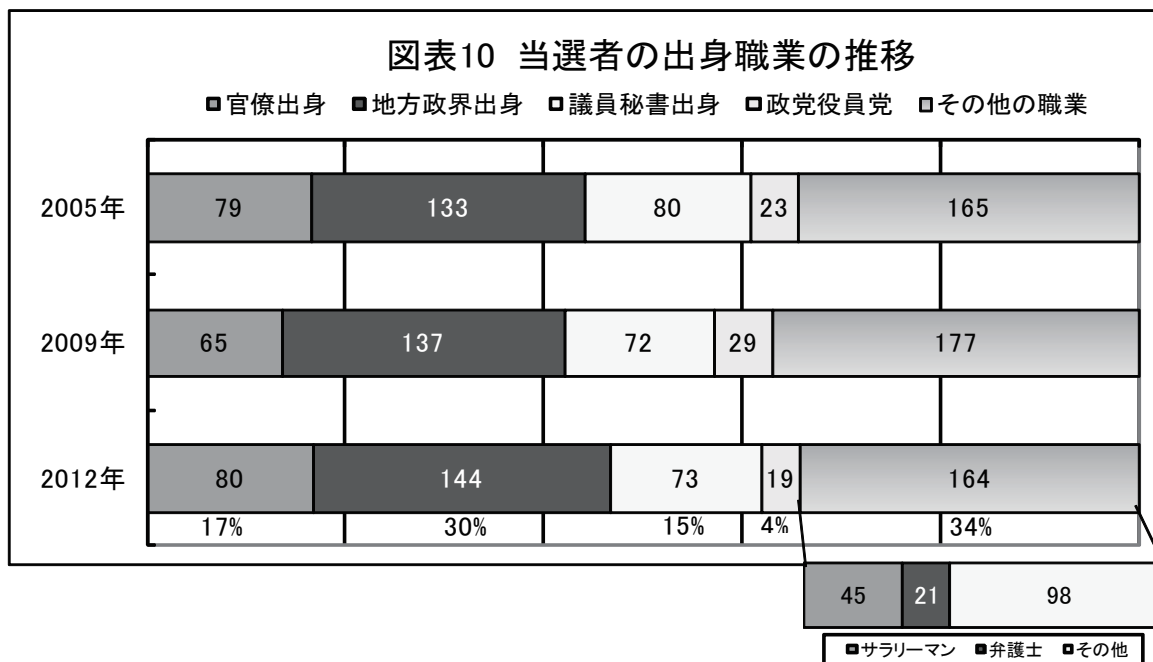


うに、前回の選挙から新人の当選割合が高まってきた。民主党が躍進した前回は、民主党の新人議員が143名で党の議員総数の42%を占め、ひとつの党派からの新人当選数は過去最大のものであった。

今回は、大勝した自民党が119人で新人の割合が4割となっており、前回の民主党に次ぐ多さである。初めて国政に挑戦した維新の会は、当然ながら新人が多く39名で72%を占めていた。公明党も比例代表を中心にし

て新人を擁立したことにより、10名の新人が当選した。この結果、新人の当選者は184人、38%になり、戦後第1回の総選挙に次ぐ新人の多さであった。

これに対して、女性の議員は減少している。図表9は、この4回の選挙での女性の当選者数を見たものである。前回54名の女性議員が誕生し、初めて1割を超え(11%)て注目され、特に民主党の議員が多かった。今回は38名8%にとどまってしまった。女性議



員が多かった民主党が大敗したことと関連があり、2005年の43名よりも少なくなりました。先進国の中でも女性の社会進出が遅れているといわれる我が国だが、国会議員はさらに遅れた男性社会になっているようだ。お隣の韓国が「クオータ（割り当て）制」を導入して16%の国会議員が女性になっていることから、比例代表での「女性枠」も検討される時期かもしれない。

なお、480名の国会議員の出身職業を見たのが、図表10である。今回の選挙の当選者は、地方政界出身者が144人30%と多くなっていることが目につく。首長や地方議員の経験を持った国会議員が増えることは、地域の意見を反映できることから賛成できる。党派別に見ると自民党が96人33%、民主党が17人30%、維新の会が16人30%などとなっている。

次に多かったのは官僚出身者で80名17%となっており、自民党が46人16%、民主党が12人21%、維新の会が11人20%などとなっている。次が議員秘書で73人15%とな

っており、自民54人18%、維新9人17%となっていた。その他の職業が164名で最も多いが、その中で民間サラリーマン出身者が45人9%、弁護士21人4%などであった。

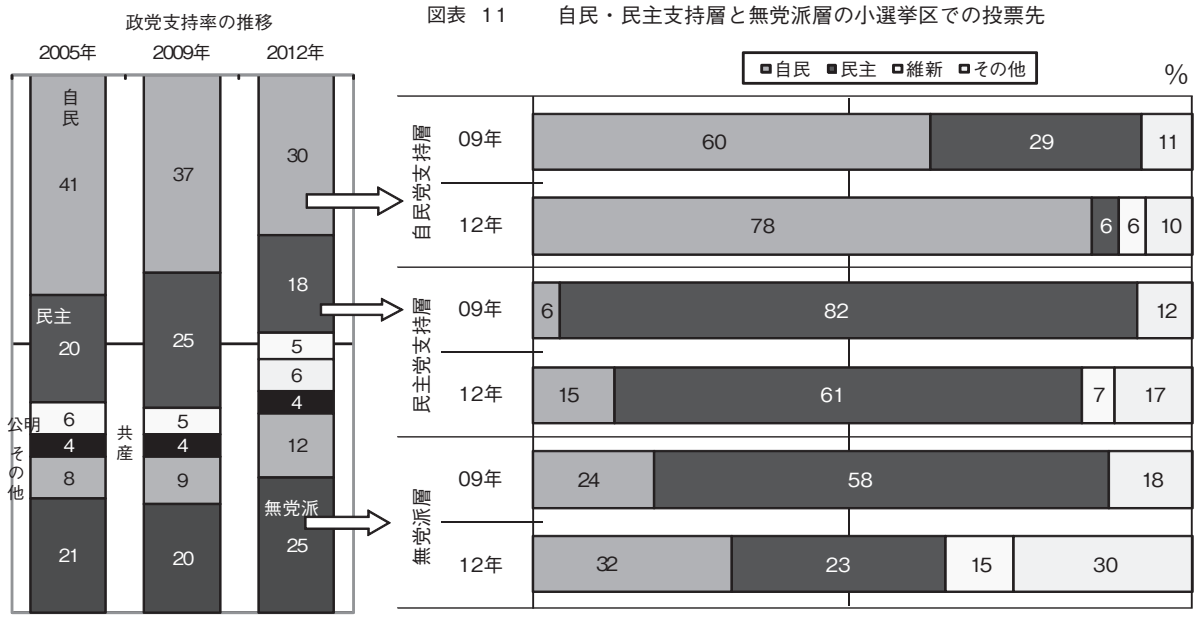
2. 自民党大勝・民主党惨敗の要因と第三極の動向

（1）自民党への消極的支持が

相対的な勝利へ

図表11は、2005年から3回の選挙における朝日新聞の出口調査のデータをもとにして図表化したものである。政党支持層の推移では、自民党の支持率は05年の41%から09年の37%へ、今回12年は30%まで下がってきている。小選挙区・比例区とも既に見たとおり大きく得票を減らしてきている。その中で今回大勝した理由はなぜだろうか。

一つは、自民党は支持率を下げながらも、小選挙区で前回は60%しか支持層を固められず民主党に29%も流れていた。今回は小



※出所：朝日新聞による各選挙日の出口調査から上林作成

選挙区で 78%と着実に固めきったことである。前回は「自民党には入れたくない」として一種の自民党への「懲罰投票」になっていたが、今回は逆に「民主党には入れたくない」層が増加して民主党への「懲罰投票」になったことで、相対的勝利となったのである。また、無党派層の投票行動を見ても、前回は自民党への投票は 24%であったものが、今回は 32%と大きく増加していることが分かる。

二つめは、選挙近くになって維新の会を始めとする新党が次々に誕生したが、いわゆる第三極の党は政治的経験も十分でなく、政治を託すまでになってはいない。民主党政権は政権運営の未熟さが露呈して、政治的には不安定な状況が連続していた。テレビ討論をみても 10 数人の党首が首を並べていても断片的な言い合いだけをしており「シラケてしまった」のではなかろうか。その中でも小選挙区では、政権運営の経験を持つ自民党が「よりましたではないか」と消極的な支持が集まり勝利に結びついたものである。

三つめには、投票率の低かったことが当選ラインを低くして、個人後援会を中心とした基礎票を持つ自民党が相対的に優位に立ち、その自民党を支える公明党の組織票の厚みに下支えされて、小選挙区での大勝を呼びこんだものである。社会にはさまざまな政治への不満が充満していたが、10 以上の党が林立していても政策の違いが分かりづらかった。公示後にマスコミの世論調査で「自民党は過半数確保の見通し」と報道されると、「自分が投票しなくてもたいしたことはない」という気分が蔓延し、棄権を選択することとなり、投票率の低下に結びついていったのではなかろうか。

そして選挙戦では、エネルギー問題で脱原発や反原発が各党から声高に主張が出され、TPP（環太平洋戦略的経済連携協力協定）問題や、消費税増税の問題などについて意見の相違が多く見られたのであるが、実際には選挙の争点にはならなかった。その中で憲法改正や国防軍の創設などを選挙公約には謳ったものの、街頭演説などでは「景気回復」

「雇用の拡大」を訴えた自民党の戦略は功を奏したものと言える。選挙後の朝日新聞の世論調査（12月17～18日実施）によると、「最も関心を持った政策は何ですか」との質問に「景気や雇用」が35%で最も多く、「消費税や社会保障」30%、「原発エネルギー問題」17%を大きく上回っていたことが明らかになっている。

「空白の20年」とか「20年の平成不況」という言葉で表されるように、長い不況の底にあって、低賃金と雇用不安に悩まされている人々のわずかな希望を託した投票行動であったのだろう。

（2）民主党の壊滅的な敗北

民主党の壊滅的な敗北の要因はいくつか挙げられる。

①政権運営の未熟さ、ガバナンス不足

まず、2009年の選挙で国民が「政治を変えよう」として民主党が選択され政権交代となったものの、その期待が大きく裏切られたことである。これまでの民主党への結集そのものが「政権交代」を唯一目的にして、さまざまな意見や政策の違いを混在させながら拡大してきた。政権を運営するビジョンや実績を持たず、党の綱領すら策定できないまま「政権交代」に至ったため、その未熟さ、政策の不一致があらゆる面で露呈したのである。

政権交代で鳩山内閣が誕生した直後は、高い内閣支持率で迎えられた。しかし、沖縄普天間基地移転問題で首相と防衛相との意見の対立が表面に出たり、政治主導を目指して事務次官会議の廃止などを行ったものの、予算編成をめぐって政務三役だけの意思決定を行うなど、官僚との溝を深める動きが目立った。財源の確保を目指して公開の場での事業仕分けを行うなど注目を浴びたものの、歳出削減は1兆円余りにとどまり、新たな財源を

得るに至らなかった。そのため、マニフェストで示した子ども手当や高校無償化などについては実施されたものの、多くの政策が実現を見ずにいた。

沖縄の普天間基地の移転問題をめぐって、その後の鳩山首相の言動が大きく揺れ動き、首相の母親からの寄付金問題や、小沢幹事長の政治資金報告書の虚偽記載をめぐって「政治とカネ」の問題を生じ、鳩山首相は8ヶ月で退陣した。鳩山・菅・野田内閣の支持率・不支持の動きは図表12の通りである。

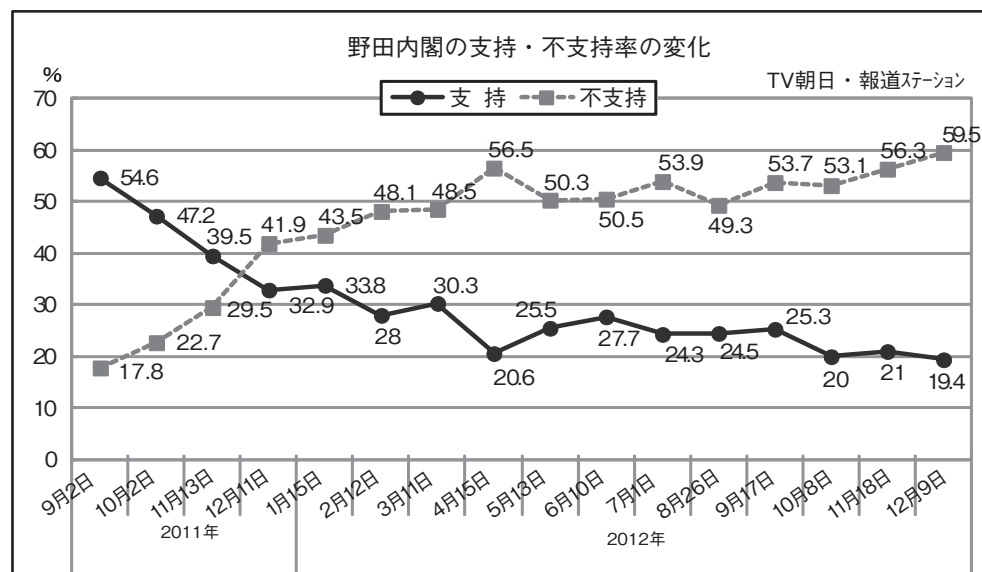
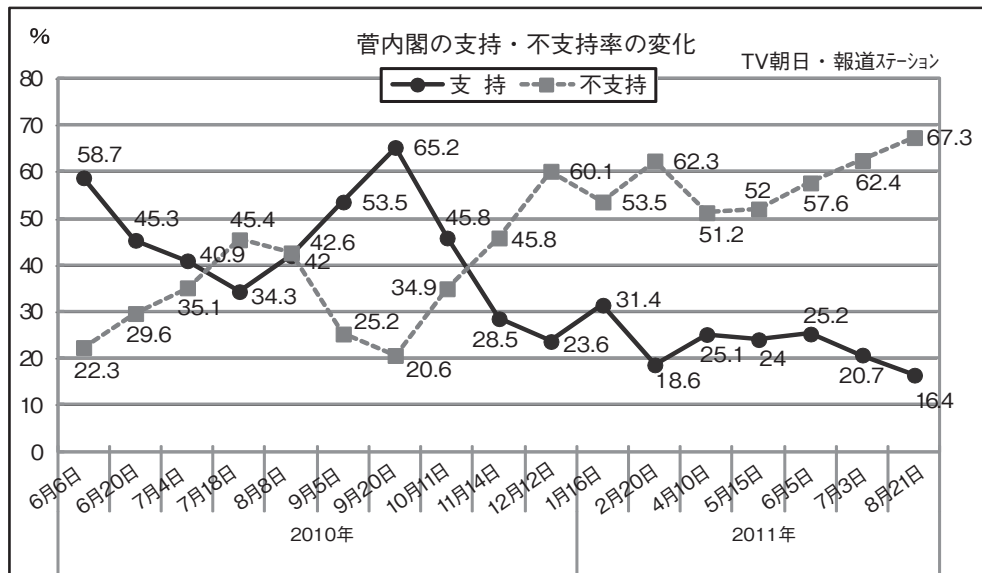
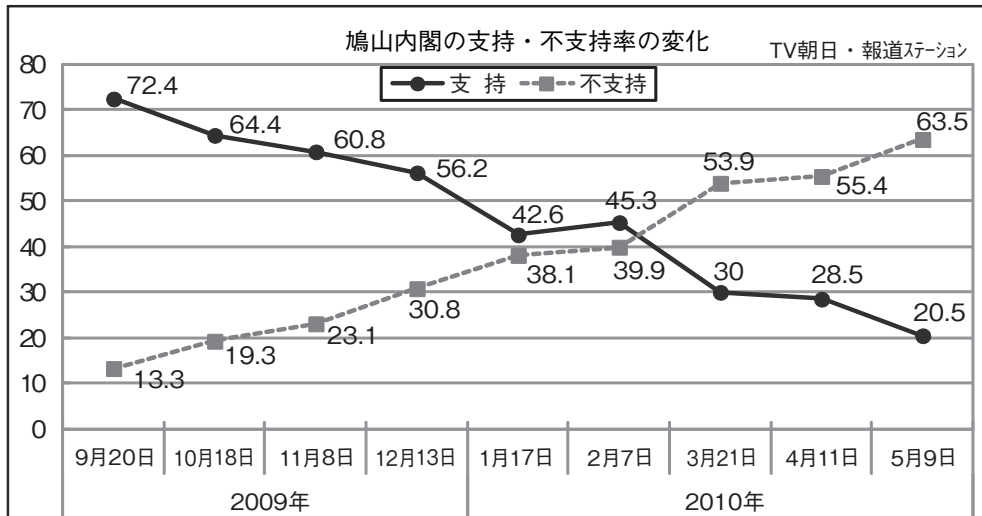
後を受けた菅首相は、就任直後の参議院選挙公約で「消費税増税で自民党の10%を参考とする」と発言し、結果的に参院選での敗北することとなり、衆参ねじれ国会となって「決められない政治」をもたらした。

2011年3月11日の東日本大震災の発生により、地震と大津波に加えて原発の重大事故という未曾有の大災害に対して、その対応のまずさや、危機管理のあり方についての批判を受ける。さらに野党が提出した内閣不信任案への対応をめぐって党内からの同調者が予想されるなかで退陣をほのめかし、不信任案は否決されたものの、結局1年あまりで菅首相も退陣となる。

その後を受けた野田首相は、党内融和を求めたが、「社会保障と税の一体改革に政治生命をかける」と宣言し、消費税増税と社会保障については国民会議で議論する内容を盛り込んだ法案成立に突き進んだ。こうしたなかで、マニフェストにはなかった消費税増税問題をめぐって、財政規律を守るために「社会保障と税の一体改革」を求める野田首相と、それに反対し「マニフェストの厳守」を求める小沢グループの決定的な対立となった。ついに法案採決に造反する大勢の反対者が出て、民主党分裂ともいうべき事態となった。

こうした政権運営のまずさや、閣僚の発言のぶれ（ガバメントの未熟さ）に加え、党内

図表 12 民主党政権の各内閣の支持率



の意見対立から造反への繰り返し（ガバナンスの欠如）、「決められない政治」について国民から多くの不満・不信がつのり、今回の選挙結果に結びついたものである。

②党の基本理念の欠如

1996年に結党した旧民主党は「市民が主役」をスローガンに、鳩山・菅両代表の下に社会党やさきがけの長老を排除して、新党さきがけと社会党の若手グループを中心に新鮮なイメージでスタートした。そして、1997年暮れに新進党が解散し、新進党に合流していた自民党脱党グループ、日本新党や旧民社党などが旧民主党と合体して、1998年4月に現在の民主党になった。そして、2003年の総選挙直前に小沢一郎代表の自由党が合流して、自民党と並ぶ二大政党の体制となった。

この経過から明らかなように、民主党は1993年以降の政界再編成の中から生まれ、自民党離党グループの旧新生党・旧新党さきがけ、旧日本新党や旧社会党、旧民社党などさまざまなグループによる混成部隊である。このことから基本理念があいまいであり、党の綱領もいまだ持っておらず、政党が立脚する基本的価値が一致していない状態のままに、「政権交代」だけを共通目標にして走ってきたのではないか。

2009年の政権交代がおきた時、住沢博紀日本女子大教授は「律儀な人々の各論からの革命」と書いていたのを思い出した（『現代の理論』09年秋号）。住沢教授は、政界再編成の中で「ごく少数の人々のみが、自らに与えられた仕事や課題を見つけ、民主党のコアの部分の政治家として生き残った」としたうえで「自らの課題を知り、政策通である人々とその仕事を『律儀な人々』の『各論からの革命』とよぶ」としている。まさに「中枢のない」各論からなる党内組織を言い当てているように思われる。

09年の選挙で掲げられた「マニフェスト」についてみれば、「5つの約束」に示された政策課題は、項目としてまとめられているものの、政策として矛盾する多様な内容が含まれていた。各論のなかの政策も「しがらみのない」「利益団体や業界の圧力のない」ところで創り出されたものであり、政策内容が「律儀な人々」の考え抜かれた提案であっても、国民レベルの議論を経てはいない。党組織や地方組織にもほとんど協議されてこなかったし、その政策は上からの指令でしかなかった。

③組織の脆弱性

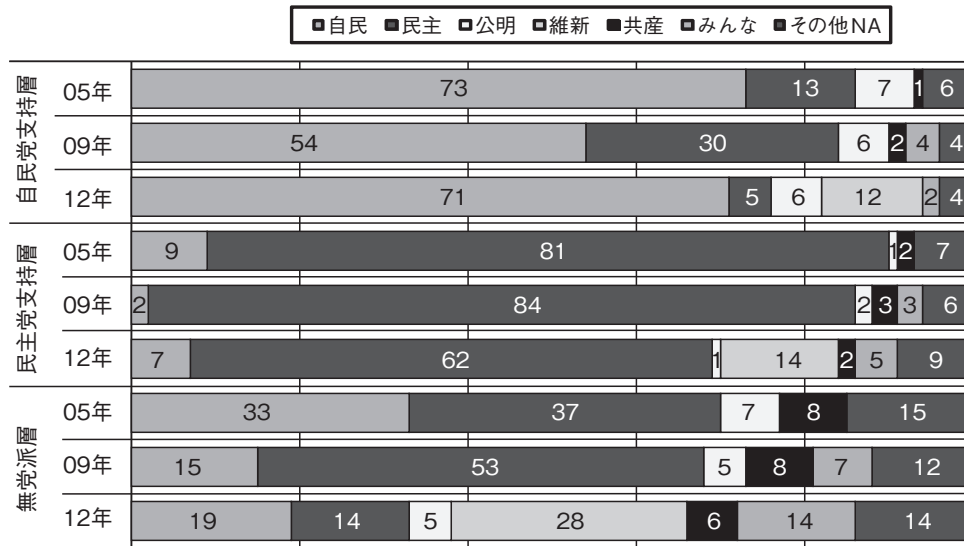
民主党の組織を見ると、基礎組織は衆参国会議員を総支部長とする総支部である。国会議員こそがその中心であり、党員・サポーターは国会議員に付随している。府県単位の組織は、国会議員の総支部の連合会（県連）であり、その財政も国会議員の党費に大きく依存している。中央本部は、国会議員である総支部長と直接つながっている。地方議員は、都道府県会議員が定数の15%程度、政令指定都市で20%程度、市区会議員では5%程度の議席を持っているに過ぎず、町村会議員はほとんどいない。国会議員を頂点として、逆ピラミッドの組織構造になっている。

「政党が大衆的な組織構造を持つ国では、基本綱領にせよ、選挙公約にしる、政党の支部組織、州組織、そして全国大会などの議論・討議を経てまとめられていく。党組織や地方組織が弱い、ほとんどない民主党は、こうしたプロセスを持っていない。」これは前述の論文の中で住沢教授の指摘であり、的確に党の実態を言い得ている。政治学の用語で「構造化」されていない、つまり地域に根ざしていない政党と言えよう。

逆境になっても地域に根づいていればそれをはね除けることができるが、根づいていな

図表 13

自民・民主支持層と無党派層は比例区ではどこに投票したか



※出所：朝日新聞による各選挙日の出口調査から上林作成

いところではきわめて脆くなる。今回の選挙結果は、こうした民主党の構造的弱点が露呈したものといえる。

④基礎票の不安定さ、定着しない支持層

既に見た図表 11(P.12) のように、民主党への選挙時点の支持率は 2009 年には 25%まで増加していたが、今回は 18%にまで減少した。さらにその支持層は、小選挙区で前回は 82%が民主党に投票して政権交代に直結させたのであるが、今回はわずか 61%だけにとどまり、自民党をはじめ他の党へ3分の1が流れる結果になっている。無党派層では、前回 58%が民主党に投票していたのが、今回はわずか 23%にとどまり半減したことが分かる。

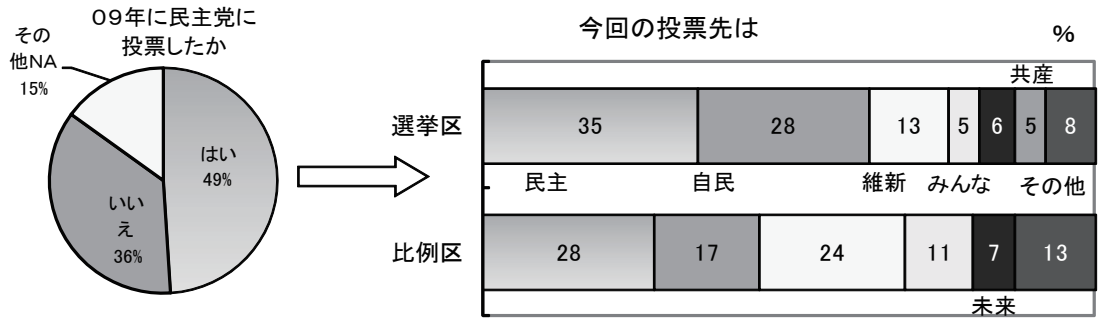
それは特に、比例区において顕著に表れている。図表 13 はこの3回の選挙における朝日新聞の出口調査をもとにして、自民・民主の支持層と無党派層が比例区でどの党に投票したのかを見たものである。民主党は、

2005 年に郵政選挙で議席数は大きく負けたものの、比例区では支持層の 81%が民主党に投票しており、09 年は支持率が増加した上で 84%が民主党に投票していた。しかし今回は、支持率が 25%から 18%に低下していたことと合わせて、民主党支持層の 62%しか「民主党」と書いてもらえなかったことになる。

無党派層について見ても、前回の 53%が民主党に投票していたが、今回はわずか 14%しか民主党には投票せずに、維新の会やみんなの党に大きく流れていることが分かる。民主支持層も無党派層も「民主党と書きたくなかった」ということであろうか。

もうひとつ、図表 14 は朝日新聞の今回の選挙の出口調査の報道であるが、前回の選挙で民主党に投票したと答えた人が、今回どの党に投票したかを聞いている。前回民主党に投票した人のうち、今回小選挙区で民主党に投票した人は 35%であり、比例区では 28%と4分の1に激減していた。実際の比例区で

図表 14



※出所：朝日新聞出口調査から上林作成

の得票は 16%と小選挙区の 22.8%よりもさらに大きく減らしている理由がこのことから推察することができる。その結果、これまで比例区で獲得していた民主党支持層からの支持をこの選挙ではほとんど失ってしまったものと言える。

その結果、現職閣僚 8 名が落選となり、閣僚経験者も相次いで落選の憂き目を見た。主な落選者は図表 15 の通りである。二大政党の一角が大きく崩れ、今後の政治動向に暗雲が立ちこめたものといえる。

(3) 第三極の伸び悩みの要因

①第三極の新党結成の経過

2011 年の統一地方選挙で躍進した大阪維新の会は、その年の 11 月に大阪府知事・大阪市長選挙で圧勝し、大阪都構想が大きく実現に向けて動き出した。この成果を受けて国政選挙に進出すべく大阪維新塾を立ち上げ準備を進めてきた。そして 9 月はじめに大阪維新の会を母体として国会へ進出するために「日本維新の会」が結成され、橋下大阪市長が代表となり、自民党・民主党・みんなの党に所属していた国会議員 7 名が合流し、国政政党の資格を得た。

一方、前回の総選挙直前に結党したみんなの党は、2010 年の参議院選挙で一定の前進

を果たし、2011 年の統一地方選挙では栃木県、神奈川県などで地方議員を増加させた。こうした実績を背景に、二大政党に対抗する第三極として位置を確かなものとすべく、維新の会との連携を模索していた。

図表 15

【現職大臣の落選者】		
田中真紀子	文部科学大臣	新潟 5 区
藤村 修	官房長官	大阪 7 区
城島光力	財務大臣	神奈川 11 区
中塚一宏	金融担当大臣	神奈川 12 区
樽床伸二	総務大臣	大阪 12 区
小平忠正	国家公安委員長	北海道 10 区
三井辨雄	厚生労働大臣	北海道 2 区
下地幹郎	郵政民営化担当大臣	沖縄 1 区
【元閣僚での落選者】		
仙谷由人	元官房長官	徳島 1 区
細川律夫	元厚生労働大臣	埼玉 3 区
鹿野道彦	元農林水産大臣	山形 1 区
鉢呂吉雄	元経済産業大臣	北海道 4 区
川端達夫	元総務大臣	滋賀 1 区
松本 龍	元環境大臣	福岡 1 区
平野博文	元官房長官	大阪 11 区

10 月末に東京都の石原慎太郎知事が突然の辞任を発表し、国政への転身に意欲を示したことから、第三極の焦点となった。11 月半ばには、「たちあがれ日本」の 5 人の国会議員と合流して「太陽の党」を結成し、石原氏は平沼赳夫氏とともに共同代表に就任した。そして河村たかし名古屋市長が代表を務める「減税日本」との合流を一度は合意する。

11 月 16 日に衆議院が解散すると、さらに混沌とした動きを見せる。解散の翌日には、石原氏は創ったばかりの「太陽の党」を解散して日本維新の党に合流することを決め、減税日本との合流は反故となった。そして自らは日本維新の会の代表になり、橋下市長は代表代行、松井一郎大阪府知事は幹事長を継続することとなった。

みんなの党との関係は、両党の協議によって複数の小選挙区で競合を回避することをめざしたものの、一致せず、みんなの党江田憲司、維新の松井両幹事長は、選挙区のすみ分けを進める考えを示したものの、合流は否定した。

衆院選の公示まで 1 週間となった 11 月 27 日、嘉田由紀子滋賀県知事は、自らが代表となる「日本未来の党」の結成を発表し、反原発を掲げて第三極をめざすとした。この未来の党に、民主党を離党して「国民の生活が第一（略称・国民）」を結成していた小沢一郎代表が、「国民」を解党して未来の党に合流することとなり、第三極は混沌とした状態の下で選挙を迎えることとなった。2012 年 6 月以降の主な政治的うごきについては「政局日誌」（本文末に掲載）の通りである。

選挙結果は、既に見たとおり（図表 3）、第三極のなかでも党派によって大きく明暗を分けることとなった。

②第三極、選挙結果の明暗

日本維新の会は、小選挙区では発祥の地で

ある大阪で 12 議席を獲得したものの、他の地域では旧たちあがれ日本の平沼氏（岡山 3 区）、園田博之氏（熊本 4 区）の 2 名の当選にとどまった。比例区では、全国的に 1,226 万票を得て民主党を超える 40 議席を獲得し、合わせて 54 議席となった。比例区には、中田宏前横浜市長、山田宏前杉並区長、東国原英夫前宮崎県知事など首長経験者が比例単独名簿第 1 位で当選している。選挙直前の合流であったことから、自民・民主・たちあがれからの合流組で前元職が 15 名当選しているものの、39 名が新人となっているのが特徴である。

維新の会は、当初 200 名以上を擁立し政局の主導権を握るとしていたが、石原新党との合流によってめざす政策があいまいとなり、橋下氏の改革イメージが低下して、民主党に迫る議席は得たものの、第 3 党にとどまった。

みんなの党は、小選挙区では神奈川で 2 議席、栃木と東京で各 1 議席を獲得し、前回の倍増を果たした。比例区でも 524 万票と前回より 224 万票を増やし、14 議席を獲得した。特に、東京、南・北関東と東海・近畿での前進が目につく。合わせて 18 議席は公明党に次ぐ第 5 党の位置となった。

公示直前に結成された日本未来の党は、大敗北という結果である。小選挙区に「国民」に所属していた前職 53 名と新人 54 名など 121 名を擁立したのであるが、小選挙区で当選したのは小沢一郎氏（岩手 4 区）と亀井静香氏（広島 6 区）の 2 人だけであり、比例代表は 7 議席（社民前職 1，国民前職 6）を得たに過ぎなかった。公示の日に、比例代表の立候補者名簿の提出が遅れ、締め切り間際までもたつくなどの混乱ぶりであり、嘉田代表と国民側との意見対立があり、新党として準備不足と意思統一に欠ける事態を露呈してしまっていた。

事実、選挙直後に、亀井氏が離党を表明し、

代表の座をめぐる分裂状態となった。旧社民から移った阿部知子氏（南関東）を代表として推した嘉田代表に対して、小沢系の7名が小沢氏を指名するなどの意見の不一致が表面化することになった。結局、未来の党の党名は阿部氏が引き継ぎ、小沢氏ら衆院7名と参院8名は党名を「生活の党」に変更して別の道を歩むことになった。

（４）民主党離党者の去就と今後の政治動向

①民主党離党者の去就

民主党から離脱して「国民の生活が第一」に移った53名の前職が、未来の党で小選挙区で立候補したが、小沢氏を除いて全員落選し、比例代表で復活したのは6名だけであることは既に見た。ここでは、民主党を離党した人々の去就を見てみよう。

前回の選挙以降、民主党を離れた国会議員は衆院で80名、参院で18名であった。離党者の多くが「国民」に移ったのであるが、維新の会、みんなの党、新党大地、自民党など多様な党へ分散していった。結果として、これら離党者のうち小選挙区での当選者は小沢氏ただ1人、比例代表での復活当選12名（未来6、維新4、みんな1、大地1）であり、不出馬の6名を除き衆院の落選者は61名となっている。

小選挙区制となることによって政党中心の選挙になったわけであるが、選挙のたびに当選者が変わる状況は既に見たとおりである。特定の政党に追い風が吹いていると、どのような候補者でも当選してしまう事態が続いた。政治経験が不足して選挙に弱い候補者は、逆風が吹いて厳しくなると、選挙に勝てそうな新しい勢力に移りたいという衝動に駆られてくる。今回の選挙は、そうした傾向が如実に表われたわけである。

前回2009年の選挙で民主党で当選した新

人候補者たちの多くが、小沢氏の指導の下で選挙運動を行い一定の資金提供も受け当選した、いわゆる「小沢ガールズ」である。2005年の選挙で、小泉首相が率いる自民党が、新人候補を多く擁立して大量の議席を得たが、この時の新人は「小泉チルドレン」と呼ばれた。この新人たちの大半が09年の選挙では落選していた。今回の選挙でも同じことが起きたことになる。

自民党と民主党がともに「国民政党」として多様な有権者の意見を包括する「包括政党」になるにしたがって、政党間の政策的違いがなくなってくる。新党ができたとしても、既成の二大政党とさほど政策的違いは見られない。政党を離党して他党へ移動する政治家にとっては、移動することについての抵抗感はなくなくなっているということである。しかし、過去や今回の選挙結果を見ると、政党間の移動をすればするほど、当選の確率は下がっていくことは確かである。

②二大政党の今後の行方と動向

欧米諸国のように、伝統的な保守を基本とするキリスト教民主同盟や保守党、それに対抗する社会民主主義ないしリベラルな中道勢力を基本とする社会民主党、労働党や民主党という二大勢力の対立構造であることが望ましいと言われる。しかし、前述のように我が国では包括政党になればなるほど、政策的相違がなくなる。民主党は、自民党の憲法改正や国防軍創設などの右傾化の政策に対して、中道ないし中道左派としての対抗軸を打ち出すことができなかつたことが根本的な敗因であろう。

自民党の右傾化に合わせて、さらに右に位置づけられる維新の会や公務員バッシングで票を伸ばすみんなの党などが増大したわけである。中道ないしリベラルな勢力が大幅に後退し、中道左派の政治がその存在することす

ら疑われる状況となり、右側だけが膨張して左右のバランスを大きく崩したのが選挙結果である。

二大政党と政治の強いリーダーシップを求めたのが1994年の政治改革であったが、10以上の政党が乱立した今回の選挙は、政治改革の意図とは反対のものとなってしまった。多党が競合することは有権者にとって選択肢が増えたことになるはずなのだが、選挙直前に結成された政党が多く、その政策も違いが不鮮明であり、実は有権者にとっての選択肢とはならなかった。平和や平等を求める価値観を持つ有権者にとっては、新党は選択肢とはならず、選択するものがなく棄権したということではなかろうか。

二大政党制がこの選挙結果によって「終符を打たれた」とする論者が見受けられる。数年の年月をかけても二大政党制を育てるのか、多様な価値観を持つ人々の意見を反映する制度改革を求めるのか、意見の分かれるところであろう。

しかし、選挙制度改革は一朝一夕でできるものではない。現在の選挙制度を前提とすれば、衆院で過半数以上の勢力を擁立できる組織的力量や政権担当能力についてみると、自

民党と民主党を除いて、第三極とその他の政党には小選挙区で過半数の候補者を擁立することすらできておらず、政権獲得にはおぼつかない。民主党は、政権担当能力で未熟な部分も露呈したが、3年4ヶ月の政権を担当したことにより若手の大臣経験者も再選されており、失敗の経験を今後生かす余地は十分残っている。

選挙基盤についても、地方議員や個人後援会を中心にした自民党組織は地域に存在し、公明党がそれを支える構造に変化がなければ、二大政党制の一翼となる。民主党も個人的支持層を持つ党の中心メンバーは再選されており、地方議員や労働組合連合も支持を継続するであろうから、最低限の支持母体は全国に持っているといえるので、もう一方の一翼となり得るであろう。

1党が優位になる体制は、過去の自民党が行ってきた危うさを孕んでいる。そうならないためにも、民主党が地域に根ざした組織の再生を進め、民主的な党運営を図ることにより組織の弱さを克服する可能性は十分持っている。夏の参議院選挙を皮切りに、いくつかの政治的試練はあるであろうが、初心に返っての組織再生を期待したい。

〔選挙結果のアラカルト〕

小選挙区の高得票者ベストテン

- ① 192,904 河野 太郎 自民(神奈川15区)
- ② 184,360 小泉進次郎 自民(神奈川11区)
- ③ 163,334 野田 佳彦 民主(千葉4区)
- ④ 162,891 橋 慶一郎 自民(富山3区)
- ⑤ 156,887 細野 豪志 民主(静岡5区)
- ⑥ 146,712 麻生 太郎 自民(福岡8区)
- ⑦ 145,013 菅原 一秀 自民(東京9区)
- ⑧ 139,935 浜田 靖一 自民(千葉12区)
- ⑨ 138,040 菅 義偉 自民(神奈川2区)
- ⑩ 135,270 竹下 亘 自民(島根2区)

小選挙区の小得票での当選者

- ① 44,027 福井 照 自民(高知1区)
- ② 50,362 後藤 斎 民主(山梨3区)
- ③ 54,930 宮川 典子 自民(山梨1区)
- ④ 55,853 西川 公也 自民(栃木2区)
- ⑤ 55,828 階 猛 民主(岩手1区)
- ⑥ 57,049 武藤 貴也 自民(滋賀4区)
- ⑦ 57,828 竹村 典英 自民(滋賀3区)
- ⑧ 58,951 宮崎 謙介 自民(京都3区)
- ⑨ 59,231 福山 守 自民(徳島1区)
- ⑩ 60,577 岸本 周平 民主(和歌山1区)

第2部 神奈川県内の選挙結果とその特徴

1. 全国的傾向を裏付ける

民主党の敗北

(1) 小選挙区で自民14議席、

民主1議席のみ

①議席の推移

神奈川県内の小選挙区選挙結果は、自民党14議席、みんなの党2議席、民主党1議

席、公明党1議席という結果であった。自民党は自公協力で6区に候補者を立てなかったため、小選挙区に立候補した17人は、比例代表で復活当選した3人を含めて全員が議席を獲得したことになる。前回、民主党が14議席獲得し、自民党は3議席、みんなの党が1議席であり、民主党の小選挙区立候補者は比例復活を含めて全員当選するという結果で

図表2-1 神奈川県内 小選挙区当選者の党派

選挙区	1996年10月		2000年6月		2003年11月		2005年9月		2009年8月		2012年12月	
	小選挙区	比例	小選挙区	比例	小選挙区	比例	小選挙区	比例	小選挙区	比例	小選挙区	比例
1区	自	民	民		自	民	自		民	自	自	
2区	自		自	民	自	民	自		自	民	自	
3区	進	自	自		自	民	自		民		自	
4区	自		民		民		自		民	み	み	自
5区	進	共	民	共	民	共	自		民		自	
6区	民		民	公・由	公	民	公		民		公	み
7区	自		自	民・由	民	自	自		民		自	
8区	進	社	無		民		無	民・自	み	民	み	自
9区	進		民		民		自	民	民		自	
10区	進	自・共	自	民	自	民	自		民	自	民	自み
11区	自		自		自		自		自	民	自	
12区	自		民	社	自	自・社	自	社	民	社	自	未
13区	進	自	自		自		自		民	自	自	
14区	進		由	自・社	民		自		民		自	
15区	自		自		自		自		自	民	自	
16区	自		自		自		自		民		自	民
17区	自		自		自		自		民		自	
18区			自		民	自	自		民		自	
小選挙区 当選者数	自民 新進 民主	9 7 1	自民 民主 自由	9 6 1	自民 民主 公明	9 8 1	自民 公明 無所属	16 1 1	自民 民主 みんな	3 14 1	自民 民主 公明 みんな	14 1 1 2
	計	17	計	17	計	18	計	18	計	18	計	18

注1: 比例代表は、南関東で復活当選者

注2: 自は自民党, 民は民主党, 進は新進党, 公は公明党, 共は共産党, 社は社民党, 由は自由党, みはみんなの党

あった。このことから見ると、今回はまったく逆転していることがわかる。みんなの党の前進も目についた。

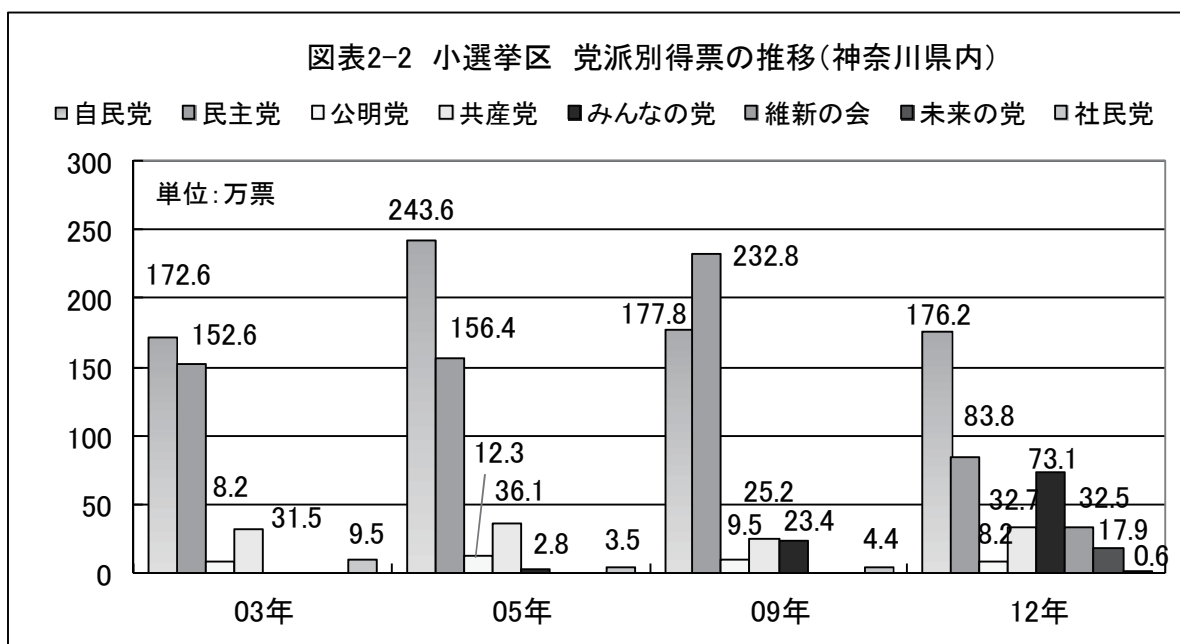
神奈川における小選挙区の当選者は、選挙のたびに交替する傾向が見て取れる。1996年に小選挙区制導入されて以後の各選挙区における党派別の当選者数は、図表2-1の通りである。2003年までは自民党が9議席と半数を確保していたが、03年に民主党も8議席となり2大政党の姿が見えてきた。2005年の郵政選挙では自民党が圧勝し16議席を獲得し、民主党はすべて小選挙区の議席を失った。そして、残る1議席は無所属（現在みんなの党幹事長）が議席を得た。2009年の政権交代選挙では、民主党が14議席を獲得し、今回大きく敗北したのは既に見たとおりである。

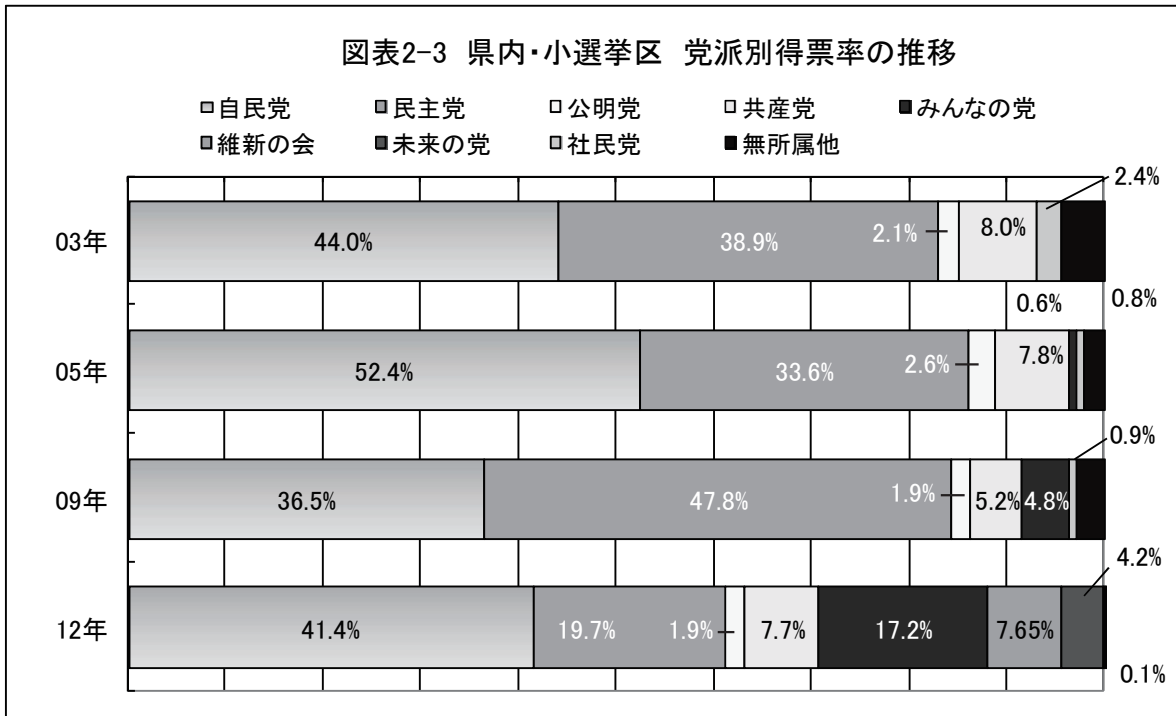
この中で、自民党が一貫して小選挙区で勝利し続けている選挙区が、2区、11区、15区である。2区は菅義偉が6期連続当選を果たし、11区は小泉純一郎から進次郎への世襲で2代にわたって連続当選を続けており、

15区は河野太郎が6期連続当選となっている。ちなみに、この選挙区では第三極からの立候補者が一人もいなかったのも特徴的である。民主党にはこうした盤石な選挙区は見あたらない。（本稿では、候補者等についての敬称は省略している）

②得票・得票率の推移

県内の小選挙区における2003年以降の得票の推移と、得票率の推移を見たのが図表2-2と2-3である。2003年は自民党より1議席少なかった民主党が、得票数では152万票、得票率で38.9%を得て自民党の172万票（得票率44%）を20万票ほど下回っていただけであった。2005年に自民党は243万票（52.4%）と大量の得票を得たが、民主党も156万票（33.6%）を得ながら当選者が一人もでなかった。2009年には、民主党が232万票（47.8%）と党として過去最大の得票を得て、民主の大躍進となり、自民党の177万票（36.5%）を55万票の差をつけ大きく上まわった。





今回の選挙結果は、投票率が前回の68.26%から8ポイント下がって59.87%となったことから投票者数が大きく減少したことにより各党の得票も低下している。勝利した自民党は、前回より1万票低い176万票、得票率は41.4%で前回より5ポイント増加であった。民主党は得票そのものが149万票も減らして83万票、得票率19.7%で28ポイント減少となり大敗に結びついている。

民主党の減らした小選挙区得票は、大きく第三極に流れている。みんなの党が50万票増加して73万票（得票率17.2%）となり民主と10万票の差にまで迫り、小選挙区で2議席を獲得し、比例代表でも県内候補が2名復活当選している。維新の会は33万票（7.6%）、未来の党が18万票（4.2%）となっていた。

選挙区ごとの結果は後に見るが、第三極といわれるみんなの党、維新の会、未来の党がすべて候補者を擁立した3区・5区では、民主党はそれぞれ15%、11%しか得票を得ら

れなかった。第三極のうち2党が候補者を擁立した7つの選挙区でも民主党の得票率は17～21%と大きく得票率を減らし、結果的に自民党が有利な状況になったことがわかる。

（2）民主大敗、比例代表での

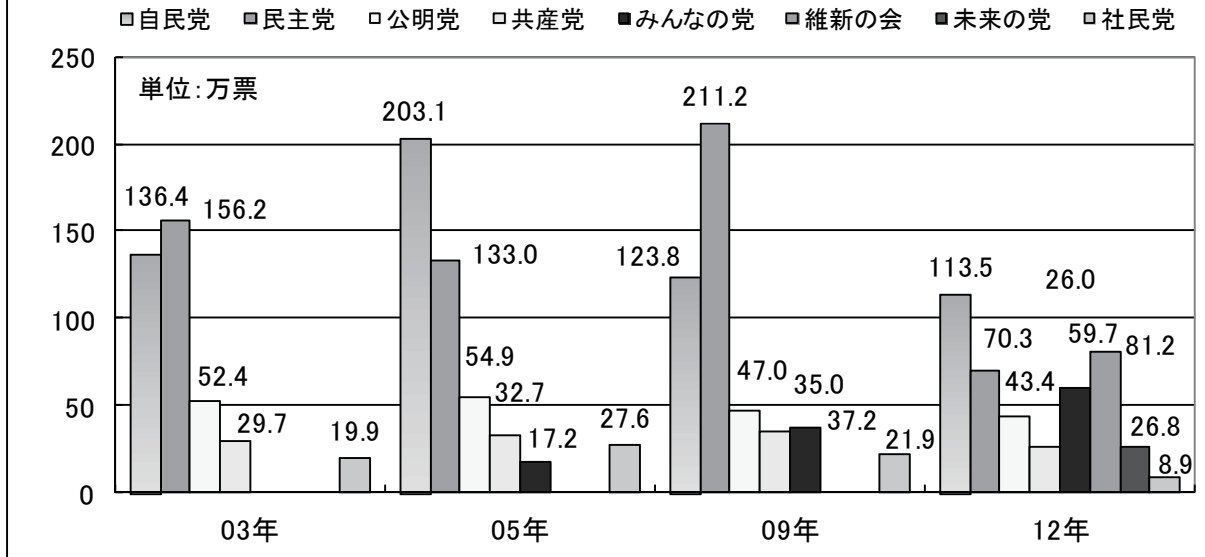
大幅得票減が要因

①得票・得票率と議席の変化

民主党が、小選挙区よりも大幅に得票を減らしたのが比例代表である。これまで民主党は、小選挙区での敗退はあっても、比例代表での得票が多かったことから、復活当選を含めて議席を確保してきた。図表2-4と2-5は、2003年からの選挙における各党の得票と得票率を表したものである。

2003年には、民主党は156万票（得票率39.6%）を得て自民党の136万票（34.6%）を20万票上回っていたため、比例復活は5人となっていた。2005年は自民党が203万票（43.3%）と大きく得票を増

図表2-4 県内比例代表 党派別得票の推移

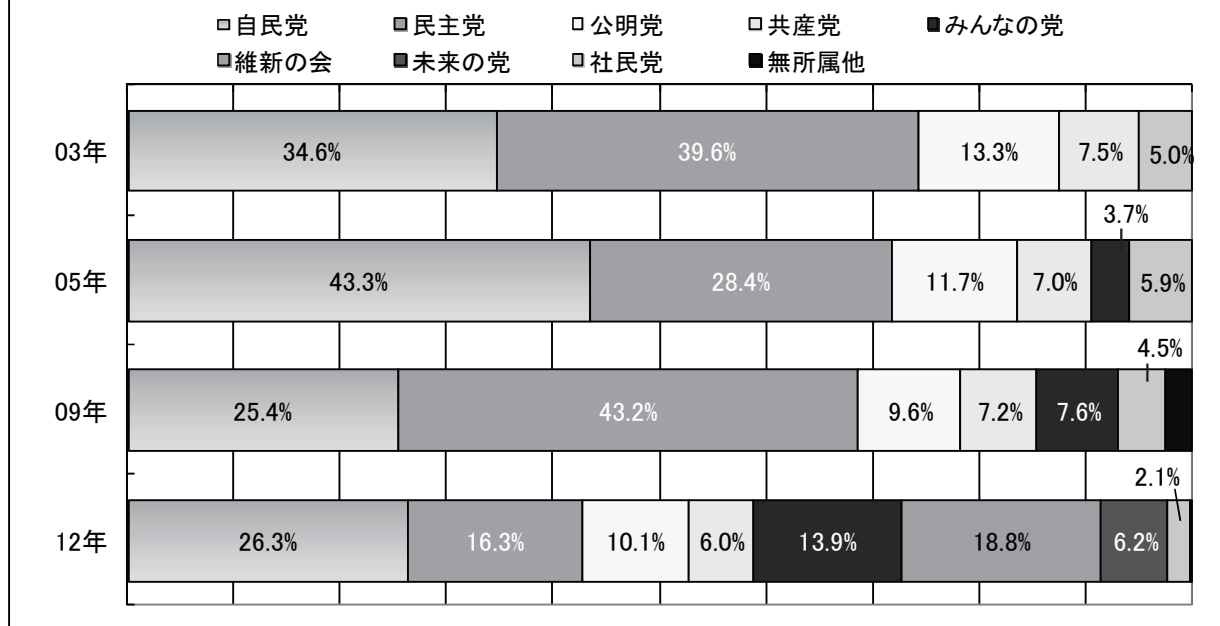


やしたが、民主党も 133 万票（28.4%）を獲得して比例復活で 2 名が当選している。2009 年は民主党が 211 万票（43.2%）と過去最大の得票を得て、自民党の 123 万票（25.4%）を 88 万票も上回っていた。

今回は、自民党が 113 万票（26.3%）で前回より得票を減らしたが、民主党はわずか

70 万票（16.3%）しか得票できず、前回より実に 141 万票も減らしている。小選挙区でもそうであったが、民主党が減らした得票はほとんど第三極へ流れていった。維新の会が 81 万票（18.8%）、みんなの党が 59 万票（13.9%）、未来の党が 26 万票（6.2%）などと、合わせて 166 万票を獲得している

図表2-5 県内比例代表 党派別得票率の推移



のであり、第三極の登場が民主党に大きな影響を与えたことがわかる。

比例代表南関東ブロックでの得票についても、自民党は202万票で前回より21万票減ったものの議席は前回と同じ6議席を得ているが、民主党は前回よりも237万票減らして132万票しか得票できず、前回の11議席から4議席に7議席も減ってしまった。

民主党の得票は第三極に流れ、維新の会が144万票で5議席と民主党を上回り、みんなの党が95万票で3議席となり公明党の81万票2議席を上回っていた。未来の党は47万票で1議席を獲得し、第三極はあわせて287万票で9議席を獲得し、前回みんなの党が1議席獲得していたことからすると、民主党の得票を奪い議席も奪ったことになる。

共産党は60万票から44万票に減らしたものの1議席を獲得し、社民党は14万票で議席獲得はできなかった。

こうしてみると、民主党の議席の大幅減少は、小選挙区での減少もさることながら、これまで民主党議席を下支えしてきた比例代表での得票が大幅に減ったことによる影響が大

きかったものと言える。

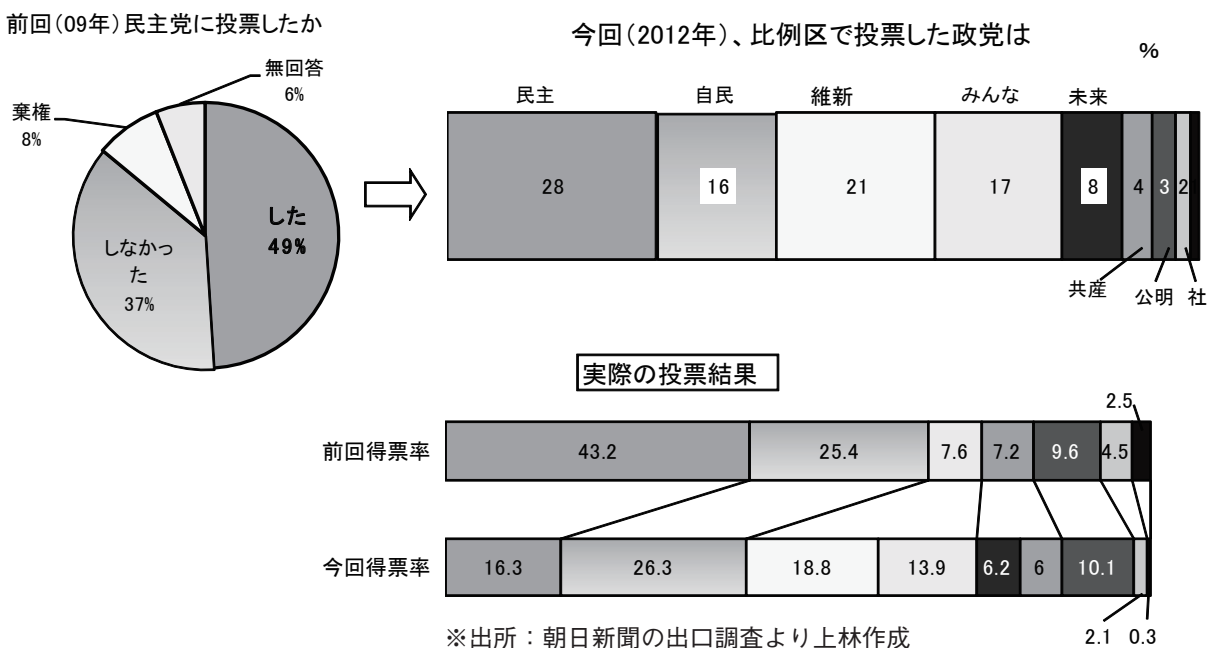
② 出口調査から見えてくるもの

図表2-6は、今回の選挙で朝日新聞の出口調査のデータであるが、前回民主党に投票したと答えた人に今回比例区で投票した政党名を聞いている。前回民主党に投票した人のうち、今回も民主党に投票したと答えた人はわずか28%にすぎず、維新の会に21%、みんなの党に17%、未来の党に8%投票したと答え、第三極にほぼ半分(46%)が流れていることがわかる。自民党へも16%となっており、共産、公明、社民への流れも見られた。

実際得票率は、民主党支持者への出口調査の結果をさらに上回り、民主党への得票率は16.3%でしかなかった。

神奈川県内では、1996年に行われた小選挙区比例代表制の初めての選挙で、当時全国では第2党であった新進党が97万票を獲得し自民党が91万票を上回っており、結成されたばかりの民主党(鳩山・菅共同代表)が78万票(得票率22.4%)を得て健闘してい

図表2-6

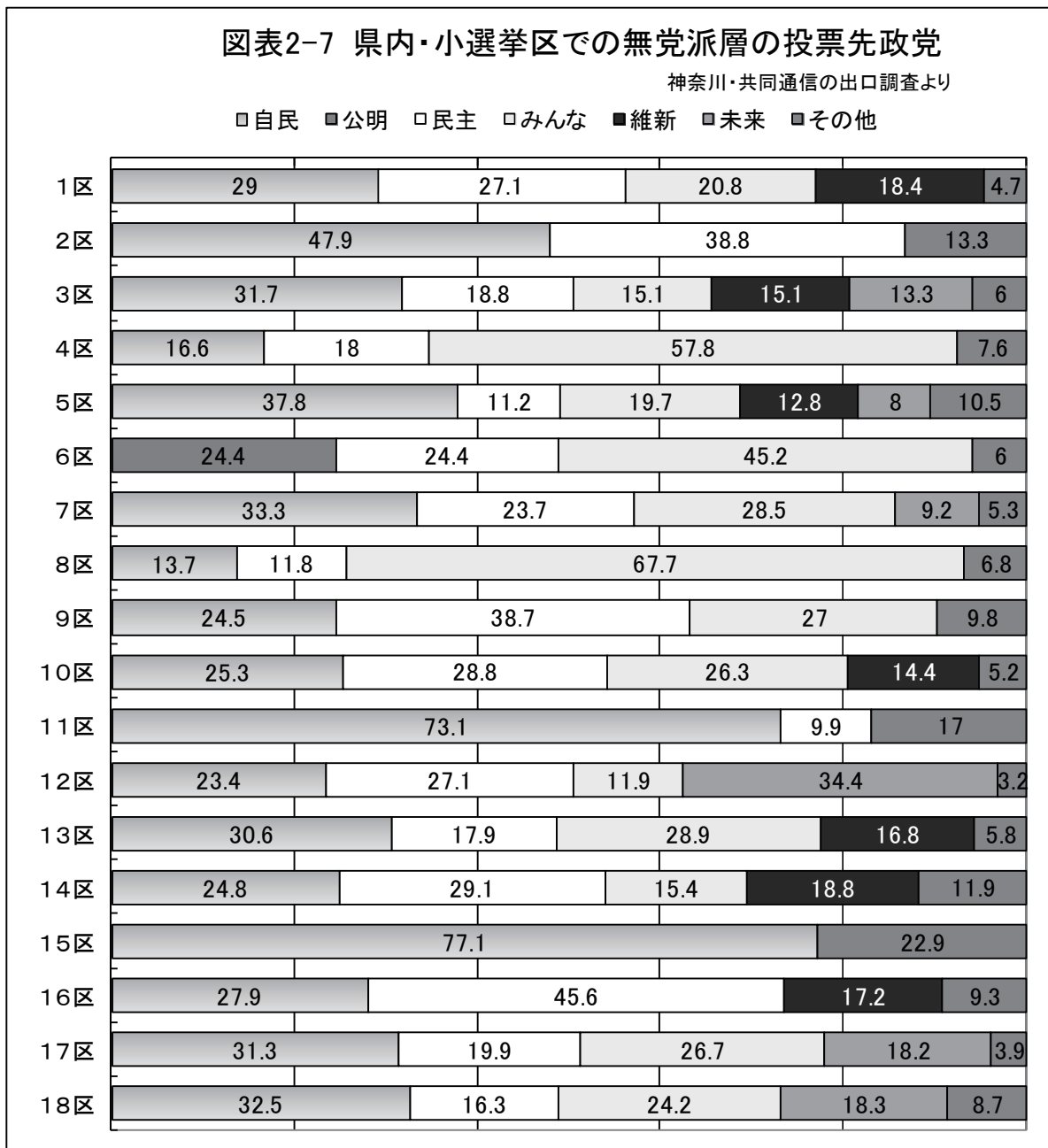


る。

2000年の選挙では、民主党は111万票(28.8%)を獲得し、自民党の87万票(22.2%)を上回っており、その後、05年を除いて09年までは自民党を上回っていた。民主党にとって今回は過去最低の得票率であったことを裏付けるデータである。期待はずれの民主党政権への「懲罰投票」の傾向が読み取ることができる。

2. 選挙区ごとの結果とその要因

ここでは、各選挙区の3回の主な党派別候補者の得票の推移を見ながら、それらの要因を分析してみることにする(敬称略)。なお、無党派層の出口調査のデータに関するコメントは、神奈川新聞・共同通信のものである(図表2-7)。



神奈川1区 党派別候補者の得票推移	
2005年	松本 純・自民 161,702
	佐藤謙一郎・民主 95,601
	高山 修・共産 20,216
2009年	松本 純・自民 117,840
	中林美恵子・民主 135,211
	香西 亮子・共産 18,898
2012年	松本 純・自民 101,238
	中林美恵子・民主 50,927
	松本 孝一・維新 41,196
	山下 頼行・みんな 36,706
	明石 行夫・共産 15,664

① 1区（横浜市中区・磯子区・金沢区）

横浜市内の中心部を含む選挙区で、自民党の基盤が強いものの、この3回選挙ごとに当選者が代わる選挙区である。2003年には自民の松本純が当選し、民主党の佐藤謙一郎が比例復活当選した。05年は自民の松本がリベンジを果たしたが、前回09年は民主の新人・中林美恵子に敗れ、松本は比例復活となった。今回は、自民の松本が小選挙区での当選をめざし、これに維新の会の新人・松本幸一と、みんなの党の新人・山下頼行が立候補し、共産党の新人・明石行夫との5党の争いとなった。

選挙の結果は、政権を離れて地道に地域活動を行ってきた自民党の松本が、今回2位の民主・中林をダブルスコアとなる10万票を獲得して大勝した。松本は、後援会活動の基盤を強化しながら、無党派層からも3割の支持を得て小選挙区での勝利を果たした。

中林は、民主党への逆風を受けて得票を伸ばせず、無党派層からは松本に次ぐ支持を獲得したものの、第三極の候補者に挟撃され議席を失った。

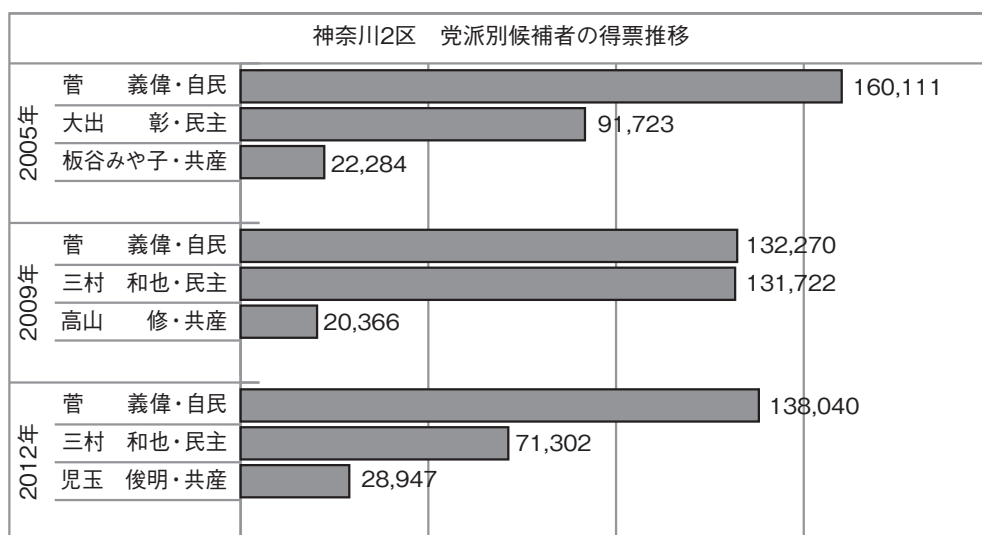
維新の会の松本は、元総務省官僚だったが

公示直前の公認となり、維新の会支持者への浸透のみにとどまった。みんなの党の山下は、第三極の維新の会との競合により党支持者だけの得票にとどまり広げることができなかった。共産党は、前回よりも支持層が減少したことから、得票は伸びなかった。

② 2区（横浜市西区・南区・港南区）

横浜市内の下町が多い自民党の金城湯池ともいわれる選挙区である。自民党の元総務相菅義偉が、西区から横浜市議に出ていた頃からの厚い地盤を基礎にして5期連続当選を果たしていた。民主党は2003年に大出彰が、09年に三村和也が次点でそれぞれ比例復活当選していた。今回は、自民・民主両党の他、第三極からの立候補はなく、共産党との3党だけの争いとなった。

選挙の結果は、自民党の菅が2位の民主・三村のほぼ倍の13万8千票を獲得しての圧勝であった。自民支持層が厚い上に、安倍総裁の側近としての知名度と後援会活動の基盤を生かし、各年齢層からまんべんなく票を集め、無党派層からもほぼ半数の支持を得て連続6期当選を果たした。



民主党の三村和也は、前回新人として菅に500票差まで迫って復活当選していたが、今回は民主支持層の減少と、無党派層の約4割から支持を得たものの得票は伸びなかった。共産党は前回よりも得票を伸ばしたが、届かなかった。

立候補者が3党だけであったためか、無効票が投票者の5.1%と極めて高かったのが特徴的であった。

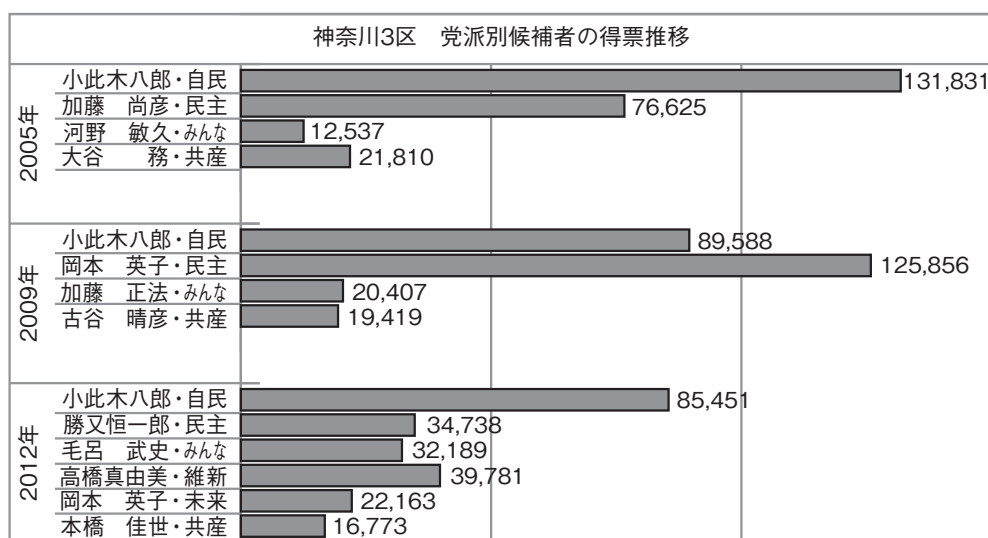
③3区（横浜市鶴見区・神奈川区）

市内の東部に位置する工業地域を含む選挙区である。2005年までは自民党の小此木八

郎が中選挙区時代を含めて連続当選していた。09年の選挙で民主党の岡本英子が初めて当選していた。

今回は、岡本が民主党を離党して「国民の生活が第一」へ移った後に未来の党へ移り再選をめざし、自民の小此木八郎が前回の雪辱を期して立候補した。民主党は前回15区で復活当選した勝又恒一郎を鞍替えさせた。維新の会は新人・高橋真由美を、みんなの党は新人・毛呂武史を擁立し、共産党も新人の本橋佳世を立て、6党が競い合うことになった。

選挙結果は、自民の小此木が2位となった維新の会の新人・高橋をダブルスコアでやぶ



り雪辱を果たした。祖父母から3代続いた基盤があり、前回は世襲議員の批判もあって議席を得られなかったが、今回は他党候補の乱立にも助けられ、厚い自民支持層に支えられ無党派層から3割と最も多くの支持を得て楽勝した。

15区から選挙区替えをした民主の勝又は、公認が遅れたことから準備不足であり、地域への浸透が仕切れず、民主支持層が未来の岡本と基盤を分けたこともあって、次点にも届かなかった。みんなの党の毛呂は党支持層の他への広がりが見られず落選した。未来の党の岡本は、民主からの離党後の活動が不足したこともあって前回の2割しか得票できず議席を失った。

第三極が3党とも候補者を出し合い競合し、結果的に自民が圧倒的な勝利に結びつけた選挙区であった。

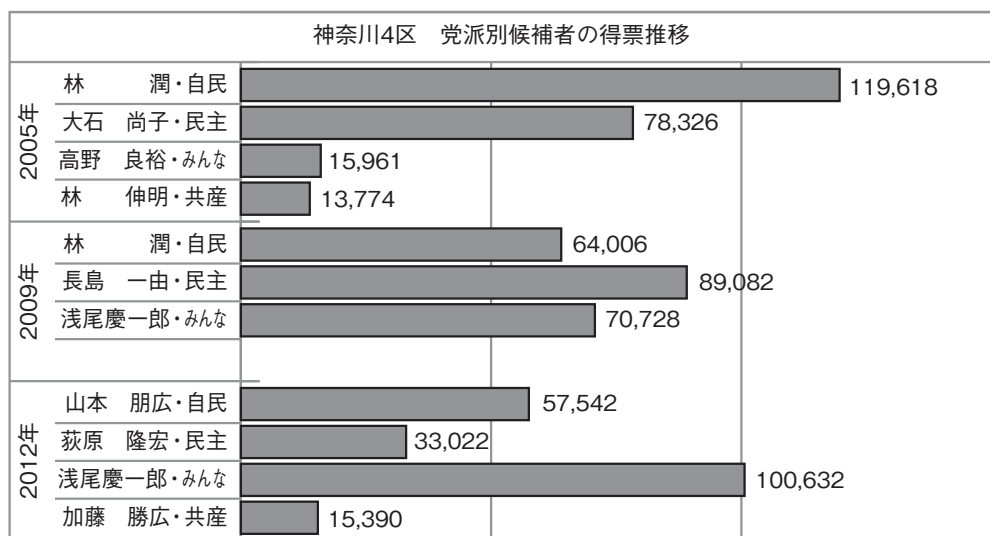
④4区（横浜市栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町）

横浜西部の新興地域と鎌倉・逗子・葉山という観光地を含む市域をまたがった選挙区で、毎回この選挙区では当選者が代わるという、複雑な政治状況にある。2003年は民主党の大石尚子が、05年は自民党の林潤が、09年

は民主の長島一由が当選している。

前回民主で初議席を得た長島が解散間際に引退を表明し、民主は急遽西区から横浜市議に出ていた荻原隆宏を解散後になって公認するという慌ただしさであった。自民は1年半前から林に代わって京都から国替えをした山本朋広を擁立を決め準備を進めてきた。みんなの党は、前回の総選挙直前に民主を離れみんなの党に移って比例復活当選した浅尾慶一郎を立てた。前回候補者擁立を見送った共産党も新人・加藤勝広を擁立し、4党の競い合いとなった。

選挙結果は、かつて民主党県連代表を務めた浅尾が、みんなの党政調会長としてその知名度を生かし、早くからの準備したことも功を奏して民主支持層を切り崩し、2位とダブルスコアに近い差をつけて当選した。自民の山本は、松下政経塾出身を看板に自民の支持層に支えられ次点となり、比例復活を果たし2期目の議席を得ることになった。民主の荻原は、解散後に公認されたことから準備不足、出遅れが目立ち、民主支持層を浅尾に奪われ落選した。共産の加藤は、前々回よりも得票はのばしたものの、届かなかった。



⑤ 5区（横浜市戸塚区・泉区・瀬谷区）

横浜西北部の住宅街を中心とした選挙区であり、ここも毎回の選挙ごとに当選者が交代する選挙区である。2003年までは新進・民主と移った田中慶秋が議席を得ていたが、05年自民党の坂井学が当選し、09年には民主党の田中が雪辱を果たした。03年以降両党の候補者は代わっていない。

今回はこの両党に、第三極から維新の会の新人・湯沢大地、みんなの党の新人・池田東一郎、未来の党の河野敏久、そして共産党から新人の横山征吾が立候補し、神奈川3区と並んで6党による争いとなった。

選挙結果は、厚い保守基盤を固めた自民・坂井が、公明票も固めきり、2位以下をダブルスコアで圧勝した。選挙戦では県議や市議らと連携し、特に女性の支持も厚く、無党派層のほぼ4割を固めて前回の雪辱を果たした。

民主のベテラン田中は、法相就任直後に過去の暴力団からの献金問題が報道され、法相を辞任して一時引退もささやかれたが、最後の闘いとして選挙に挑んだ。しかし、民主党への逆風とスキャンダル報道に抗い切れず、維新の湯沢、みんなの党の池田にも1万票以上の差をつけられ4位で落選となった。

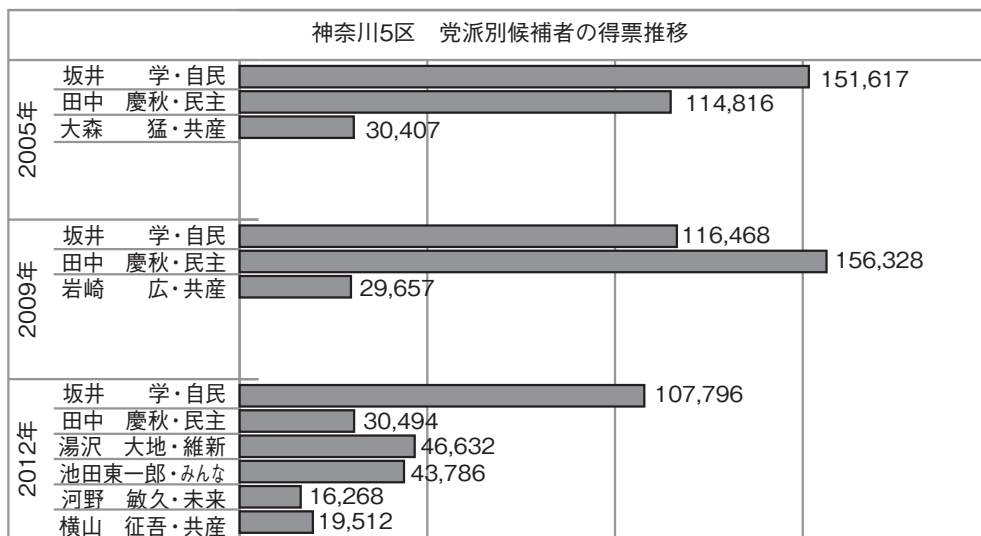
維新の湯沢は、戸塚区出身ということから

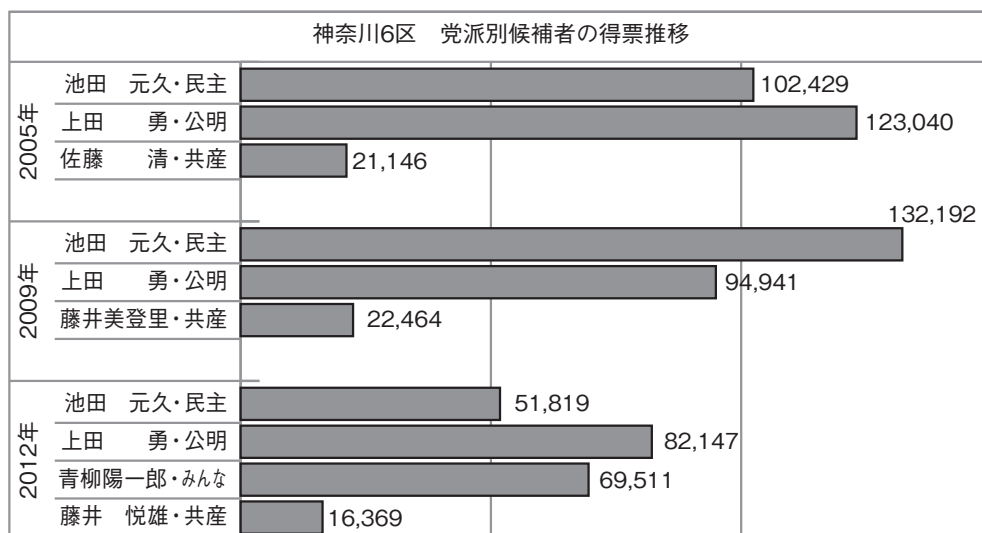
維新支持層のほとんどをまとめたが、次点にとどまった。みんなの党・池田は党支持者を固めたが広がりきれなかった。共産党の横山、未来の党の河野は支持層が少なく、当選圏内には届かなかった。

⑥ 6区（横浜市保土ヶ谷区・旭区）

横浜の中央部に位置して、早くから住宅地としてサラリーマン層の多い選挙区である。ここでは、自民・公明の選挙協力の象徴として県内で唯一自民党が候補者を擁立しない選挙区である。ここでも民主・公明の宿命の闘いといわれ、2000年と03年は民主党の池田元久が、05年には公明党の上田勇が、09年に民主・池田がそれぞれ交代で議席を占めてきた。今回はこの両党に、みんなの党の新人・青柳陽一郎と共産党新人・藤井悦雄が挑戦し、4党による争いとなった。

選挙結果は、公明党県本部代表の上田勇が当選し、通算6期目の議席を確保した。前回の選挙以降、地域をまんべんなく回る活動を続け、公明支持層を完全にまとめきり、自民支持層の6割以上を固めて前回の雪辱を果たした。みんなの党・青柳は、最も若い候補者として自民支持層の一部にも浸透し、無党派層では半数近くの支持を得て、民主・池田を





抜いて2位となり、比例代表で復活当選を果たした。

民主党の池田は6期を数えるベテランであるが、東日本大震災の現地対策本部長を務めたあと体調をくずしたこともあり、第三極と自公から挟撃されて得票を伸ばせず、当選ラインに達することができなかった。共産党の藤井は、支持層を固めたものの党支持層が減少していることもあって、届かなかった。

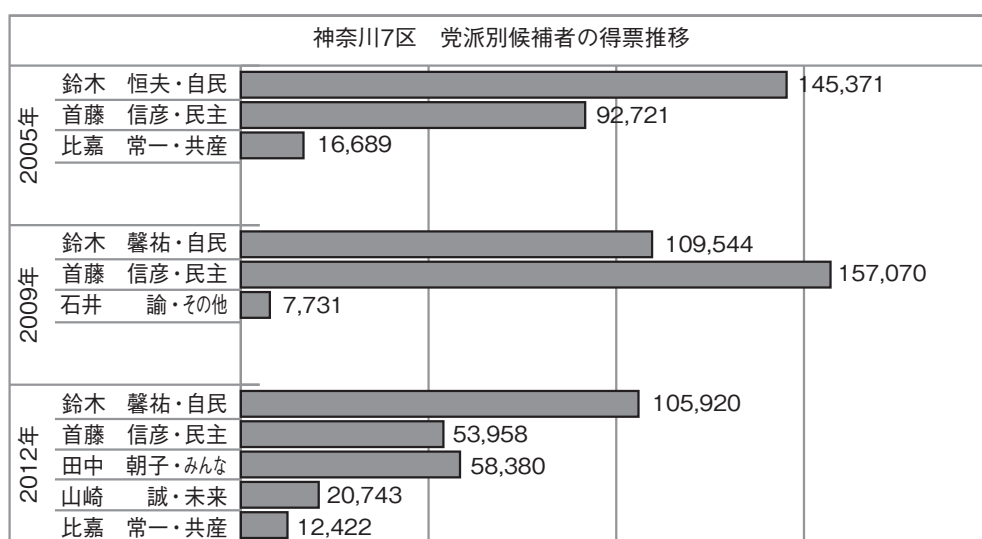
⑦7区（横浜市港北区・都筑区）

横浜北東部の大票田で、古くからある住宅

地と新興地域が共存している選挙区である。

ここでも選挙のたびに当選者が交代する、流動性の大きい選挙区である。2003年には民主党の首藤信彦が、05年には自民党の鈴木恒夫が、09年には首藤が当選している。今回は、両党の他に、みんなの党は田中朝子を擁立、未来の党は民主党で前回8区から比例復活当選した山崎誠がくら替えして立候補し、共産党の新人・比嘉常一を含めて5党の争いとなった。

選挙結果は、自民の鈴木馨祐が、前回の選挙で鈴木恒夫が引退後その地盤を引き継いだ



神奈川8区 党派別候補者の得票推移		
2005年	福田 峰之・自民	74,399
	岩國 哲人・民主	78,860
	江田 憲司・無所属	88,098
	山中 栄司・共産	11,578
2009年	福田 峰之・自民	54,480
	山崎 誠・民主	74,544
	江田 憲司・みんな	128,753
2012年	福田 峰之・自民	60,643
	伊藤久美子・民主	33,769
	江田 憲司・みんな	127,294
	釘丸 進・共産	13,526

ものの首藤に大差で敗れたことから、選挙直後から地域を積極的に回って支持を拡大した。その結果、若さをアピールしながら10万票を超える得票で大勝した。自民党支持層を固め、公明、維新の支持層にも浸透し、無党派層の3分の1からの支持を得て勝利に結びつけた。

みんなの党の田中は元東京杉並区議の経験を持ち、維新の会からの支持も得て得票を伸ばし、2位に食い込んだ。前職の首藤は、民主党支持層の減少に悩まされ、無党派層からの支持も4分の1程度にとどまり、民主の逆風に沈んだかたちである。

未来の党の山崎は、市議時代からの基盤であった青葉区を離れていたことから、未来の党支持層以外に広がりは見られず、敗北となった。共産党の比嘉は支持層が伸びず、届かなかった。

⑧ 8区（横浜市緑区・青葉区）

市内の北部に位置し、やや定住した地域と新興住宅地で横浜都民と呼ばれる層が多い選挙区である。ここでは、2003年に民主党の岩国哲人が当選して以降、連続して江田憲司が無所属・みんなの党と移りながらも勝利し

てきている。

今回は民主党は、前回の山崎が離党して7区に移ったことから、現職の県議・伊藤久美子を選挙直前に擁立して選挙選にのぞんだ。自民党は、05年から続けて福田峰之を立候補させ、共産党は新人・釘丸進を立候補させ、4党での争いとなった。

選挙結果は、本家の第三極を任じるみんなの党幹事長・江田が、知名度の高さと長年培ってきた地盤を生かして、12万票と幅広い支持を獲得して4回目の当選をはたした。みんなの党に限らず第三極を支持する層からの支持も得るとともに、民主党支持層から3割、無党派層から約7割の支持を得ての圧勝であった。

自民の福田は、前回の雪辱を果たすべく地域活動に専念し、自民・公明の6割以上を固め6万票を得て、比例代表で復活当選を果たした。民主の伊藤は、出遅れと準備不足は否めず、民主支持層の半分程度しか固めきれず、敗退した。共産党の釘宮は、支持層の減少もあって得票が伸びず、届かなかった。

⑨ 9区（川崎市多摩区・麻生区）

川崎市北部の典型的な住宅地で、川崎都民

神奈川9区 党派別候補者の得票推移		
2005年	山内 康一・自民	86,673
	笠 浩史・民主	82,878
	鴨下 元・共産	16,636
2009年	中山 展宏・自民	49,274
	笠 浩史・民主	127,219
	利根川武矩・共産	16,239
2012年	中山 展宏・自民	58,370
	笠 浩史・民主	67,448
	椎名 誠・みんな	41,454
	堀口 望・共産	15,773

と呼ばれるほど東京志向の強い選挙区である。ここでも選挙ごとに当選者が変わる状況であった。2003年には、県知事に転身した松沢成文の後を民主党でテレビ朝日出身の笠浩史が次いで当選し、05年には自民党の山内康一が当選し次点の民主笠は比例復活で当選した。09年には、自民は山内に替えて中山展宏を擁立したが、民主の笠が勝利している。今回は両党の他、みんなの党は新人・椎名誠を立候補させ、共産党は堀口望を立て、4党による争いとなった。

選挙結果は、民主の笠が、05年に小選挙区で敗れたものの比例代表で復活当選し3期の当選で築いた基盤が力を発揮し、民主党への逆風が吹く中、県内で唯一の小選挙区での勝利となった。民主党の支持層を固めたほか、維新、未来の党の支持者にも食い込み、無党派層からも約4割と浸透し、4期目の議席を獲得した。自民の中山は、自民党支持層のまとめがやや不足していたが終盤に盛り上げ前回より得票をのばし、比例代表で復活当選した。

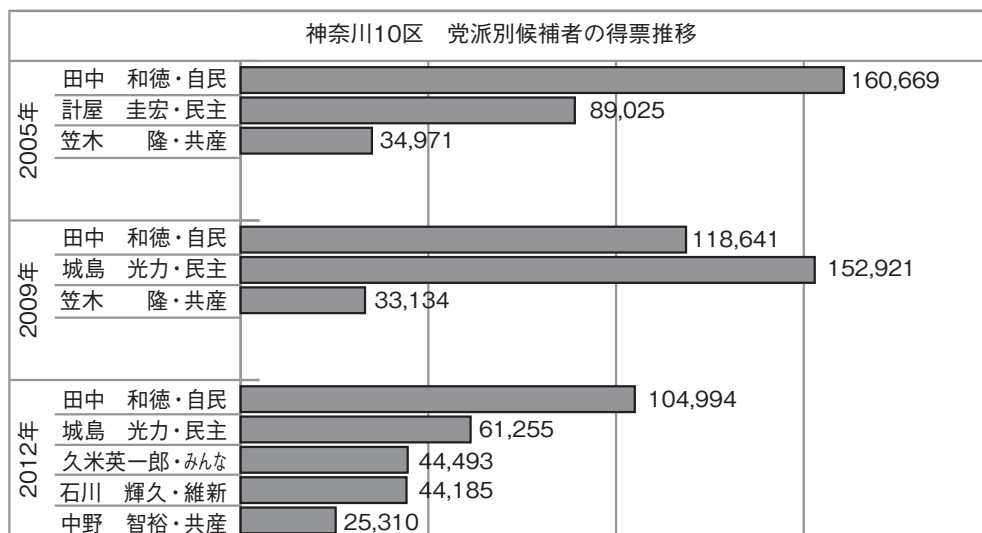
みんなの党の椎名は、推薦を受けた維新の支持層をまとめることができず、敗退した。

共産党の堀口は、支持層の減少もあって、届かなかった。

⑩10区（川崎市川崎区・幸区・中原区）

川崎南部の工業地帯から中部の住宅街まで含む広い選挙区で、有権者が県内で最大の選挙区である。2005年までは自民党の田中和徳が議席を確保していたが、09年に小選挙区の議席を失い比例復活当選となり、小選挙区での雪辱をめざしていた。民主党は09年にこれまでの計屋圭宏に替えて衆議院3期の城島光力を立てて勝利している。今回はこの両者の他、第三極からみんなの党の新人・久米栄一郎と維新の会からは民主党の県議（2011年緑区で落選）だった石川輝久が、そして共産党から中野智裕が立候補し、5党による争いとなった。

選挙結果は、自民の田中が厚い自民支持層をほぼ固め、公明党支持層の8割の支持を獲得し、前回の雪辱を果たした。女性層からの支持も多く、未来の党支持層にも食い込み、無党派層も城島と並ぶ支持を得て6期目の議席を獲得した。民主党の現職財務相であった城島は、連合や地元市議の支援を受け民主支



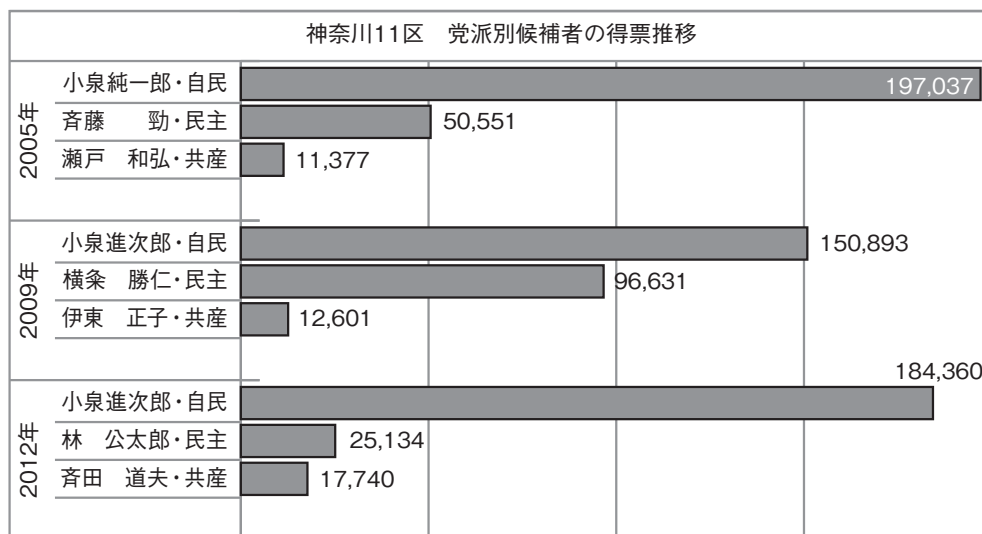
持層のほとんどを固めたが、民主党への支持が細る中支持を広げられず、涙を飲んだ。

維新の会の久米は、維新支持層を固めたものの、第三極同士の競合もあって票の拡大は果たせなかった。みんなの党の石川は、11月になって公認が決まるなど立ち上がりが遅く、国替えにより知名度も低く票は伸びなかった。共産党の中野は、支持層が大きく減ったことから得票を減らし、届かなかった。

⑪11区（横須賀市・三浦市）

県最南部の三浦半島の2市からなり、旧海

軍からの古い歴史を持つ米軍基地があり、住宅地と農漁業の盛んな海に囲まれた選挙区である。ここは、自民党の金城湯池であり、小選挙区制になる以前から小泉純一郎元首相の地盤として、2009年以降は2男進次郎がその後を継ぎ連続当選の回数をのばしている。民主党は03年の沢木優輔、05年に斉藤勁、09年に横条勝仁を立てたがいずれも敗れ、前回の横条は比例復活当選を果たすが菅内閣の不信任に賛成して離党した。そのため今回は衆院秘書林公太郎を擁立した。その他、共産党の斉田道夫と無所属2名が立候補した。



選挙結果は、曾祖父の時代から受け継ぐ厚い基盤に乗って、終始安定した闘いを進めた自民の小泉が 18 万票を超える得票を得て、全国 2 位の高得票当選となった。自らは選挙区にはあまり入らず他候補の応援で全国に飛び回りながらも、党の青年局長の知名度を生かし、無党派層からも 7 割以上の支持を集めて圧勝した。

民主の林は、横糸の離党による民主への不信と、公認が 11 月と遅かったため、票を伸ばすことができずに敗れた。共産党の斉田は、前回よりも得票をのばしたものの、届かなかった。

第三極からの立候補者もなく、小泉の圧勝に終わったためか、この選挙区の無効票が 3% と高かったのが特徴的であった。

⑫12 区（藤沢市・寒川町）

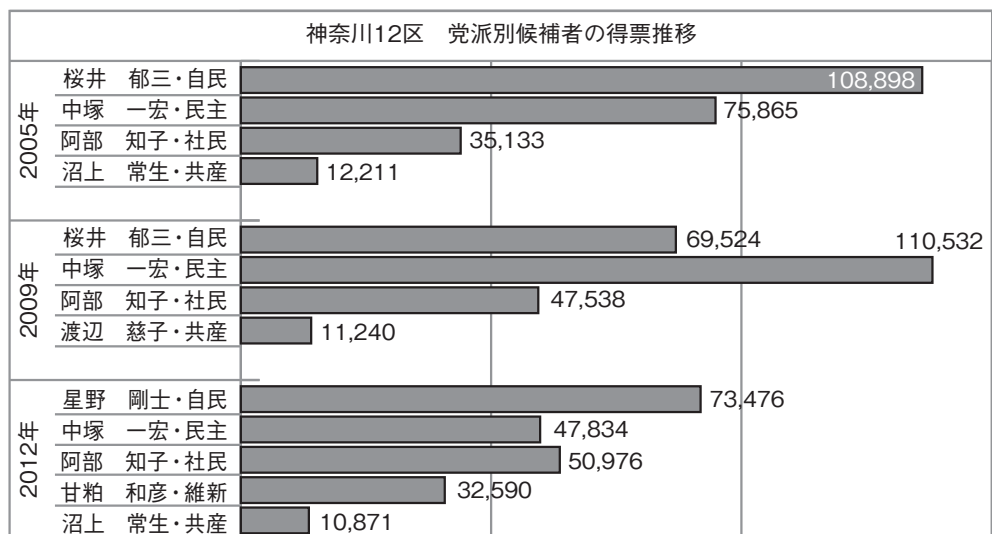
湘南の中心地で観光地・住宅地を抱える選挙区である。この選挙区でも選挙のたびに激しい選挙戦が繰り広げられ、小選挙区の当選者が交代し、比例復活当選者が多く出るという厳しさが目につく。2003 年には民主党の中塚一宏が当選、自民党の桜井郁三と社民党の阿部知子が復活当選し、05 年には自民の

桜井が勝ち、社民の阿部が復活当選し、09 年には民主の中塚が雪辱を果たし、社民の阿部が 4 度目の復活当選をしている。

今回は、自民の桜井が引退し 3 期続けて県会議員だった星野剛士が立候補し、民主は金融相に就任した中塚が、社民党から未来の党へ鞍替えした阿部、維新の会は新人・沼上常生、共産党は甘粕和彦が立候補して、5 党による争いとなった。

選挙結果は、自民党の基盤と公明党の支持を固めた星野が他の候補を振り切って勝利した。県議 3 期の実績を持ち、候補者を立てないみんなの党にも浸透して初議席を獲得した。未来の党に移った阿部は、旧来のしがらみから解き放たれて、幅広い支持を獲得することに成功し、無党派層の 3 分の 1 の支持を得て、比例代表で復活当選した。現職金融相となった民主の中塚は、民主党への批判をまともに受け、民主支持層の衰退を防ぐことができずに 3 位と敗退した。

維新の甘粕は、維新の会の支持層を十分つかむことができずに、敗れてしまった。共産党の沼上は、支持層の減少もあって届かなかった。



2005年	甘利 明・自民	174,361
	土田 龍司・民主	88,170
	近藤 知明・共産	22,907
2009年	甘利 明・自民	136,164
	橘 秀徳・民主	138,104
	近藤 知昭・共産	18,721
2012年	甘利 明・自民	111,733
	橘 秀徳・民主	38,637
	菅原 直敏・みんな	50,826
	太田 祐介・維新	43,754
	宮応 勝幸・共産	15,131

⑬13区（大和市・海老名市・座間市・綾瀬市）

県の中央にある4市で構成し、都市化が進行中の地域を持つ選挙区である。2005年までは自民党のベテラン甘利明の地盤として安定していたが、09年に民主党の新人橘秀徳にまさかの敗北をきし比例で復活当選していた。今回は、この両党と、県議を辞めて立候補したみんなの党の菅原直敏、維新の会からは新人の元海老名市議・太田佑介、そして共産党の宮応勝幸の5党で争われた。

選挙結果は、雪辱を期した自民の甘利が、広い保守層をまとめきり、経産相・労働省などの閣僚の経験を背景にした高い知名度を生かし切って、2位以下をダブルスコアで大勝した。自民・公明の支持基盤のほとんどを固めきり、無党派層からも3割と高い支持を得て10期目の当選を果たした。

第三極の候補者がここでは健闘し、みんなの党の菅原が大和市議・県議時代に得た高得票を基礎にしながら健闘したものの、第三極の票が割れたことにより次点にとどまった。維新の会の太田は、海老名市議トップ当選2

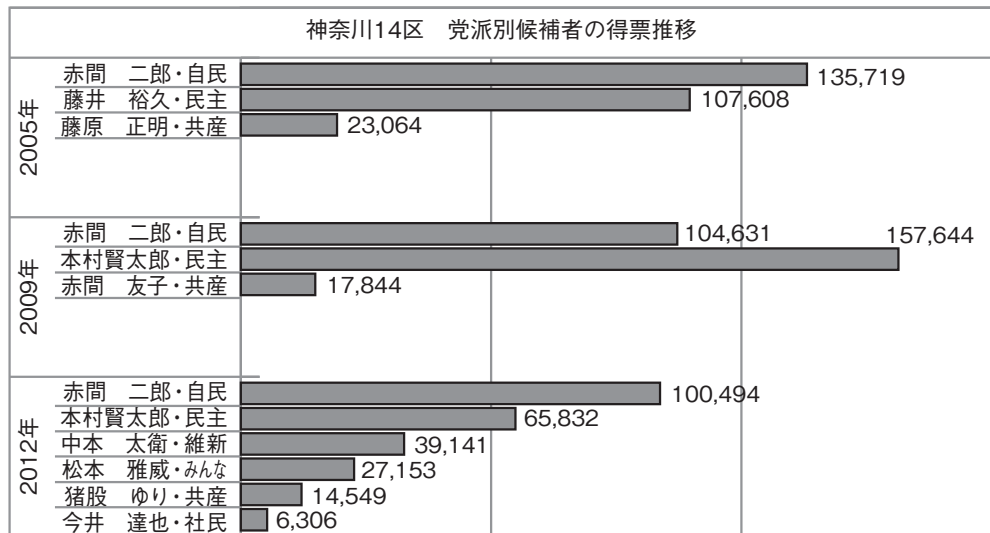
回の実績と若さを訴えたが、当選ラインには達しなかった。

民主党の橘は、民主党に対する逆風をまともに受け、自民党と第三極との挟撃を受けて前回より10万票も得票を減らし、4位となってしまった。共産党の宮応は、支持層が毎回減少しつつあり、届かなかった。

⑭14区（南区の一部と旧津久井郡を除く相模原市）

政令指定都市になる前に設定された選挙区であり、県北の旧津久井郡4町と南区の一部地域を除いた相模原市の中心部を基盤としている。ここでは、新進党・自由党そして民主党に移った藤井裕久の地盤であり2003年までその議席を維持していた。藤井は2005年に自民党の赤間二郎に敗れたため引退を表明して、後任に県議の木村賢太郎を指名した。09年の選挙では、藤井の後を受けた木村が当選した。藤井は党本部からの強い要請でこの選挙直前に民主党の南関東ブロック名簿第1位に登載され、議席を回復していた。

今回はこの両党に加え、維新の会が03年



に自民党から出馬して藤井に敗れた中本太衛を公認した。みんなの党は新人・松本雅威を擁立し、共産党は猪股ゆりを立て、社民党も県内でただ1人の候補者・今井達也を立候補させた。こうして、6党による選挙戦がたたかわれた。

選挙結果は、自民の赤間が分厚い保守層に支えられながら、自民党と公明党の支持を固めて、前回の10万票を確保して当選した。地道な後援会活動に支えられ、幅広い年齢層から支持を受けながら、無党派層の4分の1から支持を得て再選を果たした。民主党の本村は、民主党支持層が減少するという逆風の中でも党支持層のほとんどをまとめ、無党派層からも3割の支持を得たものの当選ラインに達しなかった。

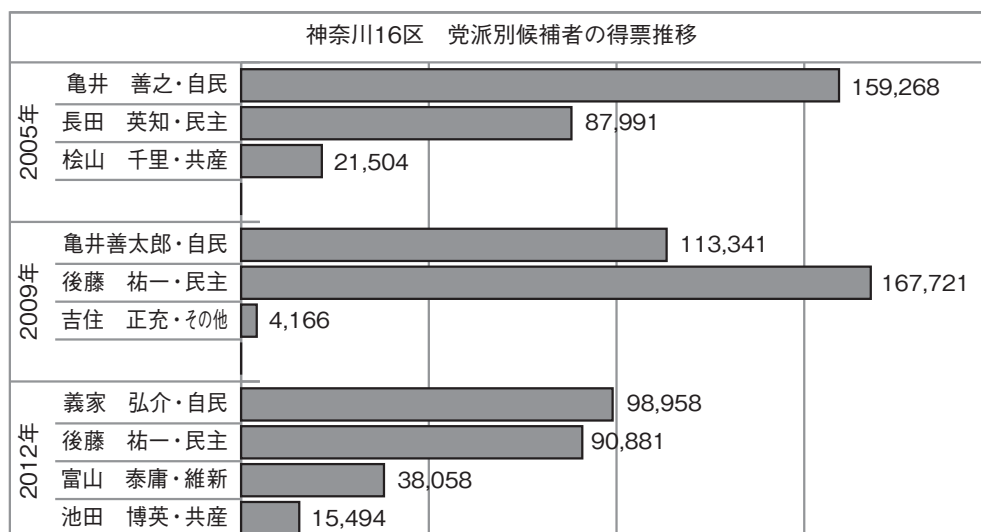
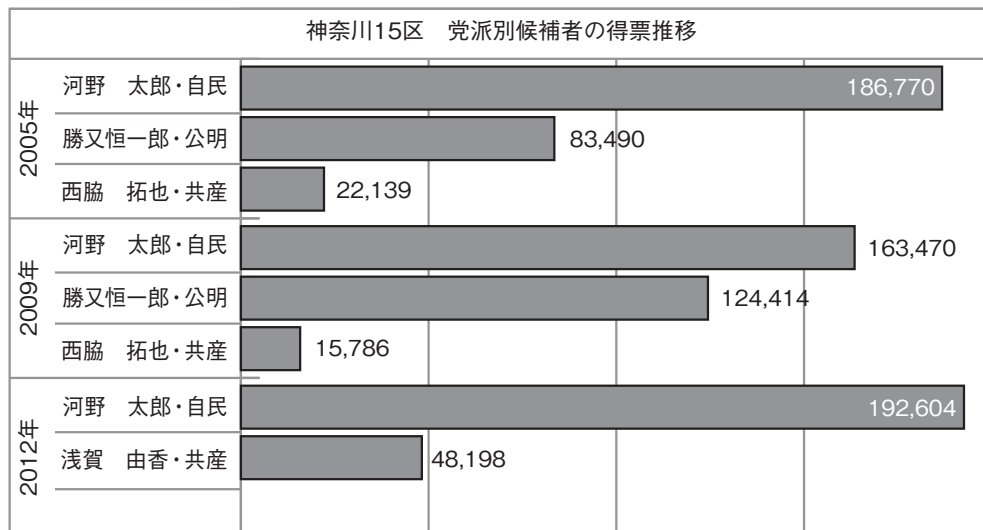
自民党・たちあがれ日本・維新の会と移り維新から立候補した中本は、その支持層をまとめきれなかった。みんなの党の松本も選挙直前に公認が決まったことから、知名度を上げるまでにいたらなかった。共産党の猪股は、党支持層が減少したこともあり、届かなかった。社民唯一の25歳の若手候補今井は、反原発を訴えたものの有権者に支持が得られなかった。

⑮15区（平塚市・茅ヶ崎市・中郡）

相模川を挟み、湘南海岸に沿った温暖な地の選挙区である。この地域は、一貫して保守政治家である河野一族の地盤とされており、中選挙区から小選挙区に移っても変わりはなく、河野洋平が17区、長男の河野太郎が15区と選挙区を分け引き継いできている。小選挙区になってからは河野太郎が議席を維持してきた。民主党は03年に酒井文彦、05年は勝又恒一郎が挑戦したが敗れている。そして前回比例代表で復活当選した勝又は、今回は3区に選挙区替えすることになり、民主党は候補者の擁立を見送ってしまった。

選挙戦は、河野と共産党の浅賀由香との一騎打ちとなったが、河野は全国第1位となる19万票の大量得票を得て圧勝した。河野は、自民・公明の支持層をすべて固め、民主支持層や第三極の支持層にも支えられ、無党派層の8割近くから得票を得ていた。

しかし、有権者には選択肢がなく、無効投票が実に7.4%となっており、各党の責任は大きいと言わざるを得ない。



⑩16区（厚木市・伊勢原市・愛甲郡、旧津久井郡、相模原市南区の一部）

県中央から北部にかけての丹沢山系を含む広い選挙区である。ここでは、自民党の亀井一族が強い基盤を持っており、亀井善之が2005年まで長く議席を守ってきた。06年に亀井の死去による補欠選挙で長男の善太郎がその地盤を引き継いだ。しかし、09年の選挙では補欠選挙でたまたった相手である民主党の後藤祐一が勝利した。

今回自民党は、亀井に代わって参議院議員から鞍替えした義家弘介を擁立し、民主党は

引き続き後藤を立てた。維新の会は新人の富山泰庸を、共産党は池田博英を立候補させ、4党による争いとなった。

選挙結果は、ヤンキー先生との異名を持つ自民の義家が、自民・公明支持層をまとめた上で子育て世代の30代からの支持も高く、当選となった。解散した亀井後援会、義家ファンや地元議員の後援会などの支援を受けて、全国的な知名度を生かして接戦を制しての勝利であった。民主の後藤は、地元厚木高校出身で地元に影響を持つ同窓会などを中心に活動を広げ、民主党支持層のほとんどと、無党

年	候補者・所属	得票数
2005年	河野 洋平・自民	169,825
	阪口 直人・民主	89,901
	鈴木新三郎・共産	20,117
2009年	牧島かれん・自民	105,806
	神山 洋介・民主	139,678
	井上 義行・無所属	42,881
2012年	牧島かれん・自民	98,019
	神山 洋介・民主	46,654
	井上 義行・みんな	54,337
	露木 順一・未来	44,013
	横田 英司・共産	9,848

派層の約半数を固めたが当選ラインに達しなかった。しかし、僅差の次点であったことから比例代表で復活当選した。

維新の党の富山は、出馬が解散後と遅れたことから準備不足で浸透せず、共産党の池田も党支持層が減少していることから、届かなかった。

⑰17区（小田原市・秦野市・南足柄市・足柄上・下郡）

県の西部に位置し、海岸から山麓までの広い地域を抱える選挙区である。ここでは、自民党の河野一族が長く地盤として培ってきており、2009年まで衆議院議長を務めて引退した河野洋平が長く議席を維持してきたが、自民の牧島かれんに後任を託したが、しかし、牧島が民主党の新人・神山洋介に敗れたので自民党の議席が途絶えていた。

今回は、この両党と、みんなの党から新人の井上義行が立候補し、未来の党からは元開成町長であった露木順一が公認され、共産党からは横田英司が立ち、5党により争われることになった。

選挙結果は、自民の牧島が河野王国の地盤

を引き継いで自民党支持層を固め、後援会の若返りにも取り組んだことから支持を広げ、前回より得票は減らしながらも初当選を果たした。自民党として県内小選挙区では初の女性議員となり、若い層からの支持も多く、無党派層からも3割以上の得票を得たのが勝因であるが、第三極の乱立で対立候補の得票が割れたことも大きく影響している。

第三極の本家を任じるみんなの党の井上は、前回無所属で出馬したが及ばなかったことからみんなの党に入り、小田原出身の強みを生かして得票をのばしたが、次点にとどまった。開成町長だった露木は、2011年の知事選で敗れた後、早くから国政入りを模索しており、未来の党から立候補し嘉田知事の政策を訴えたが、地元開成町からは大量得票を得たものの大票田小田原で票が伸びず、敗退した。しかし、比例代表の未来の党への得票拡大には大きく貢献していた。

民主党の神山は、民主党への逆風の中で、支持基盤が縮小する中でもその支持層を十分固めきれなかったことと、前回支持が大きかった無党派層から2割しか得票を得られなかったため、大敗という結果となった。共産党

の横田は、前回立候補者を立てなかったことから支持層が減少し、届かなかった。

⑩18区（川崎市高津区・宮前区）

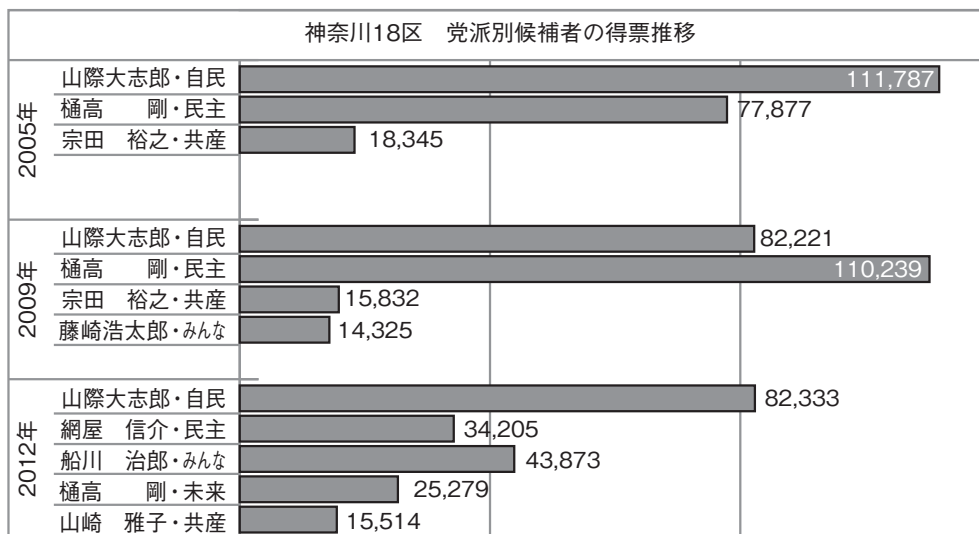
川崎市の中央に位置する住宅街を中心にしており、2003年の選挙からそれまで横浜市青葉区と一緒にあった宮前区と、多摩・麻生と同じ選挙区であった高津区が一緒になってできた選挙区である。東京都からの移住者も多く、当選者が選挙ごとに代わっている。03年は民主党の樋高剛が当選し、自民の山際大志郎は比例復活当選した。05年は自民の山際が勝ち、09年は民主の樋高が勝っていた。

今回は、樋高が民主党を離れ未来の党へ移ったことから、民主党は鹿児島から選挙区替えをした網屋信介を立候補させた。みんなの党からは新人船川治郎が公認され、共産党か

ら山崎雅子がたち、5党で争われることになった。

選挙結果は、自民党の山際が安定した力でリードを広げ、自民党・公明党支持層に深く浸透して当選を果たした。各党の支持層にも食い込みながら、無党派層の3割以上から支持を得て3期めの当選を果たした。みんなの党の船川は、維新からの推薦も得て第三極の結集を呼びかけたが、得票は伸びず2位にとどまった。

民主党の網屋は、鞍替えから選挙期間が短く、知名度の低さは決定的で党支持層への浸透も半分程度にとどまり、連続して立候補している樋高との支持者の奪い合いも起きていた。未来の党から出馬した樋高は、民主党離れした層からの支援も得られず低迷した。共産党は、前回とほぼ同数の得票を得たが、届かなかった。



【2012年6月以降の政局日誌】

2012年	
6月26日	社会保障・税一体改革関連法案が衆院本会議で採決された（賛成 363 票、反対 96 票）。これに反発して、57 人の民主党議員が反対した。欠席・棄権を含む造反者は 70 人以上。
6月26日	「決める政治を作り出していきたい。私の（マニフェストの）原点から外れているつもりはまったくくない」増税法案の衆院通過を受けた記者会見で野田首相。
7月11日	民主党に離党届を出した衆議院議員 37 人および同党を離党した参議院議員 12 人、計 49 人により「国民の生活が第一」を結成。代表小沢一郎。
7月17日	「みどりの風」を、民主党を離党した議員 3 名（谷岡郁子、舟山康江、行田邦子）、先に国民新党を離党した亀井亜紀子の 4 名の参議院議員によって参議院の院内会派として結成。
8月6日	「法案通過の暁には近いうちに国民の信を問う」民自公党首会談で野田首相。
8月10日	消費税改正法案成立。2014 年 4 月から税率を 8% に、2015 年 10 月から 10% に引き上げる。
8月29日	野田首相への問責決議、参院で可決。119 日後の 12 月 26 日に内閣総辞職。
9月8日	大阪維新の会所属議員による会議で国政進出を正式決定。国政政党名を「日本維新の会」とすることで合意。
9月11日	自民党・民主党・みんなの党に所属する国会議員 7 名が維新の会へ合流を表明。なお総選挙までに三党から合流した国会議員は合わせて 13 名となった。
9月11日	日本政府は魚釣島、北小島、南小島の 3 島を 20 億 5 千万円で購入。これにより中国各地では抗議活動が発生し、日本人への暴行が相次ぐ。
9月21日	民主党代表選挙で野田佳彦 (818P) が、原口一博 (154P)・赤松広隆 (123P)・鹿野道彦 (113P) を破り再選。
9月26日	自民党総裁選挙で、第 1 回投票で石破茂 (199) が安倍晋三 (141)・石原伸晃・町村信孝・林芳正を破り第 1 位となるが、決選投票で安倍晋三 (108:89) が逆転勝利。石破を幹事長に指名。
10月25日	石原慎太郎東京都知事の辞任、第 3 極連携の焦点に
11月13日	石原氏と「たちあがれ日本」の 5 人の国会議員が合流し「太陽の党」結成。石原氏は平沼赳夫と共同代表に。
11月14日	野田首相「消費税を引き上げる前に定数削減で結論を出そう。ご決断いただければ、16 日に解散してもいい」衆院の党首討論で。
11月15日	「国民の生活が第一」新党きづなと合流、衆院 46 名。
11月15日	太陽の党が「減税日本」（河村たかし代表）と合併することを発表。翌日にそれを撤回。
11月16日	衆院解散。
11月17日	石原と創った「太陽の党」を解党して「日本維新の会」に合流することを決め、石原氏は「日本維新の会」の新代表に、橋下大阪市長は代表代行に。
11月27日	嘉田由紀子滋賀県知事が「日本未来の党」結成を発表。
11月28日	小沢一郎が代表だった「国民の生活が第一」が解党して「未来の党」に合流。
12月4日	衆議院総選挙公示 未来の党は比例代表名簿の順位確定が遅れ、全ブロックの名簿の中央選挙管理会への届け出が大幅にずれ込んだ

12月16日	衆院選開票結果、自民294・公明31で与党325の3分の2以上の議席を獲得。民主57名に激減し歴史的敗北を喫する。維新54で第3党、みんな18、未来9、共産2、社民・国民新党・新党大地各1、無所属5
12月17日	野田民主党代表、選挙の敗北の責任を取って辞任を表明。
12月25日	民主党代表選挙で海江田万里が馬淵澄夫を破り当選。
12月26日	国会で安倍晋三自民党総裁を首相に指名。第二次安倍内閣発足。
12月27日	旧国民の生活が第一に所属する衆議院議員7名と参議院議員8名が「生活の党」に党名を変更して存続、阿部知子衆議院議員1名による政治団体「日本未来の党」を新たに設立。
12月27日	日本未来の党を離党した亀井静香衆議院議員と新党大地を離党した平山誠参議院議員がみどりの風に合流し、政党要件（所属議員5名以上）を回復、国政政党に復帰した。

<出所：新聞報道等をもとに上林作成。>

〈目 次〉

- 1 第46回衆議院総選挙 党派別・ブロック別獲得議席数・得票数(全国)・・・44
- 2 第46回衆議院総選挙 神奈川県内小選挙区選出議員選挙の結果・・・・・・・・46
- 3 第46回衆議院総選挙 神奈川県内小選挙区選挙の結果・・・・・・・・48
- 4 第46回衆議院総選挙 神奈川県内比例区選挙結果・・・・・・・・50
- 5 第43～46回衆議院総選挙 小選挙区・比例区選挙結果比較・・・・・・・・54

資料1 第46回衆議院総選挙 党派別・ブロック別獲得議席数・得票数 (全国)

	自民党			民主党			日本維新の会			公明党			みんなの党						
	定数	議席	得票数	得票数	得票数	得票率	議席	得票数	得票数	得票数	得票率	議席	得票数	得票数	得票率	議席	得票数	得票数	得票率
北海道	小選挙区	12	11	1,049,010	0	640,707	24.7%	0	129,727	5.0%	1	87,930	3.4%	0	114,367	4.4%			
	比例区	8	3	692,304	2	477,356	18.2%	1	333,760	12.7%	1	289,011	11.0%	0	155,522	5.9%			
東北	小選挙区	25	19	1,957,599	4	1,061,438	24.3%	0	368,858	8.4%				0	71,631	1.6%			
	比例区	14	5	1,238,716	3	805,709	18.6%	2	725,006	16.7%	1	398,131	9.2%	1	306,102	7.1%			
北関東	小選挙区	32	27	2,829,910	2	1,266,206	19.8%	0	682,500	10.7%				1	523,646	8.2%			
	比例区	20	6	1,820,116	3	976,922	15.1%	4	1,169,781	18.1%	3	820,358	12.7%	2	787,462	12.2%			
南関東	小選挙区	34	26	3,129,695	4	1,620,101	21.5%	0	674,635	9.0%	1	82,147	1.1%	2	916,931	12.2%			
	比例区	22	6	2,020,043	4	1,323,048	17.3%	5	1,443,270	18.9%	2	810,936	10.6%	3	951,294	12.4%			
東京	小選挙区	25	21	2,436,681	2	1,388,856	21.7%	0	841,492	13.2%	1	114,052	1.8%	1	463,918	7.3%			
	比例区	17	5	1,626,057	3	1,008,011	15.4%	3	1,298,309	19.9%	2	662,743	10.1%	2	762,730	11.7%			
北陸信越	小選挙区	20	18	1,794,503	2	1,020,545	27.9%	0	286,966	7.9%				0	84,817	2.3%			
	比例区	11	4	1,162,095	2	682,159	18.6%	3	707,497	19.3%	1	307,138	8.4%	1	275,399	7.5%			
東海	小選挙区	33	27	3,038,032	6	2,187,093	30.8%	0	587,183	8.3%				0	124,986	1.8%			
	比例区	21	7	1,966,007	4	1,321,402	18.5%	4	1,356,970	19.0%	2	779,577	10.9%	2	644,087	9.0%			
近畿	小選挙区	48	24	3,126,014	6	1,941,392	20.2%	12	2,264,763	23.6%	6	601,752	6.3%	0	268,669	2.8%			
	比例区	29	7	2,326,005	3	1,173,051	12.0%	10	2,999,020	30.8%	4	1,234,345	12.7%	2	635,381	6.5%			
中国	小選挙区	20	18	2,020,556	0	792,337	22.7%	1	240,302	6.9%				0	24,370	0.7%			
	比例区	11	5	1,210,400	2	570,764	16.3%	2	622,226	17.7%	2	493,800	14.1%	0	209,627	6.0%			
四国	小選挙区	13	12	970,416	1	425,804	23.0%	0	214,537	11.6%									
	比例区	6	2	567,193	1	296,914	16.0%	2	394,393	21.3%	1	276,907	15.0%	0	93,090	5.0%			
九州	小選挙区	38	34	3,290,890	0	1,254,291	18.8%	1	651,388	9.8%				0	213,909	3.2%			
	比例区	21	7	1,995,521	3	993,317	14.9%	4	1,211,996	18.2%	3	1,043,528	15.6%	1	424,892	6.4%			
全国合計	小選挙区	300	237	25,643,309	27	13,598,773	22.8%	14	6,942,353	11.6%	9	885,881	1.5%	4	2,807,244	4.7%			
	比例区	180	57	16,624,457	30	9,628,653	16.0%	40	12,262,228	20.4%	22	7,116,474	11.8%	14	5,245,586	8.7%			
	議席計	480	294		57			54			31			18					

※出所：「平成24年12月16日執行 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査結果調」(平成24年12月21日 総務省自治行政局選挙部)をもとに上林作成

議席	未来の党		共産党		社民党		その他・諸派		無所属		合計		
	得票数	得票率	議席	得票数	得票率	議席	得票数	得票率	議席	得票数	得票率	議席	得票数
0	25,793	1.0%	0	221,159	8.5%	0	0	327,299	12.6%	12	2,595,992	12	2,595,992
0	81,838	3.1%	0	182,968	7.0%	0	1	357,354	13.6%	8	2,618,464	8	2,618,464
1	467,825	10.7%	0	288,348	6.6%	0	0	2,518	0.1%	0	73,389	24	4,368,206
1	391,216	9.0%	1	256,838	5.9%	0	0	56,412	1.3%	13	4,338,497	13	4,338,497
0	285,727	4.5%	0	463,454	7.2%	0	0	2,354	0.0%	32	6,394,856	32	6,394,856
1	387,625	6.0%	1	367,245	5.7%	0	0	19,795	0.3%	20	6,467,350	20	6,467,350
0	463,247	6.1%	0	546,918	7.3%	0	0	10,965	0.1%	34	7,534,244	34	7,534,244
1	477,309	6.2%	1	447,890	5.9%	0	0	20,987	0.3%	22	7,641,968	22	7,641,968
0	428,421	6.7%	0	570,018	8.9%	0	0	18,241	0.3%	25	6,388,207	25	6,388,207
1	448,689	6.9%	1	484,365	7.4%	0	0	109,814	1.7%	17	6,537,607	17	6,537,607
0	89,577	2.5%	0	265,853	7.3%	0	0	2,239	0.1%	20	3,651,487	20	3,651,487
0	178,403	4.9%	0	210,219	5.7%	0	0	15,767	0.4%	11	3,667,120	11	3,667,120
0	618,962	8.7%	0	481,267	6.8%	0	0	18,775	0.3%	34	7,097,895	34	7,097,895
1	511,048	7.2%	1	387,461	5.4%	0	0	29,739	0.4%	21	7,132,607	21	7,132,607
0	226,870	2.4%	0	975,595	10.2%	0	1	86,042	0.9%	49	9,598,905	49	9,598,905
1	481,603	4.9%	2	732,976	7.5%	0	0	33,509	0.3%	29	9,748,954	29	9,748,954
1	148,398	4.3%	0	251,085	7.2%	0	0	2,480	0.1%	20	3,484,853	20	3,484,853
0	141,360	4.0%	0	174,648	5.0%	0	0	14,383	0.4%	11	3,505,861	11	3,505,861
0	28,805	1.6%	0	162,177	8.8%	0	0	3,395	0.2%	13	1,848,916	13	1,848,916
0	63,830	3.4%	0	106,976	5.8%	0	0	8,171	0.4%	6	1,850,236	6	1,850,236
0	208,740	3.1%	0	474,413	7.1%	1	1	123,812	0.1%	36	6,662,993	36	6,662,993
1	260,994	3.9%	1	337,573	5.1%	1	0	102,695	1.5%	21	6,671,224	21	6,671,224
2	2,992,365	5.0%	0	4,700,289	7.9%	1	1	598,120	1.0%	5	1,006,468	300	59,626,567
7	3,423,915	5.7%	8	3,689,159	6.1%	1	1	768,626	1.2%	0	0	180	60,179,888
9			8			2	2			5		480	

※出所：「平成24年12月16日執行 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査結果調」（平成24年12月21日 総務省自治行政局選挙部）をもとに上林作成

資料2 第46回衆議院小選挙区選出議員選挙 (2012年12月16日執行)

選挙区名	当落	得票	得票率	惜敗率	候補者氏名	年齢	党名	前	職業・経歴
第1区	当	101,238	41.2%	-	松本 純	62	自民	前⑤	党副幹事長、元官房副長官
		50,927	20.7%	50.3%	中林美恵子	52	民主	前①	元跡見学園女大准教授
		41,198	16.8%	40.7%	松本 孝一	52	維新	新	元総務省室長
		36,706	14.9%	36.3%	山下 頼行	39	みんな	新	NTTコム社員
		15,664	6.4%	15.5%	明石 行夫	53	共産	新	システムエンジニア自営
第1区計		245,733							
第2区	当	138,040	57.9%	-	菅 義偉	64	自民	前⑥	党幹事長代行、元総務相
		71,302	29.9%	51.7%	三村 和也	37	民主	前①	党政調会長補佐、元経産省職員
		28,947	12.1%	21.0%	児玉 俊明	50	共産	新	党地区常任委員
第2区計		238,289							
第3区	当	85,451	37.0%	-	小此木 八郎	47	自民	元⑥	元経産副大臣
		39,781	17.2%	46.6%	高橋 真由美	44	維新	新	元商品企画会社役員
		34,738	15.0%	40.7%	勝又 恒一郎	50	民主	前①	元神奈川県議・松下政経塾生
		32,189	13.9%	37.7%	毛呂 武史	44	みんな	新	元逗子市議・参院議員秘書
		22,163	9.6%	25.9%	岡本 英子	48	未来	前①	元横浜市議・衆院議員秘書
	16,773	7.3%	19.6%	本橋 佳世	39	共産	新	党地区委員	
第3区計		231,095							
第4区	当	100,632	48.7%	-	浅尾 慶一郎	48	みんな	前②	党政調会長、元参院議員
	比	57,542	27.8%	57.2%	山本 朋広	37	自民	元②	元松下政経塾生
		33,022	16.0%	32.8%	荻原 隆宏	42	民主	新	元横浜市議・衆院議員秘書
		15,456	7.5%	15.4%	加藤 勝広	68	共産	新	全労連共済理事、元NTT社員
第4区計		206,652							
第5区	当	107,796	40.8%	-	坂井 学	47	自民	元②	元衆院議員秘書
		46,632	17.6%	43.3%	湯沢 大地	45	維新	新	教育団体顧問・飲食店経営
		43,786	16.6%	40.6%	池田 東一郎	51	みんな	新	元衆院議員秘書
		30,494	11.5%	28.3%	田中 慶秋	74	民主	前⑥	元法相・神奈川県議
		19,512	7.4%	18.1%	横山 征吾	41	共産	新	党地区役員、元精機製造社員
	16,268	6.2%	15.1%	河野 敏久	56	未来	新	学習塾会社代表、元中学校教諭	
第5区計		264,488							
第6区	当	82,147	37.4%	-	上田 勇	54	公明	元⑥	党神奈川県代表、元財務副大臣
	比	69,511	31.6%	84.6%	青柳 陽一郎	43	みんな	新	元参院議員秘書
		51,819	23.6%	63.1%	池田 元久	71	民主	前⑥	元経産副大臣・NHK記者
		16,369	7.4%	19.9%	藤井 悦雄	60	共産	新	党神奈川県委員
第6区計		219,846							
第7区	当	105,920	42.1%	-	鈴木 馨祐	35	自民	元②	元党報道局次長・財務省職員
		58,380	23.2%	55.1%	田中 朝子	53	みんな	新	元杉並区議・楽譜出版社役員
		53,958	21.5%	50.9%	首藤 信彦	67	民主	前③	元東海大教授
		20,743	8.3%	19.6%	山崎 誠	50	未来	前①	元横浜市議・日揮社員
		12,422	4.9%	11.7%	比嘉 常一	54	共産	新	党地区委員長、元臨床検査技師
第7区計		251,423							
第8区	当	127,294	54.1%	-	江田 憲司	56	みんな	前④	党幹事長、元首相秘書官
	比	60,643	25.8%	47.6%	福田 峰之	48	自民	元②	元横浜市議・衆院議員秘書
		33,769	14.4%	26.5%	伊藤 久美子	53	民主	新	元特許事務所員・神奈川県議
		13,526	5.8%	10.6%	釘丸 進	39	共産	新	党地区副委員長
第8区計		235,232							
第9区	当	67,448	36.8%	-	笠 浩史	47	民主	前④	文科副大臣、元テレ朝記者
	比	58,370	31.9%	86.5%	中山 展宏	44	自民	新	元衆院議員秘書・証券会社員
	比	41,454	22.6%	61.5%	椎名 毅	37	みんな	新	弁護士
		15,773	8.6%	23.4%	堀口 望	36	共産	新	党地区常任委員、元学童指導員
第9区計		183,045							

第10区	当	104,994	37.5%	-	田中 和徳	63	自民	前⑥	元財務副大臣・神奈川県議
		61,255	21.9%	58.3%	城島 光力	65	民主	前④	財務相、元党国対委員長
		44,493	15.9%	42.4%	久米 英一郎	47	みんな	新	参院議員秘書、元日航社員
		44,185	15.8%	42.1%	石川 輝久	62	維新	新	元神奈川県議・衆院議員秘書
		25,310	9.0%	24.1%	中野 智裕	54	共産	新	党地区委員長
第10区計		280,237							
第11区	当	184,360	79.9%	-	小泉 進次郎	31	自民	前②	党青年局長、元衆院議員秘書
		25,134	10.9%	13.6%	林 公太郎	30	民主	新	元衆院議員秘書
		17,740	7.7%	9.6%	斉田 道夫	64	共産	新	元横浜市職員
		2,131	0.9%	1.2%	森本 敏秀	64	無所属	新	元食品会社員
		1,489	0.6%	0.8%	岩田 吉喜	54	無所属	新	会社員
第11区計		230,854							
第12区	当	73,476	34.1%	-	星野 剛士	49	自民	新①	元神奈川県議
	比	50,976	23.6%	69.4%	阿部 知子	64	未来	前⑤	党副代表、元社民政審会長
		47,834	22.2%	65.1%	中塚 一宏	47	民主	前③	金融相、元内閣府副大臣
		32,590	15.1%	44.4%	甘粕 和彦	29	維新	新	元住宅設備会社員
		10,871	5.0%	14.8%	沼上 常生	54	共産	新	党地区委員長
第12区計		215,747							
第13区	当	111,733	43.0%	-	甘利 明	63	自民	前⑩	党政調会長、元行革担当相
		50,826	19.5%	45.5%	菅原 直敏	34	みんな	新	元神奈川県議・大和市議
		43,754	16.8%	39.2%	太田 祐介	38	維新	新	元海老名市議・雑誌編集者
		38,637	14.9%	34.6%	橘 秀徳	43	民主	前①	党幹事長補佐、元衆院議員秘書
		15,131	5.8%	13.5%	宮応 勝幸	69	共産	新	元横浜税関職員
第13区計		260,081							
第14区	当	100,494	39.6%	-	赤間 二郎	44	自民	元②	保護司、元神奈川県議
		65,832	26.0%	65.5%	本村 賢太郎	42	民主	前①	元神奈川県議・衆院議員秘書
		39,141	15.4%	38.9%	中本 太衛	47	維新	元①	IT会社役員、元松下政経塾生
		27,153	10.7%	27.0%	松本 雅威	41	みんな	新	コンサル会社員
		14,549	5.7%	14.5%	猪股 ゆり	28	共産	新	元歌声喫茶店員
	6,306	2.5%	6.3%	今井 達也	25	社民	新	党支部常任幹事	
第14区計		253,475							
第15区	当	192,604	80.0%	-	河野 太郎	49	自民	前⑥	元法務副大臣・党副幹事長
		48,198	20.0%	25.0%	浅賀 由香	32	共産	新	元運輸会社役員
第15区計		240,802							
第16区	当	98,958	40.7%	-	義家 弘介	41	自民	新①	元参院議員・高校教諭
	比	90,881	37.3%	91.8%	後藤 祐一	43	民主	前②	元経産省職員
		38,058	15.6%	38.5%	富山 泰庸	41	維新	新	元タレント
		15,494	6.4%	15.7%	池田 博英	50	共産	新	党地区委員長、元大学生協職員
第16区計		243,391							
第17区	当	98,019	38.8%	-	牧島 かれん	36	自民	新①	大学客員教授
		54,337	21.5%	55.4%	井上 義行	49	みんな	新	元首相秘書官
		46,654	18.4%	47.6%	神山 洋介	37	民主	前①	元松下政経塾生・保険会社員
		44,013	17.4%	44.9%	露木 順一	57	未来	新	元開成町長・NHK記者
		9,848	3.9%	10.0%	横田 英司	55	共産	新	元ソフト開発会社員
第17区計		252,871							
第18区	当	82,333	40.9%	-	山際 大志郎	44	自民	元③	獣医師、元党国際局長
		43,873	21.8%	53.3%	船川 治郎	45	みんな	新	元人材育成会社社長
		34,205	17.0%	41.5%	網屋 信介	55	民主	前①	財務政務官、元外資証券役員
		25,279	12.6%	30.7%	樋高 剛	47	未来	前③	元衆院議員秘書
		15,514	7.7%	18.8%	山崎 雅子	50	共産	新	元川崎市職員
第18区計		201,204							

※出所:「平成24年12月16日執行 衆議院小選挙区選出議員選挙の結果」(神奈川県選挙管理委員会)及び朝日新聞(2012年12月5日)をもとに上林作成

資料 3 第46回衆議院総選挙 神奈川県内小選挙区選挙の結果 (2012年12月16日執行)

選挙区名	市区町村名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)	前回投票率(%)	有効投票数(人)	自民党		民主党		みんなの党		日本維新の会		公明党		日本未来の党		共產党		無所属		
							得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数
第1区	横浜市 中区	114,172	64,289	56.31	63.05	62,531	松本 純	26,497	42.4%	中林美恵子	11,559	18.5%	山下順行	10,881	17.4%					明石行夫	3,892	6.2%	
	同 磯子区	135,093	79,779	59.05	68.82	77,776		31,480	40.5%	16,807	21.7%	11,509	14.8%	12,917	16.6%					5,003	6.4%		
	同 金沢区	169,058	108,000	63.88	71.20	105,427		43,521	41.0%	15,495	14.7%	17,401	16.5%							6,769	6.4%		
	1区計	418,323	252,068	60.26	68.24	245,734		101,233	41.2%	50,927	20.7%	36,706	14.9%	41,199	16.8%					15,664	6.4%		
	候補者名							菅 義偉	三村和也											原玉後明			
第2区	同 西区	80,041	46,869	58.56	66.84	44,203		25,696	58.1%	13,251	30.0%								5,256	11.9%			
	同 南区	163,675	92,556	56.55	65.58	87,610		51,270	58.5%	24,865	28.4%								11,475	13.1%			
	同 港南区	180,374	111,790	61.98	71.38	106,476		61,074	57.4%	33,186	31.2%								12,216	11.5%			
	2区計	424,090	251,215	59.24	68.30	238,289		138,040	57.9%	71,302	29.9%								28,947	12.1%			
	候補者名							小比木八郎	勝又恒一郎	毛呂史史	高橋真由美									本橋佳世			
第3区	横浜市長見区	223,672	126,863	56.72	64.36	123,261		46,103	37.4%	17,744	14.4%								16,633	13.3%	11,497	9.3%	
	同 神奈川区	189,920	110,751	58.31	65.91	107,834		39,346	36.5%	16,994	15.8%								10,666	9.9%	7,100	6.6%	
	3区計	413,592	237,614	57.45	65.08	231,095		85,451	37.0%	34,738	15.0%								32,189	13.9%	39,781	17.2%	
	候補者名							山本朋広	萩原健宏	浅尾慶一郎										加藤勲広			
	横浜市 栄区	103,339	65,841	63.71	72.55	63,984		18,966	29.6%	11,202	17.5%								4,371	6.8%			
第4区	鎌倉市	148,905	96,626	64.89	71.69	93,947		24,532	26.1%	14,917	15.9%								7,466	7.9%			
	逗子市	50,016	32,200	64.38	72.92	31,290		8,761	28.0%	4,514	14.4%								2,281	7.3%			
	三浦郡葉山町	27,706	17,906	64.63	72.76	17,431		5,283	30.3%	2,389	13.7%								1,338	7.7%			
	4区計	329,966	212,573	64.42	72.24	206,652		57,942	27.9%	33,022	16.0%								15,456	7.5%			
	候補者名							坂井 学	田中慶秋	池田東一郎	湯沢大地									河野敏久			
第5区	横浜市戸塚区	221,002	135,233	61.19	70.09	131,227		52,631	40.1%	15,042	11.5%								8,066	6.1%	9,420	7.2%	
	同 泉区	125,856	78,028	62.00	71.55	75,546		31,079	41.1%	9,059	12.0%								12,326	16.3%	13,035	17.3%	
	同 瀬谷区	101,847	59,938	58.85	68.47	57,715		24,086	41.7%	6,393	11.1%								8,803	15.3%	10,186	17.6%	
	5区計	448,705	273,199	60.89	70.13	264,488		107,796	40.8%	30,494	11.5%								43,786	16.0%	46,632	17.6%	
	候補者名							池田元久	青柳陽一郎	上田 勇										藤井悦雄			
第6区	同 保土ヶ谷区	166,933	102,212	61.23	69.63	97,881		21,647	22.1%	32,186	32.9%								7,260	7.4%			
	同 旭区	206,451	126,859	61.45	70.62	121,965		30,172	24.7%	37,325	30.6%								45,359	37.2%	9,109	7.5%	
	6区計	373,384	229,071	61.35	70.18	219,846		51,819	23.6%	69,511	31.6%								82,147	37.4%	16,369	7.4%	
	候補者名							鈴木善祐	首藤信彦	田中嗣子										山崎 誠			
	同 港北区	269,781	162,712	60.31	67.43	158,174		67,017	42.4%	33,796	21.4%								35,861	22.7%	12,822	8.1%	
第7区	同 都筑区	155,502	95,858	61.64	70.42	93,249		38,903	41.7%	20,162	21.6%								20,744	4.0%	7,921	8.5%	
	7区計	425,283	258,570	60.80	68.50	251,423		105,920	42.1%	53,958	21.5%								58,380	23.2%	20,743	8.3%	
	候補者名							福田隆之	伊藤久美子	江田藤司										釘丸 進			
	同 緑区	141,475	85,741	60.61	69.02	83,471		23,283	27.9%	11,895	14.3%								42,831	51.3%	5,462	6.5%	
	同 青葉区	240,961	155,195	64.41	71.89	151,761		37,360	24.6%	21,874	14.4%								84,463	55.7%	8,064	5.3%	
第8区	8区計	382,436	240,936	63.00	70.82	235,232		60,643	25.8%	33,769	14.4%								127,294	54.1%	13,526	5.8%	
	候補者名							中山展宏	笠 裕史	椎名 徹										堀口 望			
	川崎市多摩区	167,147	99,456	59.5	66.12	96,484		32,911	34.1%	32,596	33.8%								21,559	22.3%	9,418	9.8%	
	同 麻生区	136,740	89,293	65.3	71.38	86,561		25,459	29.4%	34,852	40.3%								19,895	7.3%	6,351	7.3%	
	9区計	303,887	188,749	62.11	68.45	183,045		58,370	31.9%	67,448	36.8%								41,454	22.6%	15,773	8.6%	
第9区	候補者名							田中裕徳	城島光力	久米一郎	石川輝久									中野智裕			
	川崎市山崎区	175,602	94,687	53.92	61.71	92,281		38,109	41.3%	18,113	19.6%								14,120	15.3%	9,393	10.2%	
	同 幸区	127,222	76,866	60.42	67.27	74,548		28,063	37.7%	16,864	22.6%								11,614	15.6%	11,553	15.5%	
	同 中原区	189,570	116,593	61.50	67.77	113,408		38,817	34.2%	26,278	23.2%								20,333	17.9%	18,512	16.3%	
	10区計	492,394	288,146	58.52	65.46	280,237		104,994	37.5%	61,255	21.9%								44,493	15.9%	44,185	15.8%	
第10区	候補者名							小泉進次郎	林 公太郎											芥田滙夫			
	横浜賀市	348,268	214,072	61.47	68.21	207,549		165,502	79.7%	23,089	11.1%									15,633	7.5%		
	三浦市	40,745	23,983	58.86	67.34	23,305		18,858	80.9%	2,045	8.8%								2,107	9.0%	295	1.3%	
	11区計	389,013	238,055	61.19	68.12	230,854		184,360	79.9%	25,134	10.9%								17,740	7.7%	3,620	1.6%	
	候補者名							星野剛士	中塚一宏											沼上常生			
第11区	藤沢市	337,288	199,533	59.16	66.80	194,658		66,095	34.0%	43,104	22.1%								46,500	23.9%	9,623	4.9%	
	高座郡葉山町	38,614	21,788	56.43	65.66	21,089		7,381	35.0%	4,730	22.4%								4,476	21.2%	1,248	5.9%	
	12区計	375,902	221,321	58.88	66.68	215,747		73,476	34.1%	47,834	22.2%								50,976	23.6%	10,871	5.0%	
	候補者名							甘粕和彦												阿部知子			
	岩田吉晋・藤本敏秀																						

資料3-2(つづき)

市区町村名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)	前回投票率(%)	有効投票数	自民党		民主党		みんなの党		日本維新の会		公明党		日本未来の党		共産党		社民党		無所属				
						得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数
第13区	大和市	185,962	66.15	103,855	41,154	39.6%	14,391	13.9%	26,256	25.3%	15,898	15.3%	14,391	13.9%	6,156	5.9%	3,417	5.5%	3,794	6.6%	1,764	4.8%	15,131	5.8%		
	海老名市	103,358	63.715	70,655	26,974	43.4%	9,941	16.0%	9,937	16.0%	11,879	19.1%	11,879	19.1%	6,156	5.9%	3,417	5.5%	3,794	6.6%	1,764	4.8%	15,131	5.8%		
	座間市	105,232	56.19	65,891	25,295	44.1%	30,947	35.6%	24,200	27.8%	10,353	11.9%	13,620	15.7%	14,549	5.7%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%	1,174	2.5%		
	綾瀬市	66,733	67.79	36,728	18,310	49.9%	5,215	14.2%	5,438	14.8%	6,001	16.3%	6,001	16.3%	14,549	5.7%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%	1,174	2.5%		
	13区計	461,285	67.34	260,081	111,733	43.0%	38,637	14.9%	50,826	19.5%	43,754	16.8%	43,754	16.8%	15,131	5.8%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%	1,174	2.5%		
第14区	相模原市緑区1	83,210	66.45	47,198	18,506	39.2%	12,388	26.2%	5,180	11.0%	11,620	9.7%	17,983	15.1%	6,906	5.8%	2,522	3.0%	2,610	3.0%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%
	同 中央区	211,377	66.57	119,326	51,041	42.8%	29,244	24.5%	11,620	9.7%	17,983	15.1%	17,983	15.1%	6,906	5.8%	2,522	3.0%	2,610	3.0%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%
	同 南区	143,182	62.23	89,107	39,947	35.6%	24,200	27.8%	10,353	11.9%	13,620	15.7%	13,620	15.7%	6,906	5.8%	2,522	3.0%	2,610	3.0%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%
	同 14区計	437,769	67.45	253,475	100,494	39.6%	65,832	26.0%	27,153	10.7%	39,141	15.4%	39,141	15.4%	14,549	5.7%	6,306	2.5%	1,174	2.5%	2,422	5.1%	1,174	2.5%	2,422	5.1%
	候補者名																									
第15区	平塚市	210,432	55.04	108,237	87,413	80.8%	13,969	40.8%	12,295	35.9%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	茅ヶ崎市	193,205	57.72	102,368	81,352	79.5%	16,417	37.3%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	相模原市南区2	78,556	57.11	44,029	16,417	37.3%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	同 大井町	80,067	47.287	46,147	19,443	42.1%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	同 清川村	2,710	68.04	1,794	882	49.2%	599	33.4%	599	33.4%	599	33.4%	599	33.4%	222	12.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%
15区計	431,606	58.01	243,391	98,958	40.7%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	38,058	15.6%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	
第16区	相模原市緑区2	58,208	60.48	34,217	13,969	40.8%	12,295	35.9%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	相模原市南区2	78,556	57.92	44,029	16,417	37.3%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	15,862	36.0%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	厚木市	178,889	102.156	57,111	40,278	40.5%	38,154	38.4%	38,154	38.4%	38,154	38.4%	38,154	38.4%	15,360	15.5%	6,474	14.0%	2,467	6.0%	91	5.1%	1,075	6.0%		
	同 伊勢原市	80,067	47.287	46,147	19,443	42.1%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	17,678	38.3%	7,968	8.6%	3,782	8.6%	5,608	5.6%	2,552	5.5%	2,467	6.0%	91	5.1%
	同 豊田郡愛川町	33,176	55.38	17,804	7,969	44.8%	6,293	35.3%	6,293	35.3%	6,293	35.3%	6,293	35.3%	222	12.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%		
16区計	431,606	58.01	243,391	98,958	40.7%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	90,881	37.3%	38,058	15.6%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	15,494	6.4%	
第17区	小田原市	161,378	59.18	93,516	35,141	37.6%	17,061	18.2%	24,729	26.4%	12,911	13.8%	12,911	13.8%	3,674	3.9%	9,443	12.5%	3,477	4.6%	6,731	29.0%	846	16.9%	186	3.7%
	秦野市	132,601	68.16	75,812	31,026	40.9%	16,759	22.1%	15,107	19.9%	15,107	19.9%	15,107	19.9%	6,731	29.0%	846	16.9%	186	3.7%	196	2.8%	5,522	60.3%	135	1.5%
	南足柄市	36,145	23.568	23,192	8,231	35.5%	3,519	15.2%	3,952	17.0%	3,952	17.0%	3,952	17.0%	2,418	29.0%	270	3.2%	1,619	25.3%	184	2.9%	1,953	27.7%	196	2.8%
	同 足柄上郡中井町	8,022	63.76	5,019	2,325	46.3%	786	15.7%	846	16.9%	846	16.9%	846	16.9%	2,418	29.0%	270	3.2%	1,619	25.3%	184	2.9%	1,953	27.7%	196	2.8%
	同 大井町	13,886	61.21	7,093	3,122	37.4%	1,014	12.2%	1,521	18.2%	1,521	18.2%	1,521	18.2%	602	9.9%	288	4.8%	573	12.4%	159	3.4%	1,395	10.2%	520	3.8%
同 同 松田町	9,974	65.30	6,517	2,521	39.4%	863	13.5%	1,216	19.0%	1,216	19.0%	1,216	19.0%	1,395	10.2%	520	3.8%	1,395	10.2%	520	3.8%	1,395	10.2%	520	3.8%	
同 同 真鶴町	12,983	71.24	7,482	3,159	42.3%	1,162	16.5%	885	9.7%	885	9.7%	885	9.7%	5,522	60.3%	135	1.5%	5,522	60.3%	135	1.5%	5,522	60.3%	135	1.5%	
同 同 足柄下郡箱根町	11,079	56.01	6,063	2,901	47.8%	799	13.1%	1,480	24.4%	1,480	24.4%	1,480	24.4%	602	9.9%	288	4.8%	573	12.4%	159	3.4%	1,395	10.2%	520	3.8%	
同 同 湯河原町	22,867	61.39	13,691	5,937	43.4%	3,149	23.0%	2,696	19.7%	2,696	19.7%	2,696	19.7%	1,395	10.2%	520	3.8%	1,395	10.2%	520	3.8%	1,395	10.2%	520	3.8%	
17区計	426,043	60.64	252,871	98,019	38.8%	46,654	18.4%	54,337	21.5%	46,654	18.4%	46,654	18.4%	44,013	17.4%	9,848	3.9%	9,848	3.9%	9,848	3.9%	9,848	3.9%	9,848	3.9%	
第18区	川崎市高津区	175,844	58.08	98,607	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
	同 荏原区	176,030	60.13	102,597	41,136	40.1%	18,397	17.9%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
	同 18区計	351,874	59.10	201,204	82,333	40.9%	34,205	17.0%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	25,279	12.6%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%		
	候補者名																									
	川崎市高津区	175,844	58.08	98,607	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
同 荏原区	176,030	60.13	102,597	41,136	40.1%	18,397	17.9%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%			
18区計	351,874	59.10	201,204	82,333	40.9%	34,205	17.0%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	25,279	12.6%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%			
川崎市高津区	川崎市高津区	175,844	58.08	98,607	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
	同 荏原区	176,030	60.13	102,597	41,136	40.1%	18,397	17.9%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
	同 18区計	351,874	59.10	201,204	82,333	40.9%	34,205	17.0%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	43,873	21.8%	25,279	12.6%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%	15,514	7.7%		
	候補者名																									
	川崎市高津区	175,844	58.08	98,607	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	21,024	21.3%	15,808	16.0%	12,485	12.7%	8,093	8.2%	7,421	7.2%	25,279	12.6%	15,514	7.7%		
同 荏原区	176,030	60.13	102,597	41,136	40.1%	18,397	17.9%	23,849	23.3%	23,849	23.3%	23,849	23													

資料4 第46回衆議院総選挙 神奈川県内比例区選挙結果

開票区名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)			有効投票	自民党		民主党		日本維新の会	
			投票率(%)	前回投票率(%)	増減		得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比
中区	114,172	64,284	56.30	63.00	△ 6.70	62,922	17,161	27.3%	9,397	14.9%	12,686	20.2%
磯子区	135,093	79,773	59.05	68.81	△ 9.76	78,288	20,574	26.3%	13,717	17.5%	14,695	18.8%
金沢区	169,058	107,984	63.87	71.19	△ 7.32	106,171	29,302	27.6%	18,395	17.3%	19,903	18.7%
1区計	418,323	252,041	60.25	68.15	△ 7.90	247,381	67,037	27.1%	41,509	16.8%	47,284	19.1%
西区	80,041	46,894	58.59	66.82	△ 8.23	45,895	12,918	28.1%	7,234	15.8%	9,148	19.9%
南区	163,675	92,543	56.54	65.56	△ 9.02	90,647	24,575	27.1%	14,149	15.6%	16,744	18.5%
港南区	180,374	111,784	61.97	71.37	△ 9.40	109,748	29,916	27.3%	19,362	17.6%	20,141	18.4%
2区計	424,090	251,221	59.24	68.30	△ 9.06	246,290	67,409	27.4%	40,745	16.5%	46,033	18.7%
鶴見区	223,672	126,818	56.70	64.37	△ 7.67	124,517	31,420	25.2%	17,317	13.9%	25,036	20.1%
神奈川区	189,920	110,726	58.30	65.90	△ 7.60	108,712	27,521	25.3%	16,700	15.4%	21,661	19.9%
3区計	413,592	237,544	57.43	65.08	△ 7.65	233,229	58,941	25.3%	34,017	14.6%	46,697	20.0%
栄区	103,339	65,841	63.71	72.55	△ 8.84	64,796	15,889	24.5%	11,703	18.1%	10,904	16.8%
鎌倉市	148,905	96,616	64.88	71.67	△ 6.79	95,213	22,520	23.7%	16,598	17.4%	15,251	16.0%
逗子市	50,016	32,198	64.38	72.90	△ 8.52	31,639	7,927	25.1%	5,069	16.0%	5,152	16.3%
葉山町	27,706	17,905	64.62	72.76	△ 8.14	17,534	4,545	25.9%	2,667	15.2%	2,982	17.0%
4区計	329,966	212,560	64.42	72.24	△ 7.82	209,182	50,881	24.3%	36,037	17.2%	34,289	16.4%
戸塚区	221,002	135,197	61.17	70.08	△ 8.91	132,851	33,186	25.0%	22,303	16.8%	26,890	20.2%
泉区	125,856	78,025	62.00	71.53	△ 9.53	76,471	19,298	25.2%	12,739	16.7%	14,954	19.6%
瀬谷区	101,847	59,926	58.84	68.47	△ 9.63	58,666	14,486	24.7%	8,992	15.3%	11,241	19.2%
5区計	448,705	273,148	60.87	70.13	△ 9.26	267,988	66,970	25.0%	44,034	16.4%	53,085	19.8%
保土ヶ谷区	166,933	102,188	61.21	69.60	△ 8.39	99,933	24,234	24.3%	16,402	16.4%	17,786	17.8%
旭区	206,451	126,838	61.44	70.61	△ 9.17	124,262	29,429	23.7%	21,997	17.7%	21,568	17.4%
6区計	373,384	229,026	61.34	70.18	△ 8.84	224,195	53,663	23.9%	38,399	17.1%	39,354	17.6%
港北区	269,781	162,744	60.32	67.44	△ 7.12	159,963	40,476	25.3%	27,491	17.2%	32,096	20.1%
都筑区	155,502	95,847	61.64	70.41	△ 8.77	94,455	23,701	25.1%	16,217	17.2%	20,575	21.8%
7区計	425,283	258,591	60.80	68.50	△ 7.70	254,418	64,177	25.2%	43,708	17.2%	52,671	20.7%
緑区	141,475	85,738	60.60	69.02	△ 8.42	84,206	19,335	23.0%	13,365	15.9%	14,037	16.7%
青葉区	240,961	155,177	64.40	71.89	△ 7.49	152,931	36,248	23.7%	26,565	17.4%	27,903	18.2%
8区計	382,436	240,915	62.99	70.82	△ 7.83	237,137	55,583	23.4%	39,930	16.8%	41,940	17.7%
多摩区	167,147	99,458	59.50	66.12	△ 6.62	97,692	23,348	23.9%	17,299	17.7%	18,447	18.9%
麻生区	136,740	89,294	65.30	71.38	△ 6.08	87,489	21,082	24.1%	18,531	21.2%	15,880	18.2%
9区計	303,887	188,752	62.11	68.45	△ 6.34	185,181	44,430	24.0%	35,830	19.3%	34,327	18.5%
川崎区	175,602	94,696	53.93	61.70	△ 7.77	92,838	23,546	25.4%	11,935	12.9%	17,656	19.0%
幸区	127,222	76,868	60.42	67.27	△ 6.85	75,433	18,659	24.7%	11,555	15.3%	14,763	19.6%
中原区	189,570	116,587	61.50	67.77	△ 6.27	114,705	28,660	25.0%	18,078	15.8%	23,570	20.5%
10区計	492,394	288,151	58.52	65.46	△ 6.94	282,976	70,865	25.0%	41,568	14.7%	55,989	19.8%
横須賀市	348,268	214,051	61.46	68.20	△ 6.74	209,157	82,237	39.3%	24,623	11.8%	32,656	15.6%
三浦市	40,745	23,984	58.86	67.33	△ 8.47	23,333	9,493	40.7%	2,259	9.7%	3,481	14.9%
11区計	389,013	238,035	61.19	68.12	△ 6.93	232,490	91,730	39.5%	26,882	11.6%	36,137	15.5%
藤沢市	337,288	199,496	59.15	66.79	△ 7.64	196,042	47,943	24.5%	35,065	17.9%	36,532	18.6%
寒川町	38,614	21,787	56.42	65.64	△ 9.22	21,527	5,362	24.9%	3,646	16.9%	3,860	17.9%
12区計	375,902	221,283	58.87	66.68	△ 7.81	217,569	53,305	24.5%	38,711	17.8%	40,392	18.6%

みんなの党		公明党		日本未来の党		共産党		社民党		幸福実現党		無効投票	
得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	無効票数	無効率
8,853	14.1%	6,079	9.7%	3,811	6.1%	3,483	5.5%	1,288	2.0%	164	0.3%	1,362	2.1%
10,298	13.2%	8,169	10.4%	4,357	5.6%	4,550	5.8%	1,735	2.2%	193	0.2%	1,485	1.9%
14,382	13.5%	9,519	9.0%	5,879	5.5%	6,128	5.8%	2,366	2.2%	297	0.3%	1,813	1.7%
33,533	13.6%	23,767	9.6%	14,047	5.7%	14,161	5.7%	5,389	2.2%	654	0.3%	4,660	1.8%
6,113	13.3%	4,152	9.0%	2,718	5.9%	2,512	5.5%	980	2.1%	120	0.3%	999	2.1%
10,718	11.8%	10,859	12.0%	5,087	5.6%	6,323	7.0%	1,886	2.1%	306	0.3%	1,896	2.0%
13,226	12.1%	10,977	10.0%	6,276	5.7%	6,969	6.4%	2,539	2.3%	342	0.3%	2,036	1.8%
30,057	12.2%	25,988	10.6%	14,081	5.7%	15,804	6.4%	5,405	2.2%	768	0.3%	4,931	2.0%
16,925	13.6%	14,069	11.3%	7,727	6.2%	9,521	7.6%	2,099	1.7%	403	0.3%	2,301	1.8%
15,467	14.2%	10,424	9.6%	7,467	6.9%	7,001	6.4%	2,207	2.0%	264	0.2%	2,014	1.8%
32,392	13.9%	24,493	10.5%	15,194	6.5%	16,522	7.1%	4,306	1.8%	667	0.3%	4,315	1.8%
12,330	19.0%	4,831	7.5%	3,836	5.9%	3,676	5.7%	1,455	2.2%	172	0.3%	1,045	1.6%
19,557	20.5%	5,622	5.9%	7,090	7.4%	6,105	6.4%	2,222	2.3%	248	0.3%	1,403	1.5%
6,625	20.9%	2,073	6.6%	2,070	6.5%	1,880	5.9%	750	2.4%	93	0.3%	559	1.7%
3,466	19.8%	1,139	6.5%	1,337	7.6%	1,024	5.8%	327	1.9%	47	0.3%	371	2.1%
41,978	20.1%	13,665	6.5%	14,333	6.9%	12,685	6.1%	4,754	2.3%	560	0.3%	3,378	1.6%
19,067	14.4%	11,175	8.4%	8,352	6.3%	8,619	6.5%	2,907	2.2%	352	0.3%	2,346	1.7%
10,784	14.1%	7,626	10.0%	4,454	5.8%	4,789	6.3%	1,656	2.2%	171	0.2%	1,554	2.0%
7,747	13.2%	7,425	12.7%	3,428	5.8%	3,837	6.5%	1,346	2.3%	164	0.3%	1,260	2.1%
37,598	14.0%	26,226	9.8%	16,234	6.1%	17,245	6.4%	5,909	2.2%	687	0.3%	5,160	1.9%
14,966	15.0%	12,526	12.5%	5,489	5.5%	6,193	6.2%	2,078	2.1%	259	0.3%	2,255	2.2%
18,054	14.5%	15,329	12.3%	6,743	5.4%	7,751	6.2%	3,044	2.4%	347	0.3%	2,576	2.0%
33,020	14.7%	27,855	12.4%	12,232	5.5%	13,944	6.2%	5,122	2.3%	606	0.3%	4,831	2.1%
24,326	15.2%	11,835	7.4%	11,230	7.0%	8,844	5.5%	3,285	2.1%	380	0.2%	2,781	1.7%
14,910	15.8%	6,839	7.2%	6,416	6.8%	3,787	4.0%	1,750	1.9%	260	0.3%	1,392	1.5%
39,236	15.4%	18,674	7.3%	17,646	6.9%	12,631	5.0%	5,035	2.0%	640	0.3%	4,173	1.6%
18,056	21.4%	8,102	9.6%	4,576	5.4%	4,697	5.6%	1,837	2.2%	201	0.2%	1,532	1.8%
34,490	22.6%	7,893	5.2%	9,872	6.5%	6,593	4.3%	2,989	2.0%	378	0.2%	2,246	1.4%
52,546	22.2%	15,995	6.7%	14,448	6.1%	11,290	4.8%	4,826	2.0%	579	0.2%	3,778	1.6%
13,189	13.5%	8,796	9.0%	6,396	6.5%	7,729	7.9%	2,226	2.3%	262	0.3%	1,766	1.8%
12,881	14.7%	5,330	6.1%	6,054	6.9%	5,354	6.1%	2,184	2.5%	193	0.2%	1,805	2.0%
26,070	14.1%	14,126	7.6%	12,450	6.7%	13,083	7.1%	4,410	2.4%	455	0.2%	3,571	1.9%
11,426	12.3%	13,364	14.4%	4,136	4.5%	8,925	9.6%	1,576	1.7%	274	0.3%	1,858	2.0%
10,078	13.4%	9,135	12.1%	3,732	4.9%	5,916	7.8%	1,395	1.8%	200	0.3%	1,435	1.9%
17,253	15.0%	9,793	8.5%	6,643	5.8%	8,160	7.1%	2,256	2.0%	292	0.3%	1,882	1.6%
38,757	13.7%	32,292	11.4%	14,511	5.1%	23,001	8.1%	5,227	1.8%	766	0.3%	5,175	1.8%
19,865	9.5%	25,482	12.2%	8,525	4.1%	11,353	5.4%	3,820	1.8%	596	0.3%	4,894	2.3%
2,042	8.8%	2,945	12.6%	940	4.0%	1,743	7.5%	362	1.6%	68	0.3%	651	2.7%
21,907	9.4%	28,427	12.2%	9,465	4.1%	13,096	5.6%	4,182	1.8%	664	0.3%	5,545	2.3%
23,074	11.8%	17,217	8.8%	20,654	10.5%	11,059	5.6%	4,005	2.0%	493	0.3%	3,454	1.7%
2,054	9.5%	2,960	13.8%	1,868	8.7%	1,312	6.1%	412	1.9%	53	0.2%	260	1.2%
25,128	11.5%	20,177	9.3%	22,522	10.4%	12,371	5.7%	4,417	2.0%	546	0.3%	3,714	1.7%

資料4(つづき)

開票区名	当日有権者数(人)	投票者数(人)	投票率(%)			有効投票	自民党		民主党		日本維新の会	
			投票率(%)	前回投票率(%)	増減		得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比
大和市	185,962	106,840	57.45	66.14	△ 8.69	104,574	26,361	25.2%	15,145	14.5%	20,713	19.8%
海老名市	103,358	63,717	61.65	70.65	△ 9.00	62,533	17,041	27.3%	9,897	15.8%	13,319	21.3%
座間市	105,232	59,118	56.18	65.88	△ 9.70	57,899	15,252	26.3%	8,809	15.2%	11,860	20.5%
綾瀬市	66,733	37,719	56.52	67.78	△ 11.26	36,929	10,597	28.7%	5,165	14.0%	7,194	19.5%
13区計	461,285	267,394	57.97	67.34	△ 9.37	261,935	69,251	26.4%	39,016	14.9%	53,086	20.3%
緑区1	83,210	48,355	58.11	66.43	△ 8.32	47,513	12,101	25.5%	8,687	18.3%	9,637	20.3%
中央区	211,377	122,388	57.90	66.56	△ 8.66	120,053	30,506	25.4%	20,909	17.4%	23,858	19.9%
南区1	143,182	89,102	62.23	69.30	△ 7.07	87,470	21,924	25.1%	16,808	19.2%	17,153	19.6%
14区計	437,769	259,845	59.36	67.45	△ 8.09	255,036	64,531	25.3%	46,404	18.2%	50,648	19.9%
平塚市	210,452	115,843	55.04	66.69	△ 11.65	112,747	30,638	27.2%	16,661	14.8%	21,733	19.3%
茅ヶ崎市	193,205	111,516	57.72	69.22	△ 11.50	109,182	27,173	24.9%	18,636	17.1%	21,653	19.8%
大磯町	27,766	16,992	61.20	71.10	△ 9.90	16,526	4,749	28.7%	2,715	16.4%	3,003	18.2%
二宮町	25,097	15,604	62.17	73.90	△ 11.73	15,180	4,176	27.5%	2,648	17.4%	2,908	19.2%
15区計	456,520	259,955	56.94	68.44	△ 11.50	253,635	66,736	26.3%	40,660	16.0%	49,297	19.4%
緑区2	58,208	35,201	60.47	70.01	△ 9.54	34,537	9,868	28.6%	6,511	18.9%	6,164	17.8%
南区2	78,556	45,508	57.93	66.12	△ 8.19	44,619	10,886	24.4%	8,497	19.0%	8,388	18.8%
厚木市	178,889	102,142	57.10	66.67	△ 9.57	99,992	28,883	28.9%	18,532	18.5%	19,862	19.9%
伊勢原市	80,067	47,285	59.06	69.54	△ 10.48	46,236	13,812	29.9%	8,916	19.3%	8,854	19.1%
愛川町	33,176	18,379	55.40	66.61	△ 11.21	17,932	5,059	28.2%	2,970	16.6%	3,272	18.2%
清川村	2,710	1,846	68.12	74.10	△ 5.98	1,804	639	35.4%	250	13.9%	294	16.3%
16区計	431,606	250,361	58.01	67.61	△ 9.60	245,120	69,147	28.2%	45,676	18.6%	46,834	19.1%
小田原市	161,378	95,486	59.17	68.35	△ 9.18	93,285	25,470	27.3%	14,502	15.5%	15,960	17.1%
秦野市	132,601	77,773	58.65	68.14	△ 9.49	76,006	21,299	28.0%	12,658	16.7%	13,818	18.2%
南足柄市	36,145	23,567	65.20	73.34	△ 8.14	23,053	6,397	27.7%	3,497	15.2%	3,836	16.6%
中井町	8,022	5,114	63.75	72.27	△ 8.52	4,990	1,662	33.3%	721	14.4%	796	16.0%
大井町	13,886	8,500	61.21	70.93	△ 9.72	8,273	2,367	28.6%	1,095	13.2%	1,345	16.3%
松田町	9,980	6,516	65.29	79.22	△ 13.93	6,298	1,955	31.0%	944	15.0%	1,014	16.1%
山北町	9,974	7,140	71.59	79.35	△ 7.76	6,951	2,213	31.8%	1,170	16.8%	1,001	14.4%
開成町	12,983	9,249	71.24	74.82	△ 3.58	9,022	2,117	23.5%	1,146	12.7%	1,398	15.5%
箱根町	11,079	6,205	56.01	65.07	△ 9.06	6,082	1,940	31.9%	687	11.3%	999	16.4%
真鶴町	7,128	4,721	66.23	73.76	△ 7.53	4,644	1,335	28.7%	645	13.9%	719	15.5%
湯河原町	22,867	14,037	61.39	70.67	△ 9.28	13,682	4,033	29.5%	2,030	14.8%	2,558	18.7%
17区計	426,043	258,308	60.63	69.73	△ 9.10	252,286	70,788	28.1%	39,095	15.5%	43,444	17.2%
高津区	175,844	102,119	58.07	65.85	△ 7.78	100,177	24,267	24.2%	14,370	14.3%	20,344	20.3%
宮前区	176,030	105,917	60.17	68.41	△ 8.24	104,058	25,294	24.3%	16,574	15.9%	20,431	19.6%
18区計	351,874	208,036	59.12	67.13	△ 8.01	204,235	49,561	24.3%	30,944	15.2%	40,775	20.0%
横浜市計	2,989,152	1,808,327	60.50	68.85	△ 8.35	1,775,434	449,669	25.3%	294,045	16.6%	337,968	19.0%
川崎市計	1,148,155	684,939	59.66	66.76	△ 7.10	672,392	164,856	24.5%	108,342	16.1%	131,091	19.5%
相模原市計	574,533	340,554	59.27	67.52	△ 8.25	334,192	85,285	25.5%	61,412	18.4%	65,200	19.5%
一般市計	2,379,244	1,407,351	59.15	60.01	△ 8.25	1,377,820	393,043	28.5%	216,032	15.7%	251,874	18.3%
町村計	250,988	153,995	61.36	70.83	△ 8.25	150,445	42,152	28.0%	23,334	15.5%	26,149	17.4%
県計	7,342,072	4,395,166	59.86	68.25	△ 8.39	4,310,283	1,135,005	26.3%	703,165	16.3%	812,282	18.8%

みんなの党		公明党		日本未来の党		共産党		社民党		幸福実現党		無効投票	
得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	得票数	構成比	無効票数	無効率
16,162	15.5%	12,493	11.9%	5,582	5.3%	5,734	5.5%	2,096	2.0%	288	0.3%	2,266	2.1%
8,401	13.4%	5,770	9.2%	3,214	5.1%	3,437	5.5%	1,291	2.1%	163	0.3%	1,184	1.9%
7,563	13.1%	6,401	11.1%	3,096	5.3%	3,628	6.3%	1,130	2.0%	160	0.3%	1,219	2.1%
4,509	12.2%	5,320	14.4%	1,621	4.4%	1,810	4.9%	630	1.7%	83	0.2%	790	2.1%
36,635	14.0%	29,984	11.4%	13,513	5.2%	14,609	5.6%	5,147	2.0%	694	0.3%	5,459	2.0%
5,607	11.8%	5,478	11.5%	2,420	5.1%	2,350	4.9%	1,081	2.3%	152	0.3%	842	1.7%
13,495	11.2%	15,671	13.1%	5,938	4.9%	6,699	5.6%	2,633	2.2%	344	0.3%	2,335	1.9%
11,001	12.6%	7,354	8.4%	5,312	6.1%	5,211	6.0%	2,496	2.9%	211	0.2%	1,632	1.8%
30,103	11.8%	28,503	11.2%	13,670	5.4%	14,260	5.6%	6,210	2.4%	707	0.3%	4,809	1.9%
12,330	10.9%	14,940	13.3%	6,105	5.4%	7,580	6.7%	2,405	2.1%	355	0.3%	3,096	2.7%
13,529	12.4%	11,271	10.3%	7,328	6.7%	6,581	6.0%	2,720	2.5%	291	0.3%	2,334	2.1%
1,954	11.8%	1,475	8.9%	1,152	7.0%	1,022	6.2%	421	2.5%	35	0.2%	466	2.7%
1,804	11.9%	1,264	8.3%	954	6.3%	1,017	6.7%	362	2.4%	47	0.3%	424	2.7%
29,617	11.7%	28,950	11.4%	15,539	6.1%	16,200	6.4%	5,908	2.3%	728	0.3%	6,320	2.4%
3,142	9.1%	4,337	12.6%	1,789	5.2%	2,003	5.8%	621	1.8%	102	0.3%	664	1.9%
4,703	10.5%	5,470	12.3%	2,530	5.7%	3,050	6.8%	977	2.2%	118	0.3%	889	2.0%
9,712	9.7%	11,017	11.0%	4,906	4.9%	5,104	5.1%	1,654	1.7%	322	0.3%	2,150	2.1%
4,471	9.7%	4,441	9.6%	2,266	4.9%	2,373	5.1%	959	2.1%	144	0.3%	1,049	2.2%
1,462	8.2%	3,182	17.7%	695	3.9%	1,037	5.8%	201	1.1%	54	0.3%	447	2.4%
133	7.4%	282	15.6%	84	4.7%	91	5.0%	27	1.5%	4	0.2%	42	2.3%
23,623	9.6%	28,729	11.7%	12,270	5.0%	13,658	5.6%	4,439	1.8%	744	0.3%	5,241	2.1%
15,068	16.2%	9,285	10.0%	6,401	6.9%	4,740	5.1%	1,623	1.7%	236	0.3%	2,201	2.3%
9,777	12.9%	7,497	9.9%	5,210	6.9%	3,943	5.2%	1,589	2.1%	215	0.3%	1,767	2.3%
3,012	13.1%	2,419	10.5%	2,207	9.6%	1,189	5.2%	434	1.9%	62	0.3%	514	2.2%
615	12.3%	519	10.4%	336	6.7%	258	5.2%	75	1.5%	8	0.2%	124	2.4%
1,248	15.1%	817	9.9%	910	11.0%	365	4.4%	112	1.4%	14	0.2%	227	2.7%
895	14.2%	522	8.3%	569	9.0%	270	4.3%	104	1.7%	25	0.4%	218	3.3%
885	12.7%	557	8.0%	649	9.3%	323	4.6%	128	1.8%	25	0.4%	189	2.6%
1,053	11.7%	728	8.1%	2,148	23.8%	285	3.2%	119	1.3%	28	0.3%	227	2.5%
915	15.0%	820	13.5%	332	5.5%	322	5.3%	50	0.8%	17	0.3%	123	2.0%
625	13.5%	721	15.5%	299	6.4%	217	4.7%	66	1.4%	17	0.4%	77	1.6%
1,855	13.6%	1,457	10.6%	855	6.2%	626	4.6%	226	1.7%	42	0.3%	355	2.5%
35,948	14.2%	25,342	10.0%	19,916	7.9%	12,538	5.0%	4,526	1.8%	689	0.3%	6,022	2.3%
13,933	13.9%	10,721	10.7%	7,533	7.5%	6,842	6.8%	1,903	1.9%	264	0.3%	1,942	1.9%
15,387	14.8%	10,056	9.7%	7,915	7.6%	6,169	5.9%	2,029	1.9%	203	0.2%	1,859	1.8%
29,320	14.4%	20,777	10.2%	15,448	7.6%	13,011	6.4%	3,932	1.9%	467	0.2%	3,801	1.8%
270,712	15.2%	167,829	9.5%	107,718	6.1%	105,273	5.9%	37,447	2.1%	4,773	0.3%	32,893	1.8%
94,147	14.0%	67,195	10.0%	42,409	6.3%	49,095	7.3%	13,569	2.0%	1,688	0.3%	12,547	1.8%
37,948	11.4%	38,310	11.5%	17,989	5.4%	19,313	5.8%	7,808	2.3%	927	0.3%	6,362	1.9%
175,697	12.8%	144,193	10.5%	87,215	6.3%	78,259	5.7%	27,690	2.0%	3,817	0.3%	29,531	2.1%
18,964	12.6%	16,443	10.9%	12,188	8.1%	8,169	5.4%	2,630	1.7%	416	0.3%	3,550	2.3%
597,468	13.9%	433,970	10.1%	267,519	6.2%	260,109	6.0%	89,144	2.1%	11,621	0.3%	84,883	1.9%

※出所：「平成24年12月16日執行 衆議院比例代表選出議員選挙神奈川県選挙分会」
(神奈川県選挙管理委員会)をもとに上林作成

資料 5 第43～46回衆議院総選挙小選挙区・比例区選挙結果比較

選挙区名	当選者名	得票数	投票率	有効投票数	自由民主党	民主党	日本維新の会	みんなの党	公明党	日本未来の党	日本共産党	社会民主党	その他の党	無所属	無効票	無効票率			
全県	03年小選挙区区計	6,977,974	4,031,631	57.78%	3,919,856	1,526,057	38.9%	1,526,057	82,268	2.1%	315,014	8.0%	95,327	2.4%	75,069	4.5%	111,775	2.9%	
	05年小選挙区区計	7,079,406	4,748,564	67.08%	4,651,413	2,435,656	52.4%	1,564,457	123,040	2.6%	361,175	7.8%	35,133	0.8%	103,454	2.2%	97,151	2.0%	
	09年小選挙区区計	7,276,981	4,967,216	68.26%	4,869,354	1,778,461	36.5%	2,328,108	94,941	1.9%	252,201	5.2%	43,688	0.9%	65,333	1.3%	69,649	1.4%	
	12年小選挙区区計	7,342,072	4,395,414	59.87%	4,254,978	1,761,971	41.4%	837,909	82,147	1.9%	327,031	7.7%	6,360	0.1%	3,620	0.1%	141,016	3.2%	
	前回の比較	65,091	-571,802	-8.4%	-614,956	-16,490	4.9%	-1,490,919	496,321	12.4%	-12,744	0.0%	-37,382	-0.7%	-61,713	-1.3%	71,367	1.8%	
	03年比例区区計	6,977,974	4,031,631	57.78%	3,945,932	1,864,185	34.6%	1,562,418	524,268	13.3%	296,548	7.5%	198,513	5.0%	85,699	2.2%	85,699	2.2%	
	05年比例区区計	7,088,637	4,750,122	67.01%	4,684,198	2,030,524	43.3%	1,330,224	548,757	11.7%	327,041	7.0%	275,692	5.9%	32,474	0.9%	65,924	1.4%	
	09年比例区区計	7,247,981	4,966,449	68.25%	4,883,149	1,238,374	25.4%	2,111,949	372,060	7.6%	349,914	7.2%	219,049	4.5%	122,175	2.5%	54,383	1.1%	
	12年比例区区計	7,342,072	4,395,166	59.86%	4,310,283	1,135,005	26.3%	703,163	597,468	13.9%	433,970	6.2%	89,144	2.1%	11,621	0.3%	84,883	1.9%	
	前回の比較	65,091	-571,283	-8.4%	-572,866	-103,369	1.0%	-1,408,784	225,408	6.2%	-35,658	0.5%	-129,905	-2.4%	-110,554	-2.2%	31,525	0.8%	
	候補者名					佐藤肇一						中家 浩子	林 昌三						
	03年第1区計	405,074	240,118	59.28%	234,934	111,730	47.6%	97,630	41.6%			15,331	6.5%	10,263	4.4%			5,184	2.2%
05年第1区計	413,952	282,349	68.21%	277,519	161,702	58.3%	95,601	34.4%			20,216	7.3%					4,830	1.7%	
09年第1区計	420,265	286,399	68.15%	281,178	117,840	41.9%	135,211	48.1%			18,898	6.7%		山本誠一			5,221	1.8%	
12年第1区計	418,323	252,068	60.26%	245,733	101,238	41.2%	50,927	20.7%			15,664	6.4%					6,337	2.5%	
前回の比較	-1,942	-34,331	-7.9%	-35,445	-16,602	-4.7%	-84,284	-27.4%			-3,234	0.0%						6,337	2.5%
03年比例区区計	405,074	240,118	59.28%	235,458	84,175	35.7%	94,248	40.0%			15,901	6.8%					4,660	2.0%	
05年比例区区計	414,560	282,475	68.14%	278,843	125,367	45.0%	78,699	28.2%			18,189	6.5%					3,632	1.2%	
09年比例区区計	420,265	286,696	68.22%	281,679	74,487	26.4%	120,873	42.9%			19,805	7.0%					4,061	1.4%	
12年比例区区計	418,323	252,041	60.25%	247,381	67,037	27.1%	41,509	16.8%			14,161	5.7%					4,680	1.8%	
前回の比較	-1,942	-34,655	-8.0%	-34,298	-7,450	-2.7%	-79,364	-26.1%			-7,541	-2.4%					599	0.3%	
候補者名					菅 義偉						湯川美和子							6,920	3.0%
03年第2区計	411,305	238,818	58.05%	231,898	118,495	49.8%	93,406	40.3%			22,997	9.9%					6,269	2.2%	
05年第2区計	416,854	280,387	67.26%	274,118	160,111	58.4%	91,723	33.5%			22,284	8.1%					5,244	1.8%	
09年第2区計	424,028	289,602	68.30%	284,358	132,270	46.5%	131,722	46.3%			20,366	7.2%					5,244	1.8%	
12年第2区計	424,090	251,215	59.24%	238,289	138,040	57.9%	71,302	29.9%			28,947	12.1%					12,926	5.1%	
前回の比較	62	-38,387	-9.1%	-46,069	-5,700	-1.4%	-60,202	-16.4%			8,581	5.5%						12,926	5.1%
03年比例区区計	411,305	238,818	58.05%	234,347	81,580	34.8%	91,619	39.1%			18,193	7.8%					4,471	1.9%	
05年比例区区計	417,414	280,513	67.20%	276,961	120,129	43.4%	76,819	27.7%			19,900	7.2%					3,652	1.3%	
09年比例区区計	424,028	289,538	68.28%	284,352	76,342	26.8%	121,757	42.8%			20,639	7.3%					3,303	1.2%	
12年比例区区計	424,090	251,221	59.24%	246,290	67,409	27.4%	40,159	16.3%			15,802	6.4%					4,931	2.0%	
前回の比較	62	-38,062	-9.0%	-38,062	-8,933	-3.5%	-47,012	-26.3%			-6,285	-2.2%						4,931	2.0%
候補者名					小此木八郎						大谷 努							6,524	3.2%
03年第3区計	389,796	213,241	54.71%	206,717	91,207	44.1%	81,996	39.7%			18,867	9.1%					4,489	2.2%	
05年第3区計	396,711	253,530	63.91%	247,810	131,831	53.2%	76,625	30.9%			21,810	8.8%					5,720	2.3%	
09年第3区計	407,479	265,185	65.08%	259,755	89,588	34.5%	125,856	48.5%			19,419	7.5%					5,430	2.0%	
12年第3区計	413,592	237,614	57.45%	231,095	85,451	37.0%	34,738	15.0%			16,774	7.3%					6,519	2.7%	
前回の比較	6,113	-27,571	-7.6%	-28,660	-4,137	-2.5%	-91,138	-33.3%			-2,664	0.0%						1,089	0.7%
03年比例区区計	389,796	213,241	54.71%	208,953	67,546	32.3%	82,132	39.3%			18,290	8.8%					4,288	2.1%	
05年比例区区計	397,262	253,593	63.84%	250,167	104,529	41.8%	69,056	27.6%			20,277	8.1%					3,426	1.4%	
09年比例区区計	413,592	237,544	57.43%	233,229	63,190	24.2%	109,369	42.0%			12,945	5.4%					2,960	1.1%	
12年比例区区計	413,592	237,544	57.43%	233,229	58,941	25.3%	34,017	14.6%			16,522	7.1%					4,315	1.8%	
前回の比較	6,113	-27,627	-7.6%	-27,373	-4,249	-1.6%	-75,352	-27.4%			-5,423	-1.3%						1,355	0.7%
候補者名					林 潤						大谷 正浩							1,355	0.7%
03年第4区計	321,246	196,491	61.17%	190,958	74,266	38.9%	89,515	46.9%			13,471	7.1%					5,533	2.9%	
05年第4区計	326,976	232,223	71.02%	227,679	119,618	52.5%	78,326	34.4%			13,774	6.0%					4,544	2.0%	
09年第4区計	331,102	239,184	72.24%	234,591	64,006	27.3%	89,082	38.0%									4,593	1.9%	
12年第4区計	329,966	212,573	64.42%	206,586	57,542	27.9%	33,022	16.0%			加藤勝次						5,987	2.8%	
前回の比較	-1,136	-26,611	-7.8%	-28,005	-6,464	-2.6%	-56,060	-22.0%			15,390	7.4%						1,394	0.9%
03年比例区区計	321,246	196,491	61.17%	192,735	72,304	37.5%	79,594	41.3%			13,982	7.3%					3,756	1.9%	
05年比例区区計	327,611	232,263	70.90%	229,368	106,862	46.6%	63,426	27.7%			15,032	6.6%					2,895	1.2%	
09年比例区区計	331,102	239,126	72.22%	235,494	56,947	24.2%	92,232	39.2%			16,417	7.0%					2,031	0.9%	
12年比例区区計	329,966	212,560	64.42%	209,182	50,881	24.3%	36,037	17.2%			12,685	6.1%					3,378	1.6%	
前回の比較	-1,136	-26,566	-7.8%	-26,312	-6,066	-2.1%	-56,195	-21.3%			-3,732	-0.9%						1,347	0.7%

区	候補者名	投票者数	有効投票	自由民主党	民主党	日本維新の会	みんかの党	公明党	日本未来の党	日本共産党	社会民主党	その他の党	無所属	無効票	
10区	03年 第10区計	443,574	246,726	55.62%	238,521	114,766	48.1%	89,752	37.0%	計屋 圭宏	笠木 隆	笠木 隆	笠木 隆	8,205	
	候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳		
	05年 第10区計	453,007	284,666	64.41%	284,666	160,669	56.4%	89,025	31.3%	計屋 圭宏	笠木 隆	笠木 隆	笠木 隆	7,134	
	候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳		
	09年 第10区計	484,482	317,163	65.46%	310,442	118,641	38.2%	152,921	49.3%	城島 光力	笠木 隆	笠木 隆	島崎隆一	6,721	
	候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	久米英一郎	石川輝久	中野智裕	笠木 隆	笠木 隆	笠木 隆	島崎隆一	
	12年 第10区計	492,394	288,146	58.52%	280,237	104,994	37.5%	44,485	15.8%	44,492	15.9%	0	0	7,909	
	候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	久米英一郎	石川輝久	中野智裕	笠木 隆	笠木 隆	笠木 隆	島崎隆一	
	03年 比例区10区計	7,912	-29,017	-6.9%	-30,205	-13,647	-8.8%	91,669	-27.4%	44,492	15.9%	0	0	1,888	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	
	05年 比例区10区計	443,574	246,726	55.62%	241,853	75,457	31.0%	90,900	37.2%	39,855	16.5%	10,063	4.2%	4,873	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	
09年 比例区10区計	484,482	317,163	65.46%	317,163	118,641	41.1%	128,210	40.3%	35,576	11.8%	11,894	3.8%	3,497		
候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳		
12年 比例区10区計	492,394	288,146	58.52%	282,976	70,865	25.0%	38,157	13.7%	32,292	11.4%	3,224	1.3%	3,175		
候補者名				田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳	田中 和徳		
11区	03年 第11区計	398,912	238,996	59.91%	234,296	174,374	74.4%	46,290	19.8%	計屋 圭宏	瀬川 和弘	瀬川 和弘	瀬川 和弘	4,700	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
	05年 第11区計	397,948	272,431	68.46%	269,314	197,037	73.2%	197,037	73.2%	0	0	0	0	3,117	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
	09年 第11区計	394,396	268,666	68.12%	264,330	150,893	57.1%	96,631	36.6%	21,907	9.4%	28,427	12.2%	4,336	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
	12年 第11区計	389,013	238,055	61.19%	230,854	184,360	79.9%	25,134	10.9%	0	0	0	0	7,201	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
	03年 比例区11区計	5,383	-30,611	-6.9%	-33,476	-33,467	-22.8%	-71,497	-25.7%	0	0	0	0	2,865	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
	05年 比例区11区計	398,912	238,996	59.91%	233,344	114,782	49.2%	60,689	26.0%	34,262	14.7%	8,846	3.8%	5,622	
	候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎		
09年 比例区11区計	394,396	268,669	68.11%	263,740	95,146	36.1%	53,097	19.8%	15,166	5.6%	12,225	4.6%	4,012		
候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎			
12年 比例区11区計	389,013	238,055	61.19%	232,490	91,720	39.5%	21,907	9.4%	9,465	4.1%	8,097	3.1%	2,460		
候補者名				小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎			
12区	03年 第12区計	351,527	198,771	56.55%	192,444	73,767	38.3%	75,826	39.4%	高松みどり	阿部 知子	阿部 知子	阿部 知子	6,327	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
	05年 第12区計	356,138	236,259	66.34%	232,107	108,888	46.9%	75,865	32.7%	12,211	5.3%	35,133	15.1%	4,152	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
	09年 第12区計	367,535	245,080	66.68%	240,890	69,524	28.9%	110,839	45.9%	11,200	4.7%	47,538	19.7%	4,190	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
	12年 第12区計	375,902	221,321	58.88%	215,747	74,476	34.1%	47,834	22.2%	50,976	23.6%	10,871	5.0%	5,574	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
	03年 比例区12区計	8,367	-23,759	-7.8%	-25,143	-3,952	-5.2%	32,590	15.1%	0	0	0	0	1,384	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
	05年 比例区12区計	351,527	198,771	56.55%	195,117	64,124	32.9%	79,889	40.9%	13,266	6.8%	14,342	7.4%	3,654	
	候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二		
09年 比例区12区計	367,535	245,080	66.67%	241,235	54,700	22.5%	103,371	42.8%	15,087	6.3%	24,650	10.2%	2,684		
候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二			
12年 比例区12区計	375,902	221,321	58.87%	217,569	53,305	24.5%	103,371	47.8%	22,522	10.4%	12,371	5.7%	3,714		
候補者名				中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二	中塚 郁二			
13区	03年 第13区計	437,761	253,748	57.96%	244,923	139,236	56.8%	86,956	35.2%	計屋 圭宏	近藤 知明	近藤 知明	近藤 知明	8,825	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
	05年 第13区計	443,977	292,315	65.84%	285,438	174,361	61.1%	88,170	30.9%	22,907	8.0%	22,907	8.0%	6,877	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
	09年 第13区計	453,308	305,272	67.34%	299,577	136,164	45.5%	138,104	46.1%	18,721	6.2%	6,588	2.2%	5,695	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
	12年 第13区計	461,285	267,413	57.97%	260,081	111,733	43.0%	111,733	43.0%	43,754	16.8%	15,131	5.8%	7,332	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
	03年 比例区13区計	7,977	-37,859	-9.4%	-39,496	-24,431	-2.5%	99,467	19.5%	0	0	0	0	1,637	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
	05年 比例区13区計	444,380	292,371	65.79%	288,099	120,942	42.0%	82,312	28.6%	10,684	3.7%	16,514	5.7%	2,684	
	候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明		
09年 比例区13区計	453,308	305,240	67.34%	299,902	76,168	25.4%	132,559	44.2%	20,405	6.8%	12,213	4.1%	3,083		
候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明			
12年 比例区13区計	461,285	267,394	57.97%	261,935	69,251	26.4%	99,016	14.9%	13,513	5.2%	14,609	5.6%	5,459		
候補者名				甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明	甘利 明			
14区	03年 第14区計	411,851	228,394	55.46%	221,565	81,794	36.9%	97,214	43.9%	藤原 正明	藤原 正明	藤原 正明	藤原 正明	6,829	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
	05年 第14区計	418,553	272,354	65.07%	266,391	135,719	50.9%	107,608	40.4%	23,064	8.7%	23,064	8.7%	5,963	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
	09年 第14区計	430,105	290,123	67.45%	284,569	104,631	37.0%	157,644	55.4%	17,844	6.3%	17,844	6.3%	5,554	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
	12年 第14区計	437,769	259,867	59.36%	253,474	100,494	39.6%	100,494	39.6%	39,141	15.4%	14,549	5.7%	6,392	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
	03年 比例区14区計	7,664	-30,256	-8.1%	-31,094	-4,137	-3.9%	39,141	15.4%	0	0	0	0	838	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
	05年 比例区14区計	411,851	228,394	55.46%	223,489	69,312	31.0%	92,838	41.3%	32,583	14.6%	13,518	6.0%	4,905	
	候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎		
09年 比例区14区計	419,101	272,478	65.01%	268,549	108,821	40.6%	83,224	31.0%	9,661	3.6%	33,279	12.4%	4,129		
候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎			
12年 比例区14区計	437,769	259,845	59.36%	255,036	64,531	25.3%	85,895	33.4%	30,103	11.8%	28,503	11.2%	4,809		
候補者名				赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎	赤間 二郎			

資料5-4(つづき)

年次	候補者名	投票者数	投票率	有効投票	自由民主党	民主党	日本維新の会	みんなの党	公明党	日本未来の党	日本共産党	社会民主党	その他の党	無所属	無効票
15区	03年 第15区計	441,394	57.82%	248,718	河野 太郎	酒井 文彦	0	0	0	0	吉田 貞夫	0	0	6,498	2.0%
	候補者名	148,955	59.9%	76,967	勝又恒一郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	6,674	2.7%
	05年 第15区計	446,440	66.73%	292,399	河野 太郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	5,509	1.8%
	候補者名	186,770	63.9%	83,490	勝又恒一郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	3,341	1.1%
	09年 第15区計	454,639	68.44%	307,011	河野 太郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	4,152	1.3%
	候補者名	163,470	53.2%	124,414	河野 太郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	19,144	7.4%
	12年 第15区計	456,520	56.94%	240,802	河野 太郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	4,924	2.0%
	候補者名	188,111	51.13%	111,983	河野 太郎	勝又恒一郎	0	0	0	0	西脇 拓也	0	0	4,567	1.5%
	03年 前回の比較	1,881	-11.5%	-66,209	29,134	29,134	0	0	0	0	0	0	0	2,864	0.9%
	05年 前回の比較	441,394	57.82%	249,652	87,008	87,008	0	0	0	0	0	0	0	6,320	2.4%
	09年 前回の比較	446,440	66.73%	293,388	123,022	123,022	0	0	0	0	0	0	0	3,456	1.5%
	12年 前回の比較	454,639	68.44%	305,618	136,231	136,231	0	0	0	0	0	0	0	2,864	0.9%
16区	03年 第16区計	431,606	58.01%	250,363	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,972	2.8%
	候補者名	1,408	-40.48%	-41,837	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	1,355	0.9%
	05年 第16区計	424,331	64.77%	268,763	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,941	3.1%
	候補者名	159,268	59.3%	87,991	後藤 祐一	後藤 祐一	0	0	0	0	0	0	0	6,059	2.2%
	09年 第16区計	430,198	67.61%	285,228	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	5,617	1.9%
	候補者名	113,341	39.7%	67,721	後藤 祐一	後藤 祐一	0	0	0	0	0	0	0	6,972	2.8%
	12年 第16区計	431,606	58.01%	243,391	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,972	2.8%
	候補者名	1,408	-40.48%	-41,837	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	1,355	0.9%
	03年 前回の比較	1,408	-40.48%	-41,837	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	1,355	0.9%
	05年 前回の比較	424,331	64.77%	268,763	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,941	3.1%
	09年 前回の比較	430,198	67.61%	285,228	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,059	2.2%
	12年 前回の比較	431,606	58.01%	243,391	亀井 善之	亀井 善之	0	0	0	0	0	0	0	6,972	2.8%
17区	03年 第17区計	422,156	57.51%	235,796	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	7,005	3.0%
	候補者名	1,352,067	57.3%	713,206	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	6,063	2.1%
	05年 第17区計	424,037	67.42%	279,843	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	5,681	1.9%
	候補者名	169,825	60.7%	89,901	神山洋介	神山洋介	0	0	0	0	0	0	0	5,464	2.1%
	09年 第17区計	427,538	69.73%	292,432	牧島かれん	牧島かれん	0	0	0	0	0	0	0	6,022	2.3%
	候補者名	105,806	36.2%	53,678	神山洋介	神山洋介	0	0	0	0	0	0	0	5,464	2.1%
	12年 第17区計	426,043	58.33%	252,871	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	7,005	3.0%
	候補者名	1,495	-9.1%	-39,778	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	6,063	2.1%
	03年 前回の比較	1,495	-9.1%	-39,778	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	5,464	2.1%
	05年 前回の比較	422,156	57.51%	235,796	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	7,005	3.0%
	09年 前回の比較	424,037	67.42%	279,843	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	6,063	2.1%
	12年 前回の比較	426,043	58.33%	252,871	河野 洋平	坂口 直人	0	0	0	0	0	0	0	7,005	3.0%
18区	03年 第18区計	316,614	55.68%	176,284	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	5,432	3.2%
	候補者名	38,001	33.9%	20,852	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	4,360	2.1%
	05年 第18区計	324,006	65.54%	208,009	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	3,918	1.7%
	候補者名	111,787	53.7%	77,877	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	6,769	3.3%
	09年 第18区計	342,219	67.13%	225,826	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	2,851	1.5%
	候補者名	82,221	36.4%	48,221	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	3,426	2.0%
	12年 第18区計	351,874	59.10%	201,204	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	2,370	1.0%
	候補者名	112,124	36.4%	62,333	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	3,801	1.8%
	03年 前回の比較	9,655	-8.0%	-24,622	112,124	112,124	0	0	0	0	0	0	0	1,431	0.8%
	05年 前回の比較	316,614	55.68%	176,284	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	5,432	3.2%
	09年 前回の比較	324,006	65.54%	208,009	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	4,360	2.1%
	12年 前回の比較	351,874	59.10%	201,204	山際大志郎	山際大志郎	0	0	0	0	0	0	0	5,432	3.2%

※出所：各年の神奈川県選挙管理委員会「衆議院小選挙区選出議員選挙の結果」及び「衆議院比例代表選出議員選挙神奈川県選挙分会」をもとに上林作成

2013年 3月30日

自治研かながわ月報第139号(2013年特別号, 通算203号)

発行所	公益社団法人	神奈川県地方自治研究センター
発行人	上林得郎	編集人 高岡政行 定価1部500円
〒232-0022	横浜市南区高根町1-3	神奈川県地域労働文化会館4F
	☎045(251)9721(代表)	FAX 045(251)3199
	http://kjk.gpn.co.jp/	E-mail:kjk@gpn.co.jp

☆センターのウェブサイト (<http://kjk.gpn.co.jp/>) をご利用下さい。→



会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月 1,000 円、賛助会員月 700 円のどちらかを選び、1 年分をそえてお申しこみください。
3. 詳細は自治研センター事務局
☎ 045(251)9721へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A 5 版・80 ページ程度・定価 800 円) が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。